

Kofax TotalAgility

機能ガイド

バージョン: 7.9.0

日付: 2021-04-07

KOFAX

© 2021 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

序文.....	10
TotalAgility の概要.....	10
オンプレミス マルチテナンシー.....	10
Kofax Analytics for TotalAgility.....	10
関連ドキュメント.....	11
トレーニング.....	12
Kofax 製品のヘルプの入手.....	12
第 1 章: イメージ作成.....	13
第 2 章: 変換.....	14
分類.....	14
学習可能なドキュメントの分割.....	14
クラスタリング.....	14
構造化されていないドキュメントからの抽出.....	15
請求書からの抽出.....	15
フォームからの抽出.....	15
抽出 - 小切手の処理.....	15
データベースの抽出.....	15
抽出 - その他.....	15
光学文字認識 (OCR).....	16
自然言語処理.....	16
名前付きエンティティ ロケータ.....	16
センチメント ロケータ.....	17
カスタム エンティティ.....	17
Kofax Search and Matching Server (KSMS).....	17
第 3 章: ケースおよびビジネス プロセスのモデリング.....	18
ビジネス プロセス モデリング表記 (BPMN).....	18
開始ノード.....	18
開始ノードのイベント タイプ.....	18
アクティビティ.....	19
注釈.....	19
添付.....	19
終了ノード.....	19
プロセス パス.....	20
決定.....	20

分岐ルール.....	21
依存先.....	21
事前条件.....	22
ループ.....	23
プロセス マップの管理.....	23
方向.....	23
プロセスの再配置.....	23
ライン.....	23
グリッドにスナップ.....	23
自動配置.....	23
ズーム.....	23
元に戻す/やり直し.....	23
変数.....	24
プロセス変数の例.....	24
初期化変数.....	24
変数タイプ.....	24
アクティビティ タイプ.....	28
一般的なアクティビティ.....	29
キャプチャ アクティビティ.....	32
Kofax アクティビティ.....	38
Microsoft アクティビティ.....	40
CMIS アクティビティ.....	44
Micro Focus アクティビティ.....	45
スクリプト アクティビティ.....	46
その他のアクティビティ.....	48
カスタム サービス アクティビティ.....	53
アクティビティの入出力.....	53
サービス レベル契約.....	54
時間とコスト.....	55
プロセスの時間とコスト.....	55
アクティビティの時間とコスト.....	55
通過ポイント.....	57
状態.....	58
再起動アクション.....	58
イベント アクション.....	59
新しいジョブ アクション.....	59
プロセス イベント.....	59
メモ.....	60

データ モデル.....	60
ロール.....	60
ロールのタイプ.....	61
リソース割り当て.....	62
固定リソースと動的リソース.....	62
手動割り当てと動的割り当て.....	63
ルールの適用によるリソースの割り当て.....	64
リソースとの通信.....	65
アクティビティ通知.....	65
リソース メモ.....	65
アラート.....	66
トリガー.....	66
トリガー タイプ.....	66
トリガーの作成.....	66
プロセス トリガー.....	67
通過ポイント トリガー.....	68
アクティビティ トリガー.....	69
予測可能モデル.....	70
アクセス.....	71
メンテナンス アクセス.....	71
リリース時.....	72
デフォルトの設定.....	72
アクティビティのデフォルト.....	72
アクティビティ通知のデフォルト.....	72
プロセス変数.....	73
ケースの完了.....	73
履歴、レポート、および実行.....	73
履歴.....	73
レポート.....	74
実行.....	74
例外.....	75
プロセスの関連付け.....	75
ケースの定義.....	76
フラグメント.....	77
プロセスとケースの比較.....	77
ドキュメント プロセス.....	77
ビジネス ルール.....	78
スキン.....	78

テンプレート.....	79
ルール.....	79
カスタム サービス.....	79
システム プロセス.....	80
システム: Active Directory の同期.....	80
システム: 完了した委任の確認.....	80
システム パスコード通知.....	81
システム: 自動作業割り当ての実行.....	81
システム: 電子メール アクティビティの処理.....	81
システム: パスワードのリセット.....	82
システム: 数量のリセット.....	82
プロセスの保存およびリリース.....	82
プロセスを元に戻して削除.....	83
プロセスを元に戻す.....	83
プロセスの削除.....	83
モニタリング.....	83
ビジネス イベント.....	84
ビジネス アラート.....	84
ビジネス ターゲット.....	84
第 4 章: ユーザー インターフェイスをモデル化する.....	85
フォームを自動的に生成する.....	85
手動でのフォームの作成.....	87
ツールボックス.....	87
レイアウト.....	88
一般的なコントロール.....	88
入力タイプ.....	90
拡張コントロール.....	91
フォーム初期化.....	97
フォーム イベントとアクション.....	98
フォーム アクション.....	98
フォーム イベント.....	100
フォーム変数.....	112
フォーム変数タイプ.....	112
フォームの展開.....	112
フォームのデバッグ.....	112
アクティビティとフォームとの関連付け.....	113
サイト.....	113
テーマ.....	113

グローバル変数.....	114
セキュリティ トークン.....	114
ナビゲーション.....	115
顧客アセット.....	115
フォーム バリエーション.....	115
第 5 章: Workspace.....	116
作業の作成.....	116
ジョブ、ケース、フラグメントの作成.....	116
ジョブまたはケースのプロパティ.....	116
ジョブやケースの検索.....	116
作業の管理.....	117
作業キュー.....	117
クエリ パネル.....	117
アクティビティの取得と完了.....	117
委任作業.....	117
作業の再割り当て.....	117
手動での作業割り当て.....	117
取得済みアクティビティのリセット.....	117
ライブ ジョブとアクティビティの変更.....	118
ジョブのホールド.....	118
ビジネス カレンダー.....	118
システムの管理.....	118
ログオン ユーザー.....	118
監査ログ.....	119
ジョブのアップグレード.....	119
終了済みジョブの削除.....	119
パフォーマンス統計.....	119
第 6 章: TotalAgility のリソース.....	120
個人リソース.....	120
グループ リソース.....	120
外部リソース.....	121
電子メール アドレス.....	121
パスワード.....	121
ペルソナ.....	121
リソースの拡張.....	121
作業グループ.....	122
スーパーバイザー.....	122
セキュリティ レベル.....	122

スキル レベル.....	122
変動コストおよび固定コスト.....	122
アクティブな期間.....	123
作業カテゴリ.....	123
Active Directory の同期.....	123
第 7 章: システム データ.....	124
サーバー変数.....	124
正規表現.....	124
ルックアップ.....	124
ドキュメント テンプレート.....	125
通貨コード.....	125
チェックリスト テンプレート.....	125
チェックリスト項目.....	127
作業タイプ.....	128
データ モデル.....	129
第 8 章: キャプチャ.....	130
抽出グループ.....	130
分類グループ.....	130
フォルダ.....	131
ドキュメント/アクティビティ バリエーション.....	131
フィールド フォーマット.....	132
フィールド バリデータ.....	132
フィールド ズーム設定.....	133
ドキュメント変換プロファイル.....	133
PDF プロファイル.....	133
スキャン/VRS プロファイル.....	133
スキャン/VRS プロファイルと Web Capture サービスの VRS Elite との関係.....	134
MFP スキャンにスキャン/VRS プロファイルを使用する.....	134
分割プロファイル.....	135
コントロール レイアウト.....	135
第 9 章: 翻訳.....	136
第 10 章: クエリ.....	138
第 11 章: システム.....	139
カテゴリ.....	139
ジョブ スケジュール.....	140
システム設定.....	140
データベース、保持、およびレポート.....	140
ユーティリティ.....	144

プロセス.....	145
ログオンおよび認証.....	147
システム.....	153
ユーザーの動作.....	161
ライセンス サーバーと統計.....	168
キャプチャ.....	168
アクセス制御リスト.....	170
アプリ.....	171
第 12 章: パッケージ.....	174
第 13 章: 他のシステムとの統合.....	177
Web サービス レファレンス.....	177
.NET アセンブリ.....	178
RPA.....	178
Insight.....	178
SignDoc.....	178
KCM.....	179
インポート設定.....	179
アクティブ インポート ソース.....	179
パッシブ インポート ソース.....	180
リンク済みサーバー.....	180
Micro Focus Content Manager.....	180
CMIS.....	181
SharePoint.....	181
Dynamics CRM.....	182
Dynamics AX.....	182
Exchange.....	182
ControlSuite.....	183
カスタム サービス グループ.....	183
OAuth 2.0 サーバー.....	183
OAuth 2.0 認証付与タイプ.....	185

序文

このガイドでは、Kofax TotalAgility の機能の概要について説明します。

TotalAgility の概要

TotalAgility は、重要なビジネス インタラクションを変換および簡素化するインテリジェント オートメーションプラットフォームです。TotalAgility を使用して、継続的に改善するビジネス プロセスを設計、開発、展開すると、顧客エンゲージメント、プロセスの実行効率、ビジネスの俊敏性が向上します。

TotalAgility は、マルチチャネル情報キャプチャ、ビジネス プロセス管理、適応型ケース管理、モバイル機能を備えた単一の結合型製品オファリングです。

TotalAgility は、Kofax Insight、RPA、Kofax SignDoc、および Kofax Communication Manager の各種製品との事前構築された結合を通じて、ビジネス インテリジェンス (BI) と分析、高度なデータ結合、電子署名機能をサポートします。

オンプレミス マルチテナンシー

オンプレミス マルチテナント バージョンの TotalAgility では、共有サービス センター (SSC) およびビジネス プロセス アウトソーサー (BPO) からソフトウェア/ソリューションを顧客ベース (テナント) に提供できます。このバージョンには、以下が含まれています。

- テナント管理システム (テナントの作成および管理用)
- ライブ (本番) 環境
- 開発環境

オプションのオンプレミス マルチテナント バージョンの TotalAgility を活用すると、すべてのテナントにサービスを提供するソフトウェアの単一インスタンスをデプロイして、各テナントの独自のデータ セットを他のすべてのテナントのデータから隔離したままにできます。

Kofax Analytics for TotalAgility

Kofax Analytics for TotalAgility は、TotalAgility の拡張機能で、ワークフローを通過するデータを追跡して、ビジネス インテリジェンス (BI) ダッシュボードを作成します。このダッシュボードは、ワークフローを通過するデータの追跡、プロセスとリソースの有効性のリアルタイムでの分析、ビジネス上の問題への対処に役立ちます。

データベースに格納されているデータは、グラフ、グリッド、ピボット テーブル、およびレポートで構成された標準またはカスタムのビューで表示されます。TotalAgility のインストール内のユーザー追跡テーブルおよび外部データベースから情報を抽出することもできます。

関連ドキュメント

Kofax TotalAgility のドキュメント セット一式は次の場所から入手できます。

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/KTA/7.9.0-ud9cfx6hos/KTA.htm>

このガイドのほか、ドキュメント セットには次の項目が含まれています。

- Kofax TotalAgility 前提条件ガイド: TotalAgility をインストールするためのシステム要件、前提条件ユーティリティの実行手順、さまざまなインストール タイプに応じたソフトウェア チェックリストが含まれています。
- Kofax TotalAgility インストール ガイド: TotalAgility のインストールおよび構成方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 統合サーバー インストール ガイド: Kofax 統合サーバーをインストールし、他の製品と結合する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント インストール ガイド: オンプレミス マルチテナント システムのインストールおよび構成方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド: 構成ユーティリティを使用して、さまざまなタイプのインストールおよび展開の各種構成ファイルの設定を更新する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 管理者ガイド: TotalAgility のインストールの構成とメンテナンスに関する情報を管理者に提供します。
- Kofax TotalAgility アーキテクチャ ガイド: オンプレミス、オンプレミス マルチテナンシー、Azure 環境のさまざまな展開を含め、TotalAgility アーキテクチャの概要について説明します。
- Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイド: TotalAgility を使用する場合に、パフォーマンス、コスト、メンテナンス、可用性、およびセキュリティを改善するために従う必要があるベスト プラクティスについて説明します。
- Kofax TotalAgility 移行ガイド: 異なるバージョンからの TotalAgility のアップグレードおよびアップグレード後の構成に関する情報を提供します。
- Kofax TotalAgility のヘルプ: TotalAgility を使用した、ビジネス ジョブとケースの設計、リソースの割り当て、フォームの作成、外部アプリケーションとの結合などに関する詳細を提供します。TotalAgility アプリケーションからヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
- Kofax TotalAgility Workspace のヘルプ: Workspace を使用してアクティビティ、ジョブ、およびリソースを管理する方法について説明します。TotalAgility Workspace からヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
- Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムのヘルプ: TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムを使用してテナントを作成および管理する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility Web Capture コントロールのヘルプ: Web Capture コントロールを使用した、複数ページのドキュメントの作成、新しいフォルダでの新しいドキュメントの作成、誤ってスキャンされたページの削除などに関する詳細を提供します。また、Web Capture コントロール ツールバーで使用可能なボタンについても説明します。
- Kofax Analytics for TotalAgility 製品機能ガイド: ワークフローを通過するデータの追跡、プロセスとリソースの有効性の分析、ビジネス上の問題への対処に役立つダッシュボードの概要について説明します。
- Kofax TotalAgility のテーブル: Kofax Analytics for TotalAgility で使用される TotalAgility のテーブルとフィールドについて説明します。

- Kofax 製品からの移行ガイド: TotalAgility ファイルおよび Kofax Transformation Modules プロジェクトの TotalAgility への移行に関する情報を提供します。

トレーニング

Kofax は、製品を最大限に活用するために役立つクラスルーム トレーニングおよびオンライン トレーニングを提供しています。トレーニング コースとスケジュールの詳細については、Kofax の Web サイトにある [Kofax Education Portal](#) (Kofax エデュケーション ポータル) にアクセスしてください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Base](#)] (Kofax ナレッジ ベース) リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Base (ナレッジ ベース) で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Base] (Kofax ナレッジ ベース) を参照するには、[Kofax Web サイト](#) にアクセスして、ホームページで [サポート] を選択してください。

注 Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース) は Google Chrome、Mozilla Firefox または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Base] (Kofax ナレッジ ベース) は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
[**Search**] (検索) ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。
[Kofax Knowledge Base] (Kofax ナレッジ ベース) のホームページをスクロールして、製品ファミリーを見つけます。目的の製品ファミリー名をクリックして、関連記事の一覧を表示します。一部の製品ファミリーの場合は、関連記事を表示するために Kofax Portal (Kofax ポータル) の有効なログイン情報を入力する必要があります。
- [Kofax Customer Portal] (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (資格のあるカスタマー向け)
ページ上部にある [**Customer Support**] (カスタマー サポート) リンクをクリックしてから、[**Log in to the Customer Portal**] (カスタマー ポータルにログイン) をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (資格のあるパートナー向け)
ページ上部にある [**Partner Support**] (パートナー サポート) リンクをクリックしてから、[**Log in to the Partner Portal**] (パートナー ポータルにログイン) をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
[**General Support**] (一般サポート) セクションまでスクロールして、[**Support Details**] (サポートの詳細) をクリックし適切なタブを選択します。

第 1 章

イメージ作成

TotalAgility を使用すると、アプリケーション、プロセス、リポジトリに対する自動分類、抽出、検証、配信に使用するあらゆるタイプのコンテンツをキャプチャでき、組織において多大な労力を必要とするプロセスを大幅に削減できます。

ビジネス プロセスの任意の時点で情報をキャプチャでき、人の介入なしで情報を抽出、分割、分類、検証して完成させることができます。たとえば、ローンの申請手続きを始めると、金融機関が収入証明や信用報告書などの書類を求めてくる場合があります。このような情報をモバイル デバイスやタブレット デバイスなどの任意のソースからいつでも取得して、ローンの申請手続きに利用することができます。

ドキュメントの分類、再利用を目的としたスキャナまたはデバイスの設定の定義、キャプチャ時のドキュメントの分割およびフォルダへの自動配置を行うことができます。

イメージ (またはイメージから自動的に抽出されたイメージとテキストの両方) を PDF または他のファイル形式にエクスポートし、解像度や品質などを定義できます。テキストとグラフィックを識別し、HTML および XML ファイル形式に変換することで、視覚障害者向けの支援ソフトウェアに確実に認識させることができます。

TotalAgility には、プロセス フロー定義の一部として使用できるさまざまなキャプチャ ノードが用意されています。ノードには、スキャン、抽出、分類、イメージ処理があります。プロセスでこれらのノードを使用すると、受信ドキュメントおよび情報のキャプチャを効率的かつ効果的に管理できます (「[キャプチャ アクティビティ](#)」を参照)。

これらのノードは次の作業に役立ちます。

- 単一のドキュメントまたは一連のドキュメントをスキャンする。
- ドキュメントをドキュメント タイプに基づいて特定のフォルダに分類する。
- ドキュメントからデータを抽出して格納する。
- プロセス内でドキュメントとフォルダを検証、確認、およびレビューする。
- インポートされたイメージおよび MFP からスキャンされたイメージを処理する。
- エクスポート コネクタを使用して、ドキュメントとフォルダを「記録システム」にエクスポートする。レコード システムには、データベース、IBM/FileNet、EMC/Documentation、SharePoint などがあります。
- 2 台のリンク済み TotalAgility サーバー間でドキュメントまたはフォルダを転送する。

さらに、TotalAgility では、受信ドキュメントを必要とするプロセスを自動的に開始、再起動、または待機状態から起動できます。[スキャンから初期化] プロパティを使用すると、このプロセスの自動開始が有効になります。たとえば、ローン申請ドキュメントの受信時に「ローン承認」プロセスのインスタンスが開始されます。

キャプチャ機能の詳細については、この機能ガイドのさまざまなセクションをご覧ください。

第 2 章

変換

変換は、データを情報に変換するために使用されるテクノロジーです。変換機能で生データを処理し、意味のある情報に変換します。ドキュメントの変換には、光学文字認識 (OCR)、分類、分割、抽出、フォーマット設定、検証などの手順が含まれます。

Kofax TotalAgility の変換機能には、これらの手順を構成、テスト、およびベンチマークするための高度なツールとユーティリティが含まれます。

分類

Kofax TotalAgility では、レイアウト、コンテンツ、ルールに基づいた分類を使用できます。分類は「サンプルから学習」方式で行われ、個々のドキュメント タイプを表すサンプル イメージを用意する必要があります。ソフトウェアは、これらのサンプルを分析することで、クラスを区別する方法を学習します。サンプルからの学習による分類を強化するために、ルールベースの分類を使用できます。

学習可能なドキュメントの分割

学習可能なドキュメント分割 (TDS) は、ドキュメント内の各ページを調べ、いくつかの分類結果オプションを割り当てる分類ベースの分割テクノロジーです。ページ分類の結果は周囲の他のページと比較、評価され、ページをより小さいドキュメントに分割する最も論理的な方法が決定されます。分類と同様に TDS はサンプルから学習するため、構成を行うためには、正しく分割されたサンプル ドキュメントのみが必要になります。

クラスタリング

Transformation Designer ではクラスタリングを使用して、コンテンツに基づくドキュメントの整理を行います。不明なドキュメントのセットを処理し、コンテンツまたはレイアウトに基づいて、クラスタリング機能によりドキュメントをグループとして整理します。複数のクラスタリングが反復され、処理の各ステップでユーザーによる操作が必要になります。クラスタリング機能は変更から学習し、プロセス全体におけるクラスタリングの結果を改善します。このプロセスの結果は、既知のドキュメントのセットとして、関連したクラス名を持つ階層に編成されます。分類と分割の学習、ベンチマーク、テスト用にプロジェクトでこの階層を使用することができます。

構造化されていないドキュメントからの抽出

一貫したレイアウトを持たないドキュメントからデータを抽出するために、サンプルから学習するロケータを使用できます。このロケータを使用して、一意の契約、文書、建築図面、またはエッセイや手書き原稿からデータを抽出します。数値データや非数値データなど、任意のタイプのデータを抽出できます。また、未知の形式を抽出する場合も、自然言語テキストによって適切に抽出します。

請求書からの抽出

請求書からの抽出を行うために、複数のロケータ (サンプルから学習するロケータを含む) を使用できます。ヘッダー データ、ライン アイテム、金額がサポートされます。発注書データベースを使用したライン アイテムの照合、および発注書 (PO) を参照しないライン アイテムの抽出が可能です。

フォームからの抽出

フォーム用の特別なロケータにより、複数ページのフォームのゾーンをすばやくセットアップできます。背景 (事前印刷されたゾーンとラベル) を自動的に削除し、光学文字認識 (OCR) またはインテリジェント文字認識 (ICR) への入力が可能な限り最善になるようにします。ゾーンは自動的に登録され、スキャンされたイメージの一般的なシフト、伸長、傾き補正が行われます。

抽出 - 小切手の処理

小切手からデータを抽出するため、手書き認識およびドキュメント管理用の A2iA テクノロジーがサポートされています。

データベースの抽出

データベース テーブルをファジーに使用することで、請求書を送信するベンダーや、手紙を送信する顧客を表すデータベース レコードなどの既知のデータを抽出するための強力なツールになります。簡単に設定可能なこのテクノロジーを使用して、ドキュメントの送信者を特定できます。

抽出 - その他

追加のロケータを使用することで、高度にカスタマイズされたスクリプトを含む、ほぼすべてのニーズに合わせた抽出を構成できます。

光学文字認識 (OCR)

Kofax TotalAgility には、高度な OCR 機能が用意されています。OCR は、分類および抽出の基礎として機能します。OCR テキストの全体を保存して、リポジトリ内のドキュメントのインデックス作成や検索を行うこともできます。フル ページ ICR は A2iA で利用可能な機能です。また、バーコードの抽出がサポートされています。次のようなバーコードがサポートされています:

- Codabar
- Code 128
- Code 39
- Code 93
- EAN 8
- EAN 13
- IATA 2 of 5
- Interleaved 2 of 5
- UPC-A
- UPC-E
- Postnet
- Check Code 39
- Check Interleaved 2 of 5
- Check Codabar
- PDF417
- Micro PDF417
- Aztec
- DataMatrix
- QR Code
- Micro QR Code

OCR は 170 以上の言語をサポートしています。

自然言語処理

自然言語処理エンジンを使用して、名前付きエンティティや、ドキュメントの印象またはセンチメントを抽出できます。このエンジンは別途インストールされ、複数の言語をサポートしています。名前付きエンティティ ロケーターを使用すると名前付きエンティティ ロケーターを抽出でき、センチメント ロケーターを使用するとドキュメントのセンチメントを判別できます。スクリプトのみを使用して抽出結果をさらに処理することや、名前付きエンティティ ロケーターまたはセンチメント ロケーターとスクリプトを併用して結果をさらに処理することもできます。

名前付きエンティティ ロケーター

このロケーターは、抽出されたエンティティをフィールドに割り当てるために使用します。単純なフィールドを使用してエンティティ名のみを抽出できます。また、テーブル フィールドを使用して、工

ンティティ名だけでなく、エンティティの信頼度、エンティティタイプ、およびエンティティのセンチメントも抽出できます。エンティティを抽出したら、必要に応じてスクリプトをカスタマイズして、結果を解釈する必要があります。

センチメント ロケーター

このロケーターは、ドキュメントからテキストのセンチメントを抽出します。そのため、センチメントロケーターは、ドキュメント内で見つかった単語やフレーズに基づいて、そのドキュメントの全体的な印象やセンチメントを判別できます。センチメントが抽出されたら、必要に応じてスクリプトをカスタマイズして、結果を解釈する必要があります。

カスタム エンティティ

独自のカスタム エンティティを定義できます。定義した場合、特定のエンティティがドキュメント内で見つかると、カスタム エンティティ ファイルを参照して、抽出結果の確認が行われます。カスタム エンティティでは複数の言語をサポートしています。

Kofax Search and Matching Server (KSMS)

このスタンドアロンの 64 ビット サーバーは、複数の CPU を使用して、データベース内でのファジー検索をすばやく実行します。KSMS を使用して、ドキュメントからデータを抽出するか、オペレーターが入力したデータを検索します。

第 3 章

ケースおよびビジネス プロセスのモデリング

TotalAgility を使用すると、プロセス、ケース、ケース フラグメント、ビジネス ルール、テンプレート、およびスキンを作成、表示、編集、削除できます。変数、通過ポイント、状態、リソースなどのサポート アーティファクトを管理したり、翻訳を管理したりすることもできます。また、プロセス、作業割り当てルール、および言語をインポートおよびエクスポートできます。

ビジネス プロセス モデリング表記 (BPMN)

TotalAgility はプロセス設計に BPMN を使用します。

BPMN は、プロセス モデリングとプロセス実装の橋渡しを行います。BPMN は、技術開発者とビジネス ユーザーの両方が容易に理解できます。ビジネス ユーザーが直感的に使用できる一方で、複雑なプロセス セマンティクスを表現できるグラフィカルな表記を提供します。

開始ノード






開始ノードは、プロセス パスの開始を示します。

標準の BPMN イベント タイプを使用して、プロセスの開始時に (開始ノードで) 何かが発生したことを示すことができます。

開始ノードのイベント タイプ

開始ノードのイベント タイプは、プロセスの開始をトリガーする状況を示します。これらは視覚的に補助するだけです。イベントをトリガーしたり、機能を実行したりすることはありません。

次の表に、開始ノードで利用可能なイベント タイプと、対応する BPMN 標準表記を示します。

イベント タイプ	BPMN 標準表記	説明
デフォルト		デフォルトの表記を示します。
なし		トリガーが定義されていないことを示します。
メッセージ		顧客からの要求などのメッセージが届いたときにプロセスが開始することを示します。
タイマー		特定の日時または定期的な時刻 (毎週月曜日の午前 9 時など) にプロセスが開始することを示します。
条件付き		残高が特定の値を下回るなどのビジネス条件が満たされた場合に、プロセスがトリガーされることを示します。

イベント タイプ	BPMN 標準表記	説明
シグナル	△	新規顧客の追加などの外部シグナルが発生したときにプロセスがトリガーされることを示します。
複数	⊖	任意のイベントでプロセスを開始できることを示します。
並列複数	+	プロセス内に複数のイベントがあり、すべてのイベントが発生しないとプロセスが開始されないことを示します。

アクティビティ

アクティビティとは、顧客の詳細の取得など、ビジネス プロセス内の個々の手順 (サービス) のことです。

プロセス マップ内のアクティビティには、次のようなさまざまな用途が設定されている場合があります。

- 自動実行されるスクリプト、または入力フォームのようにユーザーからのフィードバックが必要なスクリプトの呼び出し。
- 電子メールを自動的に送信するサードパーティ製ソフトウェア コンポーネントの呼び出し。
- 出力変数および入力変数をビジネス プロセスの他の部分に渡す通常アクティビティ。

注釈

プロセスまたはプロセス内のアクティビティに情報を追加するには、注釈を使用します。

TotalAgility サイトを実装しているユーザーは、この情報を簡単に使用できます。

添付

プロセスまたはプロセス内のアクティビティに追加情報をリンクするには、添付を使用します。

たとえば、調達プロセスの場合は、例外リスト、契約条件、サンプル請求書フォームなどのプロセス関連ドキュメントを添付します。

添付には、Word 文書、Excel スプレッドシート、または PowerPoint プレゼンテーションを使用できます。添付がマップに追加されると、そのマップを開いて添付ファイルを表示するように選択したすべてのユーザーが、この添付を利用できるようになります。

終了ノード

終了ノードは、プロセス パスの終了またはジョブの完了を示します。

プロセスを完了するか、それ以上進行できないプロセスの特定の段階を完了するには、終了ノードを使用します。

BPMN に従い、終了ノードは、ジョブまたはパスの完了方法 (上申、エラー、メッセージなど) を指定することができます。

プロセスに複数の終了ノードを設定できます。終了ノードがジョブを完了するタイプである場合は、他のすべての並列パスが停止されます。

プロセス パス

決定と分岐ルールを使用してプロセス パスを定義します。

決定

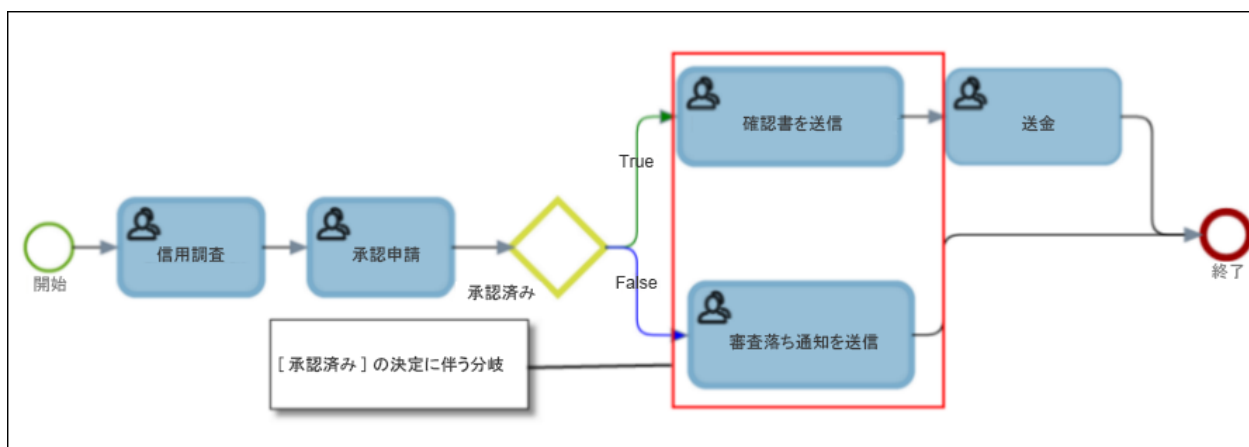
決定とは、ビジネス プロセスが従う必要があるパスを選択するプロセス内のポイントのことです。選択されたパスは、1つまたは複数の条件 (決定ルール) の評価に基づいて決まります。

デフォルトでは、決定ノードには以下が含まれます。

- 1つの条件: ルールが評価される条件です。
- True パス: 決定が true と評価された場合の実行パス。
- False パス: 決定が false と評価された場合の実行パス。

実行時に、決定変数の値はオペランド/キーワードとしてプロセス マップに渡されます。この値は、別の変数または値に対して評価することができます。

たとえば、ローン承認マップで承認決定を行うときに有効になるパスは、確認文字の送信および審査落ち通知を送信の2つです。承認済み条件が true と評価されると、確認文字の送信アクティビティが実行され、その時点で確認文字が顧客に送信され、顧客の貸方勘定に金額が振り込まれます。それ以外の場合は審査落ち通知を送信アクティビティが発生し、その時点でリジェクト文字が顧客に送信されます。



分岐ルール

分岐ルールは、複雑なビジネス ロジックをモデル化する際に役立ちます。分岐ルールは、多数の決定ノードを使用するよりもシンプルで、整然としています。決定とは異なり、相互排他的なパスの最大数は 2 に制限されていません。

- 決定を使用して、排他的選択の決定パターン (2 つの代替パスのうちの 1 つだけがプロセスを続行するために必要となるパターン) をモデル化します。
- 分岐ルールを使用して、複数選択の決定パターン (フローが 2 つ以上の代替パスに分割されるパターン) をモデル化します。

分岐ルールには、以下を含める必要があります。

- 出力先ノードが保留中またはアクティブになる前に満たす必要がある各パス (出力先ノード) の条件 (ビジネス ルール)。どの出力先ノードがアクティブになるかは、出力先ノードについて設定されたビジネス ルールによって決まります。各ビジネス ルールが True と評価された場合、ターゲット出力先ノードのいずれかがアクティブになる可能性があります。また、2 つ以上の結果が有効になる場合があります。
- どの条件も満たされない場合、実行時に実行されるデフォルトのノード。このノードは、プロセス フローが停止するのを防ぎます。

注 出力パスに関するビジネス ルールを指定しない場合は、すべてのパスが通常どおり実行されません。

分岐は、OR (包括的) または XOR (排他的) のいずれかです。

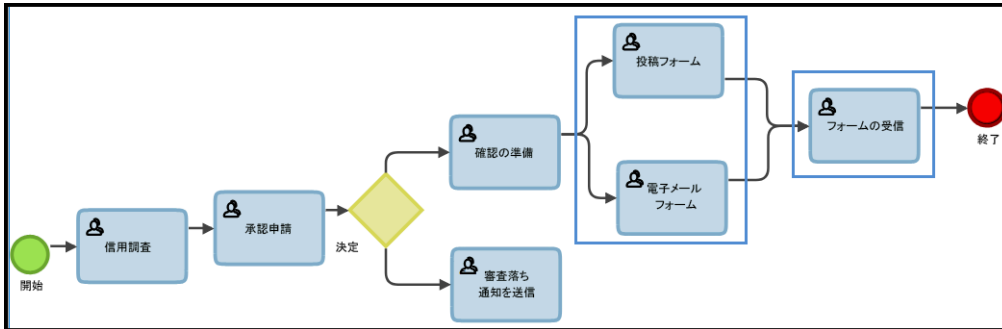
- **OR** 分岐: 1 つ以上、またはすべての出力パスを使用できます。パスは条件によって決まります。どの条件も満たされない場合は、デフォルトのパスが使用されます。
- **XOR** 分岐: 1 つのパスのみを使用できるため、フローが制限されます。複数の True パスが存在する場合、最初のパスはアクティビティ名のアルファベット順に基づいて使用されます。True パスが決定されない場合は、デフォルトのパスが使用されます。複数のパスの条件が満たされている場合は、最初に見つけたパスがアクティブになり、それ以外のパスは無視されます。XOR はすべてのプロセス マップに適用できます。

依存先

依存先とは、アクティビティが完了する際に依存するノード (アクティビティおよび決定) のことです。

ノードには、そこから出力される複数のパス (並列パス) が存在することがあるため、発信元ノードが完了したときに、複数のアクティビティが保留中になる場合があります。

現在のアクティビティが保留中になる前にアクティビティなどの並列ノードを完了する必要がある場合は、依存先を設定します。次に示すローン承認プロセスの例を参照してください。



ここでは、投稿フォーム アクティビティと電子メール フォーム アクティビティが依存先の候補です。フォームの受信は、依存先を設定するアクティビティです。

注 アクティビティと決定に入力パスが 1 つしかない場合は、依存先を設定できません。

事前条件

事前条件とは、アクティビティが保留中になる前(手動アクティビティ)、または進行中になる前(自動アクティビティ)に満たしておく必要があるルールのことです。

事前条件は、ノードが保留中になる前に評価される最後の手順です。依存先などに関する決定は、これよりも先に発生します。事前条件が設定されているアクティビティは、「待機中」アクティビティになります。

たとえば、ローン申請プロセスでは、送金アクティビティ(申請者のアカウントに融資額を送金する)に事前条件を設定して、Signed_Loan_Agreement イベントが発生して記録された後にのみアクティビティが保留中になるようにします。

署名済みの契約書をスキャンしてサードパーティのドキュメント管理システムに取り込むと、このイベントの事前条件が満たされ、送金タスクが保留中に移行できるようになります。このシナリオでは、関連する API メソッドを使用して、TotalAgility に外部イベントが発生したことを通知します。

重要 アクティビティに事前条件が設定されている場合、アクティビティは [イベントの待機中] のステータスになります。これは [保留中] ステータスに似ていますが、アクティビティが誰の作業キューにも表示されず、アクティビティ通知が送信されない点が異なります。他のすべての処理は、保留中になっているアクティビティに基づいて行われます。たとえば、通過ポイントが設定されている場合は、更新されます。

事前条件は、プロセス イベントを使用して定義できます。事前条件は、内部または外部のイベントを発生させることで満たすことができます。事前条件が満たされると、アクティビティは自動的に進行します。

プロセス イベントでは変数とイベント(これらは同じ名前の場合がある)の両方が組み合わさっているため、事前条件を作成する手順が、通常の決定条件の場合よりも若干複雑になります。

事前条件を使用できるのはアクティビティのみです。決定や埋め込みマップでは使用できません。

ジョブの存続期間中は事前条件を再評価して、ステータスがイベントの待機中であるジョブ内のすべてのアクティビティを再評価することができます。たとえば、ジョブの開始後に事前条件値を手動で変更

した場合は、事前条件を再評価できます。新しい事前条件値に照らして、ジョブ内のすべてのアクティビティを再評価する必要があります。

ループ

ローン申請プロセスにおける顧客への連絡など、一部のアクティビティはいつでも利用可能です。そうしたアクティビティについては、ループを追加できます。アクティビティを選択し、アクティビティの中心からドラッグすると、ループが作成されます。アクティビティはそのアクティビティ自体にループします。

プロセス マップの管理

マップを管理するには、このセクションの情報を使用します。

方向

プロセスまたは対象ユーザーに応じて、マップ レイアウトの方向を垂直から水平に、またはその逆に変更できます。プロセスは必要に応じて再描画されます。

プロセスの再配置

「プロセスの再配置」機能は、プロセス マップが読みやすくなるように自動的に再描画します。

ライン

ラインはプロセスのレイアウトを支援します。

グリッドにスナップ

「グリッドにスナップ」機能は、アクティビティを最も近いグリッドに自動的に揃えます。

自動配置

「自動配置」機能は、現在のアクティビティに従って、アクティビティを最も近いグリッドに自動的に水平に配置します。決定に追加されたアクティビティは、決定の上または下に配置されます。[自動配置] オプションがオフになっている場合は、アクティビティを目的の場所にドラッグできます。

ズーム

パンおよびズーム機能は、プロセス マップを効果的にナビゲートするのに役立ちます。大きなプロセス マップを簡単に拡大および縮小できます。

元に戻す/やり直し

[アクション] バーの [元に戻す] ◀ または [やり直し] ▶ ボタンを使用して、プロセス内の変更を元に戻すか、やり直すことができます。入力や設計の変更など、最大で 30 回分の更新を元に戻したり、やり直し

たりすることができます。「元に戻す/やり直し」のリストは、[設計] タブ以外の領域で更新が行われるとクリアされます。

変数

変数は、実行時に取得される値の保存場所です。変数を使用する目的は、データを保存すること、およびアクティビティ間でデータを転送することです。ビジネス プロセスを設定する場合や作成する場合は、変数が不可欠です。また、実行パスを決定する場合にも変数が使用されます。

サーバー レベルとプロセスレベルの両方で変数を作成できます。

特定のプロセスのデータを保存するには、プロセス変数を使用します。プロセス変数には、プロセスの実行中に変更される項目の値が保持されます。これらの値は、作成するときに使用されるマップに対してローカル (プライベート) です。プロセス (およびケース) 変数は、単純変数 (1 つの値) または複合変数 (値の配列) のいずれかです。

TotalAgility はブール、通貨、日付、Float、Long、チェックリスト、複合およびダイナミック複合、文字列などの多くの変数をサポートしています。

プロセス変数の例

変数名	タイプ	値
CUSTNAME	文字列	JuliaR
CUSTADDRESS	文字列	Hollywood
AMOUNT	Double	100000
Approved	ブール値	True

初期化変数

システムでプロセスを実行するには、初期情報が必要です。たとえば、ローン申請を処理するには、顧客の詳細と融資額が必要です。初期値変数とは、ジョブの作成時に値を指定する必要があるプロセス変数のことです。ローン申請プロセスの場合は、顧客 ID、顧客名、融資額などのプロセス変数を作成し、融資額を初期値変数として宣言することができます。

初期化変数の順序は、Designer 内で構成可能です。

変数タイプ

TotalAgility は、プロセス内のブール値、バイト、通貨、小数、Double、Float、Long、Short、およびテキストといった型の変数をサポートしています。

TotalAgility は次のタイプの変数もサポートしています。

チェックリスト変数

チェックリスト変数は、品質チェックおよび品質サンプリングのチェックリスト情報を保持するために使用されます。単一のチェックリスト変数に、複数のチェックリスト項目を含めることができます。

複合変数

製品の詳細リストのような表形式または配列ベースのデータ値を保持するには、複合変数を使用します。2種類の複合変数を使用できます。

固定複合

固定複合変数は、潜在的に異なるデータ型の変数からなる配列 (グループ) です。固定複合変数には、ジョブ全体にわたる、自身のセルとプロセス変数とのマッピングが保持されます。マップされた変数値がジョブ内で更新されるたびに、固定複合変数セルに更新内容が反映されます。

注 固定複合変数を作成できるのは、プロセスに対してのみです。サーバー変数として作成することはできません。

ダイナミック複合

データ オブジェクト変数

データ オブジェクト変数を使用して、データ モデル (グローバルまたはローカル) を保持します。このデータ モデルは、プロセスとフォームで使用できます。

同じデータ モデルまたは異なるデータ モデルを参照する複数のデータ オブジェクト変数を作成できます。

データ オブジェクト変数を使用して、RESTful サービスから送信された要求や受信された応答を格納できます。

データ バックボーン変数

データ バックボーン変数は、選択した KCM (Kofax Communications Manager) サーバー内のプロジェクトに直接マッピングされ、そのプロジェクトに属するデータ バックボーンへのアクセスを許可して、プロジェクト内のデータを取得または設定します。各 KCM プロジェクトは、1つのデータ バックボーンで構成されています。データ バックボーンは、そのプロジェクト内でドキュメントを作成するために必要なすべてのデータを公開します。

データ バックボーンは XML 構造になっていて、その中に、単一フィールドとネストされたデータ/反復データを含むフィールド セットが格納されています。例:

```
[Company Details]
Company Name
Address
  Street
  Postcode
  Country
  Code
  Name
[Director Details]
<List of Directors>
  Director Name
  Director Address
    <List of prior addresses>
```

KCM 内でデータ バックボーンに新しいフィールドを追加することはできますが、既存のフィールドを削除することはできません。新しく追加されたフィールドを表示するには、KCM 結合でプロジェクトを更新する必要があります。

このタイプの変数を複数作成し、それぞれが同じプロジェクトを指すように、または異なるプロジェクトを指すように設定することができます。

日付および null 許容日付変数

日付および null 許容日付変数を使用して、プロセスまたはビジネス ルールに日付を設定します。

現在の日付、または日数を加算または減算して過去/将来の日付を取得する @Today マクロを使用できます。たとえば、現在の日付の 7 日前の日付を取得するには、変数値を @Today-7 と指定します。

プロセスでジョブを作成した場合、または @Today を使用するビジネス ルールを使用した場合、実行時には、現在の日付あるいは指定の日数を現在の日付に + (加算) または - (減算) した日付 (存在する場合) が変数の値として表示されます。

初期化変数を持つプロセスで @Today を使用してジョブを作成した場合は、実行時に、現在の日付あるいは指定の日数を現在の日付に + (加算) または - (減算) した日付 (存在する場合) が変数の値として表示されます。実行時に、時間は午前 12 時に設定されます。ただし、必要に応じて日付と時間を変更できません。

ドキュメント変数

銀行申請プロセスの後半で住所証明を送信するときのように、1 つのドキュメント タイプが必要な場合は、ドキュメント変数を使用します。ドキュメント変数を使用すると、通常は既知のタイプのリポジトリにドキュメントの 1 つのインスタンスが追加されます。

TotalAgility プロセスまたはビジネス ルール内でドキュメントのインスタンスを使用するには、ドキュメント変数を使用します。

ドキュメント変数は、プロセス初期値変数として使用するが、アクティビティ入力変数や出力変数として使用します。ドキュメント フィールドをアクティビティの入出力パラメータとして直接使用することもできます。

ドキュメント変数を使用するプロセス内でジョブを作成すると、このドキュメントのランタイム インスタンス ID がドキュメント変数に保存されます。

ダイナミック複合変数

ダイナミック複合変数には、自身のセルとプロセス変数のマッピングが保持されますが、ジョブ内でこれらが更新されていないことが条件となります。これらのマッピングはジョブに対して保存されます。配列のサイズと値は、ジョブの進行に伴い変化する可能性があります。

設計時には、1000 X 1、500 X 2、5 X 200 など、最大 1000 個のセルを使用する複合変数を作成できます。ただし、実行時はセル数に上限が適用されません。

ダイナミック複合変数は、サーバー変数として作成することもできます。どちらのタイプも、同じ方法で作成されます。ただし、複合サーバー変数を設定した場合は、プロセス初期化オプションを使用できません。

変数メンバーは、動的または静的のいずれかになります。静的な値とは、ユーザー入力は可能であるが、ユーザーによる変更はできない値のことです。

フォルダ変数

複数のドキュメントタイプが必要な場合は、フォルダ変数を使用します。たとえば、申請を処理するために複数のドキュメントタイプが必要な銀行申請などが該当します。フォルダ変数を使用すると、通常はさまざまなタイプのリポジトリに複数のドキュメントが追加されます。TotalAgility プロセスまたはビジネス ルール内でフォルダ インスタンスを使用するには、フォルダ変数を使用します。

TotalAgility プロセスまたはビジネス ルール内でフォルダ インスタンスを使用するには、フォルダ変数を使用します。

フォルダ変数を使用するプロセス内でジョブを作成すると、このフォルダのランタイム インスタンス ID がフォルダ変数に保存されます。

フォルダ変数は、プロセス初期値変数、またはアクティビティ入力変数や出力変数として使用できます。フォルダ フィールドをアクティビティの入出力パラメータとして、直接使用することもできます。

JSON 式変数

JSON 文字列から必要なデータを取得するには、JSON 式変数を使用します。

データを取得するには、任意の JSON 文字列を指定し、式テキスト (JSON パス) に従って JSON 値を取得します。JSON を処理するには、XML の XPath と同様に、JSON パスが必要になります。

ソース JSON としてデータ オブジェクト変数を選択できます。また、式テキストを入力として使用し、データ型を出力として返すことで、データ オブジェクト変数内の特定のフィールドの値を取得することもできます。

ノードおよびJSON パス内の隣接ノードとのノードの接続を表すために、JSON パスでは特別な表記法が使用されます。表記には、ドット (\$.name) と括弧 (\$[name] または [name]) の 2 つのスタイルがあります。ドル記号 (\$) はルート メンバー オブジェクトを表します。

文字列および Null 許容文字列変数

文字列変数は、プロセス、フォーム、および TotalAgility 全体で使用されるテキスト値を保持するために使用します。

フォームの表示プロパティを定義して、動的に作成または生成される [新しいジョブの作成] または [アクティビティ フォーム] 内で実行時に変数を表すために使用するコントロールのタイプを指定することもできます。

システム変数

これらは、ユーザーに情報を提供する、単純で編集不可能なプロセス変数です。提供される情報は、ジョブ作成者、通常はデザイン時に判明しないジョブ ID などです。

各システム変数には、特定の TotalAgility タスクの値が保持されます。たとえば、SPP_RES_JOB_Creator にはジョブ作成者のユーザー ID が保持され、AWF_JOBID にはジョブの ID が保持されます。この情報は、ジョブの作成時にのみ収集されます。

XML 変数

XML ドキュメントの全体または一部を使用するには、XML 変数を使用します。

ドキュメントの一部を使用するには、XML 式を作成して、ドキュメント内の必要なセクションを識別する必要があります。

XML ドキュメントはツリー ビュー ノードとして表現できます。XML パス言語 (XPath) は XML ドキュメント内のパスを記述する言語のことであり、パスと一致する要素を選択する際に使用します。

注 XPath は、XML 式変数の式タイプです。たとえば、XML ドキュメントの最初の数値要素を選択する場合、XPath は 「//number」 になります。書店要素の下にあるすべての書籍ノードを選択する場合、XPath は `xmlDoc.selectNodes(「/bookstore/book」)` になります。

- サーバー レベルで作成された XML 変数を複数のビジネス プロセス マップ間で共有して、同じ XML を異なる目的で使用することができます。
- プロセス レベルで作成された XML 式はこの変数が作成されたプロセス マップのみで使用され、このプロセス マップに対してローカルになります。

XML 式変数

XML ドキュメントの全体または一部を使用するには、XML 式変数を使用します。

ドキュメントの一部を使用するには、XML 式を作成して、ドキュメント内の必要なセクションを識別する必要があります。

XML ドキュメントはツリー ビュー ノードとして表現できます。XML パス言語 (XPath) は XML ドキュメント内のパスを記述する言語のことであり、パスと一致する要素を選択する際に使用します。

注 XPath は、XML 式変数の式タイプです。たとえば、XML ドキュメントの最初の数値要素を選択する場合、XPath は 「//number」 になります。書店要素の下にあるすべての書籍ノードを選択する場合、XPath は `xmlDoc.selectNodes(「/bookstore/book」)` になります。

- サーバー レベルで作成された XML 式を複数のビジネス プロセス マップ間で共有して、同じ XML を異なる目的に使用することができます。
- プロセス レベルで作成された XML 式は、作成対象のプロセス マップでのみ使用することができ、このプロセス マップに対してローカルになります。

アクティビティ タイプ

TotalAgility は手動アクティビティと自動アクティビティを両方ともサポートします。

手動アクティビティは、キャプチャに関連しない、人間が実行すると想定されるアクティビティです。データを手動アクティビティに渡して、そこから返すことができます。アクティビティの実行に必要なリソースは構成可能です。リソースには、固定リソース (管理者) や、ルールに基づいて入力される動的に制御される変数を指定できます。

C# スクリプト、VB .NET スクリプト、式、.NET アセンブリ、または .NET フォーム アクションを構成できます。これらをマルチテナント環境の TotalAgility で実行すると、メモリ、ファイル システム、データベースの読み取りを含むさまざまなテナントからのデータへのアクセスなど、特定のアクションが許可または制限されます。

たとえば、実行する .NET/C#/VB.NET アクティビティに、ファイル システムへのアクセスを試行する悪意のあるスクリプトなどが含まれている場合、アクティビティは失敗し、ジョブは一時停止されます。同様に、実行する .NET フォーム アクションに、ファイル システムへのアクセスを試行する悪意のあるスクリプトなどが含まれている場合、アクションは失敗し、エラーが返されます。

これらのシナリオを実行できるようにするには、最初に構成ファイル内で安全なスクリプト オプションを構成する必要があります。安全なスクリプトの構成については、『Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント インストール ガイド』を参照してください。

一般的なアクティビティ

一般的なアクティビティには、手動アクティビティと自動アクティビティが両方とも含まれます。

自動	手動
埋め込みプロセス	通常アクティビティ アクティビティをプロセス マップに追加すると、デフォルトで通常アクティビティになります。アクティビティのタイプを変更し、必要に応じてアクティビティを構成することができます。
.NET	
Web サービス	
新しいジョブの作成	
サブジョブ作成	
データ アクセス	
同期	
ループ	
式	
ビジネス ルール	
電子メール	

通常アクティビティ

通常アクティビティとは、出力変数および入力変数をビジネス プロセスの他の部分に渡す手動アクティビティのことです。

埋め込みプロセス アクティビティ

埋め込みプロセス アクティビティを使用すると、アクティビティと属性 (変数、ロール、状態、通過ポイント) を親マップに追加して、別のプロセス内にプロセスを追加することができます。

埋め込みプロセスは、アクティビティの論理グループを作成する場合に使用します。また、サブジョブがあるときに、個別に操作するのではなく、実行中のジョブに属性を追加する必要がある場合にも使用します。

埋め込みプロセス アクティビティは、次のようなシナリオで役立ちます。

- 初期プロセス マップが大きすぎる。
- プロセスが他のマップで再利用される可能性がある。
- プロセスが別の部門または会社で再利用される可能性がある。

メイン マップ (親マップ) には、それよりも小さなプロセス マップを埋め込むことができます。埋め込みプロセス マップの標準的な処理ルールは、他のプロセス マップと同様です。

埋め込みプロセスのアクティビティで、親の変数値を使用または変更する必要が生じる場合があります。プロセス マップを埋め込む場合は、埋め込みプロセス (子) で親と同じ変数名を宣言する必要があります。親または子マップで作成されたすべての変数は、ジョブ全体で表示されます。

.Net アクティビティ

.Net アクティビティを使用すると、結合、データ操作などに通常使用される一部のカスタム操作を実行するように .Net アセンブリの呼び出しを構成することができます。TotalAgility はアセンブリに問い合わせ、アセンブリによって公開されている利用可能なクラスを表示します。

クラスを選択すると、メソッドとそのパラメータのリストが表示されます。.Net コールバックに対する入出力データをプロセス内で定義された変数にマップすることができます。

.Net アセンブリをマップから独立して追加し、ディスク上の場所の参照として保持するか、TotalAgility ストア内に配置することができます。

Web サービス アクティビティ

Web サービス アクティビティを使用すると、Web サービス (SOAP または SOAP WCF) への呼び出しを構成できます。

Web サービスは通常、結合やデータ操作など、リモート サーバーにあるサービスによって実行される処理に使用されます。

Web サービスには、Web サービス定義言語 (WSDL) が付属しています。WSDL は、メソッドやパラメータなど、Web サービスのすべてのメタデータを記述します。TotalAgility は WSDL を使用して、Web サービス アクティビティでクラスおよびメソッドを選択するためのクライアント プロキシを生成します。

TotalAgility はサービスに問い合わせ、サービスによって公開されている利用可能なクラスを表示します。クラスを選択すると、メソッドとそのパラメータのリストが表示されます。サービス コールバックに対する入出力データをプロセス内で定義された変数にマップすることができます。

Web サービスは、それらが使用されるプロセス マップとは別個に追加できます。

Web サービス アクティビティを使用するには、最初に Web サービス レファレンスを設定する必要があります。

新規ジョブ作成アクティビティ

自動実行される新規ジョブ作成アクティビティは、作成元のジョブから独立して実行できる新しいジョブを作成します。

タイプがケース、ジョブ、または関連ジョブのジョブを作成して、既存ジョブのデータを新しいジョブにマッピングすることができます。新規ジョブ作成アクティビティは通常、ジョブ間の通信が行われな

い可能性がある (ただし必要に応じて実行できる)、親ジョブと並列に実行されるジョブを追加する場合に使用します。

住宅所有者保険プロセスを例に挙げると、メインの住宅所有者保険プロセスを通じてすべての顧客の詳細をキャプチャした後に、メイン プロセスに新規ジョブ作成アクティビティを追加して、自動車保険の販売という完全に独立したプロセスを生成することができます。顧客の詳細が新規ジョブ作成アクティビティに渡されますが、これは独立したプロセスです。

注 新しいジョブの作成に使用されるマップに、必要なすべての初期値パラメータが追加されていることを確認する必要があります。

サブジョブ作成アクティビティ

サブジョブとは、親プロセスから呼び出すことができる、完全に独立したプロセスのことです。

サブジョブ アクティビティは通常、再利用性と可読性を高めるためにプロセスを分解した場合に使用されます。たとえば、銀行取引プロセスにおける信用調査サブジョブの主な目的は、信用調査を完了し、顧客の信用格付けを返すことです。信用格付けの結果がメイン プロセスに返される限り、メイン プロセスがサブジョブの実装の影響を受けることはないため、銀行員はローン申請の処理を続行できます。信用調査サブジョブは、ローン申請、クレジットカード申請、住宅ローンなどの複数の主要ビジネス プロセスで再利用される可能性があります。

注 このアクティビティはビジネス ルールではサポートされていません。

サブジョブと新規ジョブ作成アクティビティの違いは、ジョブを起動する親内のパスはサブジョブに戻るまで待機するため、データをサブジョブに渡すだけでなく、サブジョブからデータを返すことも可能になる点です。

サブジョブ アクティビティと埋め込みプロセスの違いは、変数、通過ポイント、およびサブジョブの残りのいずれも、親に追加されたり、親から継承されたりしないことです。

データ アクセス アクティビティ

プロセスとデータベースの相互作用を可能にするには、データ アクセス (DAS) アクティビティを使用します。

テーブル、ビュー、およびストアド プロシージャにアクセスしたり、Designer 内でクエリを構築したり、プロセスからクエリにデータをマップしたりできます。プロセスからデータベース レコードを取得、追加、更新、または削除することもできます。

通常、DAS アクティビティは、コードを記述することなく、サードパーティ製データベースと直接結合する場合に使用されます。

同期アクティビティ

プロセスの複数のパスを収束および分岐して、Designer がプロセスのロジックを制御できるようにするには、自動実行される同期アクティビティを使用します。

同期アクティビティを完了する前にパスのマージを完了する必要がある場合は、依存先を構成する必要があります。

ループ アクティビティ

アレイからのデータの抽出を自動的に制御するには、ループ アクティビティを使用します。

このアクティビティを使用すると、アレイから行を1つずつ取得し、プロセスを経由してから、ループバックして次の行を取得することができます。たとえば、リソース リストに電子メールを送信するには、そのリストを返すデータベース クエリを実行します。各リソースを処理するには、ループ ノードを使用して、リスト上の各リソースに反復処理を行います。データの末尾に達したら、反復処理は終了します。

式アクティビティ

データを操作するには、式アクティビティを使用します。

式アクティビティは、単一の算術演算 (加算、乗算、減算など)、または文字列操作 (トリム、大文字、月の追加や今日の日付の取得を含む日付関数など) です。

式ノードは、データ操作に使用される最も一般的な機能を提供することにより、必要なカスタム .NET コードまたはスクリプトの量を削減します。式を検証してテキスト送信できます。

ビジネス ルール アクティビティ

TotalAgility 内で定義されたビジネス ルールを呼び出すには、ビジネス ルール アクティビティを使用します。

ビジネス ルールを使用すると、ユーザーは複雑なロジックを再利用可能なルールに簡素化して、このノードからこれらへのアクセス許可することができます。マップがリリースされると、ルールに対するすべての変更がプロセスに自動的に適用されます。

電子メール アクティビティ

プロセスからの電子メールの送信を許可するには、電子メール アクティビティを使用します。

このアクティビティでは、TotalAgility 内のリソースまたは変数テキストを使用して受信者を作成できます。ユーザーは件名、添付ファイルなどを構成し、電子メールの本文を動的に作成することができます。

条件アクティビティ

条件アクティビティを使用して、ビジネス ルール デシジョン ツリー内の分岐ルールを定義します。このアクティビティは、デシジョン ツリーを設定する場合にのみ使用できます。

キャプチャ アクティビティ

キャプチャ アクティビティには、手動アクティビティと自動アクティビティが両方とも含まれます。

自動	手動
分類アクティビティ	
抽出	[スキャン]
[削除]	[ドキュメント レビュー]

自動	手動
複合	検証
エクスポート	確認
PDF 生成	
ドキュメント変換	
イメージ処理	
イメージ品質の分析	
転送	
終了のマーク	

ドキュメント変換アクティビティ

ドキュメント変換プロファイルで構成されたすべてのドキュメント変換/標準化パラメータを、インポート元に関係なく任意のドキュメントに適用するには、ドキュメント変換アクティビティを使用します。

注

- ドキュメント変換にはドキュメント変換アクティビティを使用し、eVRS イメージ処理にはイメージ処理アクティビティを使用します。
- ドキュメント変換アクティビティはドキュメント (docx、excel、txt など) から PDF への変換をサポートしますが、イメージファイル (PNG、JPEG、TIFF など) から PDF への変換はサポートしません。このような変換を行う場合は、PDF 生成アクティビティを使用してください。
- ドキュメント変換アクティビティでは、パスワードで保護された PDF ドキュメントを PDF、TIFF、または PDF/A に変換することはできますが、パスワードで保護された PDF ポートフォリオおよび ZIP ファイルを変換することはできません。
- ドキュメント変換は、同期マップおよび非同期マップでサポートされています。
- Message Connector でのドキュメント変換に Microsoft Office アプリケーションを使用する場合、変換プロセスは一度に 1 つのシステムでのみ実行できます。ドキュメントの変換を並列に実行することはできません。
- ドキュメント変換アクティビティを使用してイメージを標準化し、イメージのページを作成します。また、ドキュメント変換アクティビティでスケーリングや方向などの問題に対処でき、その後、プロセスマップでキャプチャアクティビティを使用できます。
- ドキュメント変換アクティビティでは、イメージ (PNG、JPEG、TIFF など) を TIFF に変換できます。

イメージ処理アクティビティ

インポートされたイメージと MFP からスキャンされたイメージを処理するには、自動実行されるイメージ処理アクティビティを使用します。

プロセスにイメージ処理アクティビティが含まれている場合は、ジョブを作成するために選択された方法 (MFP、Web スキャン、スキャン新規ジョブ作成、アップロード、インポート、モバイルなど) に関係なく、ジョブが作成されるすべてのドキュメントにこのアクティビティが適用されます。たとえば、10 のドキュメントをスキャンする場合、それらをアップロードする場合、またはジョブの作成時にこれらをインポートする場合に、ジョブのプロセスにイメージ処理アクティビティが含まれていれば、これらのすべての操作がこのアクティビティによって処理されます。

MFP からスキャンされたイメージを処理するには、イメージ処理アクティビティをマップに追加する必要があります。このアクティビティが、デバイス新規ジョブ作成フォームによって開始されるプロセス内の最初のアクティビティである場合は、このアクティビティの事前条件を [SCANNED[>0 に設定する必要があります。

イメージ処理アクティビティは Transformation Server を使用してドキュメントとイメージを TIFF イメージに変換し、イメージ補正フィルタを適用します。次の形式を変換できます。

- BMP
- GIF
- HTML
- JPG
- .docx (Word 2007 以降) および .doc (Word 2007 より前) 形式の Microsoft Word
- .xlsx および .xls 形式の Microsoft Excel (バージョン Excel 97 ~ Excel 2010)
- PDF
- PNG
- RTF
- TXT

注

- OCR 投げ縄処理などのアクションで TIFF 表現を使用できるように、イメージ処理アクティビティを使用して PDF ドキュメントを処理することをお勧めします。詳細については、TotalAgility ベストプラクティス ガイドの「PDF の取り扱い」セクションを参照してください。
- イメージ ファイルを TIFF に変換するには、ドキュメント変換アクティビティを使用してから、プロセスマップで他のキャプチャアクティビティを使用します。たとえば、PNG を TIFF に変換するには、ドキュメント変換アクティビティを使用して変換を行い、次にイメージ処理アクティビティを使用して、EVRS 設定またはイメージ補正設定を使用して TIFF を改善します。

イメージ処理アクティビティは、スキャン/VRS プロファイルの「用紙サイズ」、「解像度」、「カラーモード」などの EVRS 設定またはイメージ補正設定やパラメータを使用して標準化を行います。このアクティビティには 2 つのタスク (すべての形式のドキュメントを TIFF に変換するタスクと、すべての TIFF を標準化するタスク) が含まれているため、作成されたドキュメントは TIFF になり、目的のサイズ、解像度、色深度が設定されます。

詳細 EVRS 設定は、イメージ補正設定よりも優先されます。たとえば、[イメージ補正設定] セクションで [自動回転] を選択していても [自動回転] が有効ではない詳細 EVRS 設定文字列を追加した場合は、この文字列が存在することで EVRS はイメージ補正設定を無視するため、[自動回転] 設定は無効になります。

注 [空白ページの削除] 設定は例外です。EVRS 文字列は空白ページの検出のみを有効にできますが、空白ページを削除する必要がある場合は、[空白ページの削除] 設定を選択する必要があります。

マルチページ ドキュメントおよび TIFF ファイルは、ページごとに個別のファイルに分割されます。

ドキュメント ファイル (Word、Excel、HTML、RTF、および TXT) は、MIME タイプに従って自動的に識別されます。MIME タイプが設定されていないか、認識できない場合、ファイルは不明な形式として処理されます。実行時にプロセスが失敗すると、ジョブが一時停止され、一時停止の理由を説明するメッセージを使用してジョブ メモが更新されます。

イメージ処理アクティビティは、実行時に TotalAgility Workspace の [ジョブ履歴] または [ジョブの表示] 内にレコードを作成します。必要に応じて、ソース ファイルのテキストは OCR データとして保存されます。マルチ ページのドキュメントはドキュメント オブジェクトとして保存され、イメージ ファイルはページ単位で保存されます。元のファイルは、ドキュメント ソースと共に保存されます。

重要 次の場所にある Kofax.CEBPM.ProcessingService.Host.exe.config を変更することにより、イメージ処理のログを増やすことができます。

```
Kofax\TotalAgility\Transformation Server
```

```
デフォルトのログ レベルは次のとおりです。<add name="TraceLevelSwitch"  
value="Warning"/>
```

イメージ処理の完全ロギングを有効にするには、「Warning」を「All」に置き換えます。これはトラブルシューティングに役立つ場合があります。

イメージ品質の分析アクティビティ

ページ イメージを処理または更新しなくても、イメージの品質を分析できるようにするには、イメージ品質の分析アクティビティを使用します。

このアクティビティは、抽出結果に影響を与える可能性のあるグレア、シャドウ、フォーカス、ぼかしなどの問題がイメージにあるかどうかを判断します。分析が完了したら、ビジネス プロセスの後の段階で分析情報を使用できるようになります。

注 イメージ品質の分析は、ページ レベルのイメージでのみサポートされています。PDF などのソース レベル ドキュメントの品質を分析するには、ドキュメントを個々の TIFF イメージに変換する必要があります。

TotalAgility でサポートされるイメージ品質の分析は、ID カードやパスポートなど、携帯電話のカメラで撮影した小さなドキュメントのイメージのみを対象としています。大きなドキュメントのイメージやモバイル以外で撮影したイメージのイメージ品質の分析はサポートされません。

分類アクティビティ

ドキュメントをドキュメント タイプに基づいて特定のフォルダに分類するには、自動分類アクティビティを使用します。

プロセス内でこのアクティビティを使用すると、TotalAgility の [ジョブ履歴] または [ジョブの表示] で実行時にレコードを作成することができます。分類アクティビティには、分割プロファイル プロパティが含まれます。

システムに Transformation Server がインストールされている場合は、実行時にこのアクティビティが自動的に実行されます。Kofax TotalAgility インストール ガイドを参照してください。

実行時にプロセスが失敗すると、ジョブが一時的に停止され、一時停止の理由を説明するメッセージを使用してジョブ メモが更新されます。

抽出アクティビティ

ドキュメントからデータを抽出して保存するには、自動実行される抽出アクティビティを使用します。

システムに Transformation Server がインストールされている場合は、実行時にこのアクティビティが自動的に実行されます。Kofax TotalAgility インストール ガイドを参照してください。

このアクティビティを実行しているときにプロセスが失敗すると、ジョブは一時停止され、一時停止の理由を説明するメッセージでジョブ メモが更新されます。

複合アクティビティ

1 つ以上のキャプチャ アクションをプロセス内の単一アクティビティとして実行するには、自動実行される複合アクティビティを使用します。

複数のアクティビティをスタンドアロンで実行する代わりに複合アクティビティを使用すると、Transformation Server のプロセスのパフォーマンスが向上します。

注 スタンドアロン アクティビティは、非線形プロセス マップ内でのみ使用するが、一連の手順の中で他のアクティビティが必要な場合にのみ使用します。

転送アクティビティ

リンクされた 2 つの TotalAgility サーバーの間でドキュメントまたはフォルダを転送するには、転送アクティビティを使用します。

プロセス内でジョブを作成し、転送アクティビティを実行すると、次のようになります。

- ドキュメントまたはフォルダおよび関連するメタデータが現在のサーバーからターゲット サーバーに移動されて、ターゲット サーバーのルートに配置されます。
- ドキュメントまたはフォルダおよび関連するメタデータがソース サーバーから削除されます。
- フォルダを移動する場合、すべてのドキュメントとサブフォルダがターゲット サーバーに転送されます。
- ターゲット サーバーのボリューム数は減少しません。
- ターゲット サーバーに抽出グループまたは分類グループは作成されません。これらは手動でインポートする必要があります。

転送アクティビティを実行すると、次の場合に転送が失敗します。

- ターゲット サーバーとのリンクが削除された。
- ターゲット サーバーに指定されたユーザー資格情報が正しくない。
- フォルダまたはドキュメントが、現在のサーバー上の別のユーザーによってロックされている。

ジョブが失敗した場合にジョブを再開すると、ジョブが失敗する前に移動されたすべての項目は無視されます。以前に移動されなかった項目のみが移動されます。

転送アクティビティを使用するプロセスをインポートまたはエクスポートすると、サーバー間のリンクの名前もエクスポートまたはインポートされます。同じ名前のリンクがターゲット サーバー状に存在する場合は、転送アクティビティでこのリンクが使用されます。それ以外の場合は、ターゲット サーバーのアクティビティ構成に「不明」というメッセージが表示されて、ジョブは一時停止されます。

PDF 生成アクティビティ

ドキュメントから、またはフォルダ内のすべてのドキュメントから PDF を自動的に作成するには、PDF 生成アクティビティを使用します。

PDF 生成アクティビティは、PDF 生成プロファイルで定義された設定を使用して、ドキュメントから PDF を作成します。これは、生成された PDF ファイルと呼ばれます。さらに、アクティビティを使用することにより、生成された PDF 内の特定のメタデータ フィールドに、ドキュメント フィールドから、または PDF 生成アクティビティの構成で定義された固定値から入力する方法を構成できます。「ドキュメント」を選択した場合、PDF メタデータ フィールドにはドキュメント フィールドの値が入力されます。これは、ドキュメントが分類されている場合のみ機能します。ドキュメントが分類されていない場合は、メタデータ フィールドに書き込まれず、メタデータ フィールドを含まない PDF のみが作成されます。

注 システムに Transformation Server がインストールされている場合は、実行時にこのアクティビティが自動的に実行されます。Kofax TotalAgility インストール ガイドを参照してください。

エクスポート アクティビティ

エクスポート コネクタを使用してドキュメントおよびフォルダを「レコード システム」に自動的にエクスポートするには、エクスポート アクティビティを使用します。

レコード システムには、データベース、IBM/FileNet、EMC/Documentation、SharePoint などがあります。エクスポートされたドキュメントを完了としてマークするように、このアクティビティを構成できます。

プロセス マップに関連付けられているドキュメント タイプをエクスポートするようにエクスポート コネクタを設定する必要があります。実行時に、エクスポート アクティビティが実行されると、プロセス マップ内のドキュメントがバックエンド システムにエクスポートされます。

注

- オンプレミス TotalAgility はエクスポート アクティビティをサポートしますが、Azure 環境内の TotalAgility はサポートしません。
- 1 つ以上のエクスポート コネクタをプロセスおよびドキュメント タイプに関連付ける必要があります。Kofax TotalAgility エクスポート コネクタのヘルプを参照してください。

アクティビティの削除

実行時にドキュメントまたはフォルダを自動的に削除するには、削除アクティビティを使用します。

このアクティビティを使用して、削除されたドキュメントに完了としてマークしたり、削除が失敗した場合にジョブを一時停止するかどうかを定義したりできます。

注 システムに Transformation Server がインストールされている場合は、実行時にこのアクティビティが自動的に実行されます。Kofax TotalAgility インストール ガイドを参照してください。

スキャン アクティビティ

単一のドキュメントまたはドキュメントのコレクションをスキャンするには、スキャン アクティビティを使用します。

プロセス内の複数のスキャン アクティビティで同じドキュメント変数またはフォルダ変数が参照されている場合は、元のバージョンの抽出グループが再利用されます。ジョブの作成後に抽出グループが変更された場合でも、バージョンはジョブの存続期間を通して同じままになります。このアクティビティタイプは、ビジネス ルールではサポートされません。

ドキュメントのレビュー アクティビティ

プロセス内のドキュメントとフォルダを手動でレビューするには、ドキュメントのレビュー アクティビティを使用します。

このアクティビティタイプは、ビジネス ルールではサポートされません。

検証アクティビティ

プロセス内のドキュメントとフォルダを検証するには、手動検証アクティビティを使用します。

このアクティビティタイプは、ビジネス ルールではサポートされません。

確認アクティビティ

プロセス内のドキュメントとフォルダを確認するには、手動確認アクティビティを使用します。

このアクティビティタイプは、ビジネス ルールではサポートされません。

終了のマーク アクティビティ

ドキュメントに、対応するタイムスタンプ付きで終了とマークするには、終了のマーク アクティビティを使用します。

フォルダまたはドキュメントを入力として使用できます。フォルダを使用している場合は、フォルダ内のすべてのドキュメント (サブフォルダ内のドキュメントを含む) に、タイムスタンプ付きで終了とマークされます。また、ドキュメントをレポートに使用する場合も、完了とマークされます。

Kofax アクティビティ

Kofax アクティビティには、次の自動アクティビティが含まれます。

- RPA
- SignDoc
- KCM による作成
- KCM 配布
- KCM パック
- ControlSuite

KCM による作成アクティビティ

KCM による作成アクティビティを使用して、プロセス フローの一環としてコミュニケーション用ドキュメントを自動的に生成し、ユーザーに配布します。

これらのドキュメントは、Kofax Communication Manager (KCM) で定義されたテンプレートに基づいています。テンプレート タイプは、ドキュメント テンプレート、またはドキュメント パック内で利用可能な一連のテンプレートのいずれかです。ドキュメント パックにインポート スロット (KCM で定義) が含まれている場合は、ドキュメント パックにドキュメントを追加できます。これらのドキュメントはパックの一部になり、ドキュメント パックの他のコンテンツと一緒にレビューまたは配布できます。

KCM による作成アクティビティを使用すると、ドキュメントを作成し、配布することができます。

サポートされている配布メカニズムは、印刷、電子メール、ポータル、SignDoc、または出力管理です。

出力管理を使用すると、KCM ルール エンジンで構成できる一元化されたルールに基づいて各ドキュメント パックを配布できます。これらのルールは、法的要件、企業ポリシー、または顧客の好みによるものです。

たとえば、オランダで保険証券を送信するときに、法的要件に従って保険証券を顧客に配信する必要がある場合は、保険証券を含むすべてのドキュメント パックの配信チャネルとしてポータルを使用することができます。これらの配信には、電子メールまたは印刷を使用する必要があります。

注 KCM ルール エンジンは KCM 5.1.1 で使用できるため、TotalAgility の出力管理を使用して配布する場合は、KCM 5.1.1 を使用することをお勧めします。

KCM 配布アクティビティ

KCM でドキュメントの作成日の後に、印刷、電子メール、ポータル、SignDoc、または出力管理を通じてドキュメントを配布するには、KCM 配布アクティビティを使用します。

SignDoc を使用してドキュメントを配布する場合は、構成の一部として署名者の詳細を渡しません。代わりに、バックボーンのフィールドを使用して、KCM テンプレート内で署名行が定義されています。実行時に、このフィールド (バックボーン内) に保持されているデータによって、署名式を行う必要がある人物の名前と電子メール アドレスが決まります。

出力管理メカニズムを使用すると、KCM ルール エンジンで構成できる一元化されたルールに基づいて各ドキュメント パックを配布できます。これらのルールは、法的要件、企業ポリシー、または顧客の好みによるものです。

たとえば、オランダで保険証券を送信するときに、法的要件に従って保険証券を顧客に配信する必要がある場合は、保険証券を含むすべてのドキュメント パックの配信チャネルとしてポータルを使用することができます。これらの配信には、電子メールまたは印刷を使用する必要があります。

KCM パック アクティビティ

KCM パックからドキュメントを抽出するには、KCM パック アクティビティを使用します。

RPA アクティビティ

RPA サーバー内のプロジェクトから適切なロボットを選択して、起動するロボットを選択するには、RPA (Robotic Process Automation) アクティビティを使用します。

適切なロボットを選択して、変数をその入力および出力にマップします。RPA ロボットは、サードパーティ製品との結合に使用されます。

SignDoc アクティビティ

署名パッケージを定義して、ドキュメントにデジタル署名を行うには、SignDoc アクティビティを使用します。

署名パッケージを定義するには、使用する SignDoc サーバー、署名またはレビューするドキュメント、およびドキュメントに署名またはレビューする受信者とその電子メール アドレスが必要です。署名パッケージの名前を指定することもできます。

TotalAgility に SignDoc サーバーを追加すると、選択した SignDoc サーバー内で利用可能なすべてのテンプレートが、署名パッケージを定義する際に使用できるようになります。署名パッケージを定義する場合は、新しいテンプレートを作成するか、SignDoc の既存のテンプレートを使用します。テンプレートは、デジタル署名に必要なドキュメントと署名者で構成されます。署名パッケージが作成されると、SignDoc は構成内で指定された署名者のアドレスに、署名するドキュメントのリンクが記載された電子メールを送信します。署名式では、TotalAgility はテンプレートの作成時に署名者またはレビュー担当者に指定された一般名を使用します。一般名を表示名にカスタマイズして、表示名が使用されたドキュメントが送信されるようにすることができます。たとえば、「医師」に「医長」を使用するように、または「マネージャー」にマネージャーの実際の名前を使用するように構成できます。署名式が完了すると、SignDoc は TotalAgility に通知を送信して、SignDoc アクティビティを完了します。

ControlSuite アクティビティ

ドキュメントとドキュメント メタデータを ControlSuite サーバーに送信して、新しいワークフローを開始するには、ControlSuite アクティビティを使用します。

Microsoft アクティビティ

Microsoft アクティビティは、SharePoint、Dynamics CRM、Exchange などの主要な Microsoft 製品と結合する機能を提供します。

この Microsoft アクティビティには、次の自動アクティビティが含まれます。

- [SharePoint サイトの作成](#)
- [SharePoint フォルダの作成](#)
- [SharePoint 項目の追加](#)
- [SharePoint 項目の削除](#)
- [SharePoint アップローダ](#)
- [SharePoint 項目の移動](#)
- [SharePoint ドキュメントの取得](#)
- [Dynamics CRM](#)
- [Exchange Server 添付ファイル取得](#)

注 Azure 環境内の TotalAgility は、次の Microsoft アクティビティをサポートしません。

- Dynamics CRM
- Exchange Server 添付ファイル取得
- SharePoint 項目の追加アクティビティと SharePoint アップローダ アクティビティを除くすべての SharePoint アクティビティ

SharePoint 項目の追加アクティビティ

ドキュメントを SharePoint ライブラリ、SharePoint ライブラリのサブフォルダ、または SharePoint リストのルートに自動的に追加するには、SharePoint 項目の追加アクティビティを使用します。

SharePoint のリストには、通信リスト、トラッキング リスト、およびカスタム リストが含まれます。必要に応じて、ローカルおよびオンラインの SharePoint サイトにドキュメントを追加できます。

ドキュメントがチェックアウトされている場合は、このアクティビティを使用してドキュメントを SharePoint にチェックインします。ドキュメントがレコードであると宣言して、ドキュメントをレコードセンターに追加することもできます。

注 ドキュメントのチェックイン、ドキュメントのレコードとしての宣言、およびドキュメントの上書きを行うオプションを使用できるのは、ローカルの SharePoint サイトのみです。オンラインの SharePoint サイトでは使用できません。

SharePoint から項目識別子を取得して変数に追加するように、TotalAgility を構成します。ジョブが終了したら、変数の情報を使用し、必要な項目を識別して選択します。

SharePoint 項目の追加アクティビティは、表に示されている SharePoint アップローダ アクティビティとは異なります。

SharePoint 項目の追加	SharePoint アップローダ
次に示す SharePoint の場所のいずれかにドキュメントをアップロードします。 <ul style="list-style-type: none"> • リストのルート。 • SharePoint のライブラリ。 • SharePoint ライブラリで利用可能な任意のサブフォルダ。SharePoint のドキュメント ライブラリにのみドキュメントをアップロードします。 	SharePoint のドキュメント ライブラリにのみドキュメントをアップロードします。
項目のメタデータをサポートします。	項目のメタデータをサポートしません。

SharePoint フォルダの作成アクティビティ

SharePoint 結合サイト内に新しいフォルダを作成するには、自動実行される SharePoint フォルダの作成アクティビティを使用します。

フォルダの場所と名前を指定するには、静的な値を指定するか、TotalAgility 変数を使用することができます。

SharePoint からフォルダ識別子を取得して変数に追加するように、TotalAgility を構成します。ジョブが終了したら、変数の情報を使用し、必要なフォルダを識別して選択します。

注 SharePoint フォルダの作成アクティビティは、オンプレミス マルチテナント環境および Azure 環境では使用できません。

SharePoint サイトの作成アクティビティ

SharePoint 結合サイト内に新しいサイトを作成するには、自動実行される SharePoint サイトの作成アクティビティを使用します。

デフォルトの SharePoint テンプレート、または TotalAgility に付属のカスタム テンプレートを使用して、サイトの外観を定義することができます。TotalAgility に付属のカスタム テンプレートには、チーム カレンダー、連絡先リスト、ドキュメント フォルダ、ジョブ リスト、作業キュー、およびドキュメントを中心とするケース サイトについてのお知らせなどが含まれています。

ケース マップで、新しい SharePoint サイトに Kofax ケース テンプレートを適用すると、TotalAgility から共有カレンダーとアドレス帳に直接アクセスできるようになります。

新しいサイトの作成中に、デフォルトのナビゲーションをサイト ページに表示することができます。親サイトに指定された権限は、新しいサイトに自動的に適用されます。

注 SharePoint サイトの作成アクティビティは、オンプレミス マルチテナント環境および Azure 環境では使用できません。

SharePoint 項目の削除アクティビティ

SharePoint ライブラリ、SharePoint ライブラリのサブフォルダ、または SharePoint リストのルートから項目またはフォルダを削除するには、自動実行される SharePoint 項目の削除アクティビティを使用します。

SharePoint リストには、通信リスト、トラッキング リスト、およびカスタム リストが含まれます。

同じ名前の項目が複数存在する場合、一致するすべての項目が削除されます。調査およびディスカッション ボード以外の他の項目はすべて削除できます。

注 SharePoint 項目の削除アクティビティは、オンプレミス マルチテナント環境および Azure 環境では使用できません。

SharePoint ドキュメントの取得アクティビティ

SharePoint サイトからローカル コンピュータにドキュメントをコピーするか、チェックアウトするには、自動実行される SharePoint ドキュメントの取得アクティビティを使用します。

注 SharePoint ドキュメントの取得アクティビティは、オンプレミス マルチテナント環境および Azure 環境では使用できません。

SharePoint 項目の移動アクティビティ

SharePoint サイトのある場所から同じサイトの別の場所に項目を移動するには、SharePoint 項目の移動アクティビティを使用します。

移動したドキュメントのメタデータを更新し、ドキュメントをレコードとして宣言して、ドキュメントをレコード センターに追加することもできます。

注 SharePoint 項目の移動アクティビティは、オンプレミス マルチテナント環境および Azure 環境では使用できません。

SharePoint アップローダ アクティビティ

SharePoint のドキュメント ライブラリにドキュメントをアップロードするには、自動実行される SharePoint アップローダ アクティビティを使用します。ローカルおよびオンラインの両方の SharePoint サイトにドキュメントをアップロードできます。

TotalAgility Web サービスとターゲット ドキュメントの URL、およびソース ドキュメントのファイルパスを指定するには、静的な値または TotalAgility 変数を指定します。アップロードされたドキュメントのコンテンツ タイプを指定することもできます。こうすることで、実行時に特定のコンテンツ タイプのすべてのドキュメントを整理、検索、取得できるようになります。

Dynamics CRM アクティビティ

新しいエンティティ インスタンスの作成、エンティティ インスタンスからの必要な情報の取得、CRM ビジネス ユニットのエンティティ インスタンスの更新および削除を TotalAgility から直接行うには、Dynamics CRM アクティビティを使用します。

Dynamics CRM アクティビティでは CRM ルックアップ用の有効な GUID 値を割り当てたり、選択リスト フィールドに数値を割り当てたりできます。

ダイナミック複合変数を割り当てると、Dynamics CRM アクティビティでパーティ リスト フィールドの値を取得したり、割り当てたりできるようになります。

たとえば、Person という名前のエンティティ インスタンスは、文字列フィールドである名前と、次の値を含む選択リスト フィールドである国籍で構成されています。

名前	Jack
国籍	1: アイルランド人 2: アメリカ人

Name, 1 を渡してエンティティ インスタンスを作成し、Dynamics CRM からエンティティ インスタンスの詳細を取得すると、次の情報が取得されます。Jack, Irish。

注 Dynamics CRM アクティビティは、TotalAgility オンプレミス環境でのみ使用できます。オンプレミス マルチテナント環境および Azure 環境で実行されている Designer では使用できません。

Exchange Server 添付ファイル取得アクティビティ

電子メールに添付されているすべてのファイルを自動的に取得して、特定の宛先に転送するには、Exchange Server 添付ファイル取得アクティビティを使用します。このアクティビティを使用すると、すべての添付ファイルを 1 か所で追跡およびメンテナンスできます。

注 Exchange Server 添付ファイル取得アクティビティは、オンプレミス マルチテナント環境および Azure 環境では使用できません。

CMIS アクティビティ

CMIS 準拠の EDMS と対話する場合は、CMIS アクティビティを使用します。つまり、特定のアダプタを作成しなくても、この標準的な結合を使用することができます。

詳細については、「[CMIS](#)」を参照してください。

このグループには、次のアクティビティが含まれます。

- [CMIS ドキュメントの取得](#)
- [CMIS ドキュメントの追加](#)
- [CMIS ドキュメントの更新](#)
- [CMIS フォルダの作成](#)
- [CMIS ドキュメントのチェックイン](#)
- [CMIS ドキュメントのチェックアウトのキャンセル](#)
- [CMIS ドキュメントの検索](#)

CMIS ドキュメントの追加アクティビティ

CMIS ドキュメントの追加アクティビティを使用して、CMIS 準拠サイトのリポジトリにドキュメントを追加します。

ライブラリ、ライブラリ内のサブフォルダ、またはリストのルートにドキュメントを追加します。新しくアップロードされたドキュメントのメタデータを指定することもできます。

CMIS ドキュメントのチェックアウトのキャンセル アクティビティ

CMIS 準拠サイトからチェックアウトされたドキュメントに対する変更を元に戻すには、自動実行される CMIS ドキュメントのチェックアウトのキャンセル アクティビティを使用します。

チェックアウトを元に戻すと、変更が破棄され、ドキュメントがチェックアウト前の状態に復元されます。

CMIS ドキュメントのチェックイン アクティビティ

自動実行される CMIS ドキュメントのチェックイン アクティビティを使用して、CMIS サイトのリポジトリにドキュメントをチェックインします。

必要に応じて、チェックインされたドキュメントのプロパティを更新することもできます。

注 CMIS ドキュメントのチェックイン ノード内のファイルの場所を指定するオプションは、オンプレミス マルチテナント環境および Azure の環境で実行されている Designer では使用できません。

CMIS フォルダ作成アクティビティ

自動実行される CMIS フォルダ作成アクティビティを使用して、CMIS 準拠サイトのリポジトリ内にフォルダを作成します。

CMIS ドキュメントの検索アクティビティ

自動実行される CMIS ドキュメントの検索アクティビティを使用して、ドキュメントのメタデータを検索基準に使用してリポジトリ内のドキュメントを検索します。

ジョブが実行されると、アクティビティは検索基準と一致するすべてのドキュメントを返します。

注 CMIS ドキュメントの検索アクティビティが機能するのは、CMIS 準拠サイトで検出サービスが構成されている場合のみです。

CMIS ドキュメントの取得アクティビティ

CMIS 準拠サイトからドキュメントをコピーするか、チェックアウトするには、自動実行される CMIS ドキュメントの取得アクティビティを使用します。

ドキュメント名または一意の識別子を使用してドキュメントを指定します。

CMIS ドキュメントの更新アクティビティ

ドキュメントのプロパティを更新するには、自動実行される CMIS ドキュメントの更新アクティビティを使用します。

Micro Focus アクティビティ

Micro Focus アクティビティは、Micro Focus コンテンツ管理システムと結合する機能を提供します。

このグループには、次のアクティビティが含まれます。

- [Content Manager フォルダの作成](#)
- [Content Manager ドキュメントの追加](#)
- [Content Manager ドキュメントの取得](#)

注 Micro Focus アクティビティは、TotalAgility オンプレミス環境でのみ使用できます。オンプレミスマルチテナント環境および Azure 環境で実行されている Designer では使用できません。

Content Manager ドキュメントの追加アクティビティ

選択したコンテンツ管理システムに新しいドキュメントを追加するか、チェックアウトしたドキュメントをチェックインするには、Micro Focus Content Manager ドキュメントの追加アクティビティを使用します。

ドキュメントの追加アクティビティは、後でドキュメントを取得またはチェックアウトする場合に使用できる一意の識別子であるドキュメント URI を返します。

コンテンツ管理システムに同じ名前のフォルダおよびドキュメントが複数ある場合は、一意のレコード番号、または URI (Uniform Resource Identifier) を含む変数を使用して、必要なフォルダとドキュメントを選択してください。

注 Content Manager ドキュメントの追加アクティビティは、Azure 環境およびオンプレミスマルチテナント環境では使用できません。

Content Manager フォルダの作成アクティビティ

選択したコンテンツ管理システム内にフォルダを作成するには、Content Manager フォルダの作成アクティビティを使用します。

フォルダの場所として定義されたデフォルト値を使用するか、デフォルト値を基準とする相対的な場所、またはそれ以外の場所を使用します。フォルダを作成したら、このフォルダを使用してフォルダ内のドキュメントを管理します。

Content Manager ドキュメントの取得アクティビティ

コンテンツ管理システムからコンピュータにドキュメントをダウンロードするか、チェックアウトするには、Content Manager ドキュメントの取得アクティビティを使用します。

Content Manager システムに同じ名前前のフォルダおよびドキュメントが複数ある場合は、一意のレコード番号を指定するか、URI (Uniform Resource Identifier) を含む変数を選択して、必要なフォルダまたはドキュメントにアクセスします。

注 ID は、Content Manager システム内のフォルダまたはドキュメントの一意のレコード番号です。フォルダまたはドキュメント URI は、フォルダまたはドキュメントの一意の値であり、TotalAgility プロセス変数を使用してキャプチャされます。

スクリプト アクティビティ

式、.Net、および Web サービスが適切でない場合は、スクリプト アクティビティが使用されます。

これらのアクティビティは、レガシーを維持する理由から製品に残されています。製品の新しい機能によって、カスタム コードに対するニーズが減ることが期待されています。それまでは、プロセス内でコードを記述するメカニズムを提供してまいります。

このグループには、次の自動アクティビティが含まれます。

- [スクリプト](#)
- [C#](#)
- [VB .Net](#)

プロセス内でスクリプトを機能させるには、プロセス変数をスクリプト アクティビティの入力および出力として割り当てます。

- スクリプト内で使用するプロセス変数の値を取得するには、変数をアクティビティの入力として追加します。
- スクリプト内でプロセス変数の値を変更 (設定) するには、変数をアクティビティの出力として追加します。

重要 スクリプトを構成する場合は、([Firstname]) などの変数を手動で入力するか、ルール エディタを右クリックして S1 (プロセス変数) などの変数を選択することができます。変数を選択するのは、変数 ID を挿入するためのショートカットとして利用することにより、変数を手動で入力する手間を省けるからにすぎません。スクリプトを有効にするには、変数を引用符で囲む必要があります。["Firstname"] や ["S1 (Process variable)"] のように指定します。

スクリプト アクティビティ

スクリプトとは、特定の言語で記述された、連続して実行できる一連の命令のことです。

次のような特定のアクションを実行するには、自動実行されるスクリプト アクティビティを使用します。

- 電子メール コンテンツの生成
- 電子メールの送信
- データベース内のデータの検索
- ワークフローでのレターを作成
- プロセス内の一連のアクティビティのループ処理
- ユーザーの詳細のテキスト ファイルへの保存

注

- TotalAgility は、Azure 環境およびオンプレミス マルチテナンシー環境でのスクリプト アクティビティ タイプをサポートしません。
- スクリプト アクティビティを含む以前のバージョンのプロセス マップをインポートすると、アクティビティは読み取り専用で表示されます。アクティビティが正常に実行されるのは、アクティビティが統合サーバー内で定義されていて、「統合サーバーで実行」プロパティが選択されている場合のみです。

C# アクティビティ

.Net スクリプトを記述するには、C# スクリプト アクティビティを使用します。

TotalAgility Designer では、C# および VB.Net という 2 種類の .Net スクリプト アクティビティを作成できます。

スクリプトを構成する場合ルール エディタを右クリックして、スクリプトに追加するプロセス変数およびサーバー変数を選択することができます。

スクリプト開発者が .Net アセンブリをビルドして展開しなくても、TotalAgility でスクリプトを検証して実行することができます。TotalAgility が .Net に準拠しているため、開発時間が短縮され、展開が容易になります。

例: C# スクリプト

このサンプル C# スクリプトの入力変数は `firstname` と `surname` です。これらの変数の値を使用して、出力変数である変数 `fullname` 変数の値が構築されます。

```
using System;
using Agility.Server.Scripting.ScriptAssembly;
namespace MyNamespace
{
    public class Class1
    {
        public Class1()
        {
        }
        [StartMethodAttribute()]
        public void Method1(ScriptParameters sp)
        {
```

```
string firstname = {string}sp.InputVariables["FirstName (Process variable)"].ToString();
string surname = {string}sp.InputVariables["surname (Process variable)"].ToString();
sp.OutputVariables["fullname"] = firstname + " " + surname;
}
}
```

注 このスクリプトが機能するのは、firstname と surname が入力変数として、fullname が出力変数として設定されている場合のみです。

VB.Net アクティビティ

.Net スクリプトを記述するには、VB.Net スクリプト アクティビティを使用します。

スクリプトを構成する場合、([Firstname]) などの変数を手動で入力するか、ルール エディタを右クリックして、スクリプトに追加するプロセスおよびサーバー変数を選択することができます。サーバー変数を選択した場合、変数は「変数名 [サーバー変数]」のように表示されます。スクリプトを有効にするには、変数を引用符で囲む必要があります。例: 「[Firstname]」。

スクリプト開発者が .Net アセンブリをビルドして展開しなくても、TotalAgility でスクリプトを検証して実行することができます。TotalAgility が .Net に準拠しているため、開発時間が短縮され、展開が容易になります。

例: VB .Net スクリプト

このサンプル VB .Net スクリプトでは、FirstName および LastName 入力変数の値を使用して、出力変数である Fullname 変数の値を構築します。

```
Imports System Imports Agility.Server.Scripting.ScriptAssembly
Namespace MyNamespace
Public Class Class1
<StartMethodAttribute()> Public Sub Method1(ByVal sp As ScriptParameters)
'
' TODO: Add start method code here
'
Dim FirstName
Dim LastName
FirstName = sp.InputVariables("FirstName")
LastName = sp.InputVariables("LastName")
sp.OutputVariables("Fullname") = FirstName + LastName
End Sub
End Class
End Namespace
```

注 このスクリプトが機能するのは、FirstName と LastName が入力変数として、Fullname が出力変数として設定されている場合のみです。

その他のアクティビティ

TotalAgility で利用可能なその他の自動アクティビティは、XML、リソース情報、ドキュメントの作成などです。

- [XML](#)
- [リソース情報](#)

- [\[ジョブ所有者\]](#)
- [ジョブの変数](#)
- [スリープ](#)
- [サポート情報](#)
- [RESTful サービス](#)
- [ドキュメントの作成](#)
- [レビュー準備完了](#)
- [複合変数](#)

XML アクティビティ

サードパーティ製コンポーネントを使用しないで XML ドキュメントを構築または変更するには、XML アクティビティを使用します。

XML アクティビティを使用すると、次のことができます。

- XML ドキュメントの属性を追加、変更、または削除するか、ドキュメントに新しい XML 文字列を追加する。
- 名前空間のバインドを定義して、長いコードの入力や要素名の競合を回避する。
- XSD スキーマを使用して XML を検証する。

リソース情報アクティビティ

SDK で .NET メソッドを使用するのではなく、特定のリソースに関する名前、電子メールアドレス、スーパーバイザー ID などの情報を抽出するには、リソース情報アクティビティを使用します。

リソース情報は、リソース ID を指定して取得されます。リソース識別子には、リソース ID、リソースやロール名、または電子メールアドレスを指定できます。

ジョブ所有者アクティビティ

実行中のジョブの現在の所有者を設定するには、ジョブ所有者アクティビティを使用します。基準となるルールまたは決定によって、ジョブの所有者は異なる場合があります。

ジョブ所有者は、タスクの実行者または完了者に関係なく、ジョブを所有します。このため、割り当てられたジョブはいつでも表示されます。たとえば、チームリーダー (TL) はチームが実行するすべてのジョブを担当するため、TL をジョブの所有者として割り当てると、TL は必要に応じてチームの進行状況を表示し、追跡できるようになります。

ジョブ所有者には、個人またはグループのリソースを指定できます。ただし、ジョブ所有者に指定できるのは一度に 1 つのリソースのみです。

ジョブ所有者には、固定リソースまたは動的リソースを指定できます。動的な場合、実際のジョブ所有者は実行時に割り当てることができます。

ジョブ所有者またはジョブ所有者のスーパーバイザーのみが、実行時にジョブ所有者を変更できます。

ジョブの変数アクティビティ

実行中のジョブから情報を抽出して、現在のジョブ内で定義された変数に値を返すには、ジョブの変数アクティビティを使用します。通常は、複数のジョブで再利用される例外マップ内で使用されます。

たとえば、住宅手当請求システムで特定の住宅手当申請フォームの処理に2時間以上かかる場合は、ジョブ超過例外プロセス マップを起動できます。ジョブ超過例外マップは、住宅手当請求ジョブから請求処理担当者などの詳細のデータを抽出します。

ジョブの変数アクティビティを使用することで、次の手順が省略されるため、開発時間は短縮されます。

- API `getjobvariablevalues` を呼び出す。
- データを `getjobvariablevalues` に渡すように複合変数を設定する。
- 以降の処理のために、複合変数から値を抽出して、プロセス変数に渡す。

スリープ アクティビティ

特定の期間ジョブを遅延させるには、スリープ アクティビティを使用します。

実行時に、スリープ アクティビティは指定期間待機するようジョブに指示します。たとえば、COM 呼び出しが電子メールの送信に失敗したときにトリガーされるイベント マップ内で、電子メールの再送信を試行する前にジョブが 60 秒間スリープするようにスリープ アクティビティを構成することができます。

サポート情報アクティビティ

ユーザーがジョブの進行状況を追跡するのに役立つコンテキスト情報を生成するには、サポート情報アクティビティを使用します。

たとえば、保険金請求を処理するプロセスでは、サポート情報アクティビティを使用して、顧客名、保険タイプ、請求額を含む情報をユーザーに提供します。

以下の操作を実行できます。

- 複数のサポート情報ノードをプロセスに追加し、ジョブの進行に応じてコンテキスト情報を更新できるようにします。
- API を使用して、サポート情報を更新および表示します。
 - `JobService.UpdateJobCustomerData` を呼び出して、サポート情報を直接更新します。
 - いずれかの `TakeActivity` API を呼び出して、ジョブのサポート情報をユーザーに表示します。
 - `GetWorkQueue` API を呼び出して、ユーザーの作業キューに関するサポート情報を表示します。

RESTful サービス アクティビティ

TotalAgility と外部アプリケーションと結合するには、RESTful サービス アクティビティを使用します。

RESTful サービス アクティビティは、RESTful Web サービス レファレンスを介して外部アプリケーションと結合できます。

注

- TotalAgility は単純なタイプの RESTful Web サービスのみをサポートしています。データ構造が複雑な場合は、使用しないでください。
- TotalAgility は RESTful サービス アクティビティに渡されるカスタム ヘッダーの指定をサポートしています。

RESTful Web サービスは通常、POST、GET、PUT、DELETE という 4 つの主要な HTTP メソッドを、実行する操作にマップします。

Web サービスは、基本的な HTTP メソッド (GET、PUT、POST、および DELETE) のみをサーバーに送信し、JSON または XML を応答として受信します。

例: `http://service.com/emp/123`

XML 形式:

```
<Emp>
  <Name>ABC</Name>
  <Id>321</Id>
  <Email>abc@domain.com</Email>
  <Org>Kofax</Org>
</Emp>
```

JSON 形式:

```
{
  "Name": "ABC",
  "Id": "321",
  "Email": "abc@doamin.com",
  "Org": "Kofax"
}
```

ドキュメントの作成アクティビティ

プロセス マップ内で Microsoft Word ドキュメントや HTML ファイル (Web ページ) などのさまざまなドキュメント タイプを作成するには、自動実行されるドキュメントの作成アクティビティを使用します。

ドキュメントに使用するテンプレートと、入力するプレースホルダーを指定できます。

注 新しいドキュメントの作成に使用できるのは、Microsoft Word テンプレート (.dotx) のみです。

Microsoft Word のフィールドは、ドキュメント内で変更される可能性のあるデータのプレースホルダーとして使用されます。差し込み印刷文書で定型書簡とラベルを作成する場合にも使用されます。差し込みフィールドを使用すると、個々のドキュメントの内容をカスタマイズできます。

たとえば、レターを作成する場合は、次のプレースホルダーを含むレター テンプレートを定義できます。

- <Date>
- <Recipient's Address> (受取人の名前、住所、私書箱、市区町村、都道府県、郵便コードまたは国が含まれる場合がある)
- <Salutation>
- <Subject>

- <Body>
- <Complimentary Close>
- <Signature Block>

ドキュメントの作成アクティビティでは、ドキュメントに渡された改行も考慮され、それに応じて他のテキストが調整されます。たとえば、<<Address>> を複数行にすることができます。

TotalAgility 内でテーブルを含むドキュメントを生成し、そこに渡されるライン アイテムごとに行を入力することができます。これにより、プレースホルダーに渡されるデータの形式を制御し、動的データがテーブルに自動的に入力されるドキュメントを作成することができます。

プレースホルダーを使用して、ドキュメント内のテーブルに動的データを入力します。データを入力する行および列に各プレースホルダーを配置します。たとえば、ローン申請テーブルの行 2 列 1 にデータを入力するには、プレースホルダーをそこに配置します。テーブルを参照してください。

ローン ID	ローン金額	ローン期間	申請者	住所	連絡先電話番号
<< 詳細 >>					

テーブルに配置されたプレースホルダーによって、マップされた変数のデータがテーブルに入力されます。

テーブルにデータが入力されると、テーブルの外側にあるすべてのテキストはそれに応じて移動します。

ローン ID	ローン金額	ローン期間	申請者	住所	連絡先電話番号
101	15000	5 年間	Mark	Derry	7412545612
102	30000	10 年間	Peter	Hyderabad	6455456542
103	50000	12 年間	Srinivas	London	9878455612
104	2000	1 年間	Charles	Belfast	7418529631
105	1000000	20 年間	Reddy	Derry	7456123891

テーブルに配置されたプレースホルダーによって、マップされた変数のデータがテーブルに入力されます。

注 設計時に、テーブルに必要な行数 (レコード数) がわからない場合があります。この問題に対処するには、ダイナミック複合変数を入力データを介してテーブルに渡すことで、行を動的に追加します。

Word テンプレートに基づいて HTML ページを作成し、出力を変数に保存して Designer 全体で使用することができます。

たとえば、出力変数を電子メール ノードの本文にマップすることで、選択したテンプレートに基づいて新しい HTML ページが作成されるたびに、関連するユーザーに電子メールが送信されるようにすることができます。

レビュー準備完了アクティビティ

レビュー準備完了アクティビティを使用して、チェックリストの状態をレビュー準備完了として設定します。実行時に、チェックリストの現在の状態が読み取り専用モードで表示され、次の列が編集可能なモードで表示されます。

たとえば、ドキュメントのレビュー プロセスでは、次のようになります。

1. リソース A は、「書き込み」アクティビティの一環としてチェックリストを実行します。
2. チェックリストの状態は、「レビュー準備完了」ノードによって「レビュー準備完了」に設定されます。
3. 「レビュー」アクティビティの一環としてチェックリストが利用可能になり、リソース B がチェックリストを実行できるようになります。
4. チェックリストは 2 つの列に表示されます (状態が [レビュー準備完了] であるため)。最初の列は元の値 (書き込みアクティビティで設定) が表示された読み取り専用になり、2 番目の列は編集可能になります。



複合変数アクティビティ

複合変数アクティビティを使用して、複合変数の内容を操作できます。

行を追加、削除、取得し、セル値を更新することができます。

注 複合変数アクティビティでは、ダイナミック複合変数のみがサポートされています。

カスタム サービス アクティビティ

カスタム サービス アクティビティは、ビジネス プロセス、ケースの定義カスタム サービス、およびビジネス ルールで使用可能な自動アクティビティです。

アクティビティの入出力

アクティビティの入力変数と出力変数を定義します。

入力および出力の両方に同じ変数を追加できます。ただし、同じ変数を入力や出力として複数回追加することはできません。アクティビティの入力または出力としてエンティティ変数を使用する場合は、エンティティ全体または個々の属性を入力変数または出力変数として設定します。

Kofax Transformation Designer (KTD) スクリプトで使用する分類、抽出、複合アクティビティの入力には、プロセス変数とサーバー変数の両方を使用できます (出力として使用することはできません)。ただし、使用できるのは単純なタイプの変数のみです。ドキュメント変数、フォルダ変数、チェックリスト変数、XML 変数、XML 式変数、および複合変数は使用できません。したがって、これらのアクティビティ用にドキュメント変数またはフォルダ変数を構成しても、入力変数として使用できません。複合アクティビティのスキャン プロファイル名の文字列入力変数も使用できません。

キャプチャ アクティビティの入力変数は、Transformation Designer スクリプトで利用可能になります。たとえば、「test」という入力変数を使用している場合は、次のように Transformation Designer スクリプト内でこの変数にアクセスできます。

```
pXDoc.Fields(1).Text =
pXDoc.ParentFolder.XValues.ItemByName(「KTA.InputVariable.test」).Value
```

サービス レベル契約

サービス レベル契約 (SLA) は、作業キューのアクティビティ状態のしきい値ステータスを視覚的に表現したものです。

アクティビティに対する、完全に構成可能な SLA インジケータを指定することにより、アクティビティに目標を超えるリスクが生じた時点でプロセス参加者に迅速に通知し、必要に応じて修正アクションを実行することができます。

TotalAgility は、サーバー レベルで定義される最大 5 つのステータスをサポートします。ステータス タイトル (赤、オレンジ、緑など) は構成可能です。

例: ステータスを変更するアクティビティの SLA ステータス インジケータの定義

想定期間が 2 時間となるプロセスの SLA しきい値を構成します。

- オレンジのしきい値 = 1 時間 (前)
- 赤のしきい値 = 30 分 (後)

アクティビティが午前零時 (00:00:00) に開始し、その終了予定時間が午後 2:00:00 である場合:

- 作業キューの SLA ステータス インジケータは、午後 1:00:00 まで緑色で表示されます。これは、アクティビティが保留中であり、現在の時刻がオレンジのしきい値の範囲外であることを意味します。
- 時刻が午後 1:00:01 (終了予定時間から 1 時間未満) になると、SLA ステータス インジケータがオレンジに変わります。これは、アクティビティがまだ保留中であり、完了予定であること、および現在の時刻が定義済みのオレンジのしきい値の範囲内であることを意味します。
- 時刻が午後 2:30:01 (終了予定時間から 30 分後) になると、SLA ステータス インジケータは赤に変わります。これは、アクティビティが期限超過であることを意味します。現在時刻が定義済みの赤のしきい値内に収まっているか、想定期間を超えている場合、ジョブの SLA ステータスは赤のままになります。

時間とコスト

プロセスとアクティビティの期限、サービス レベル契約、トリガー、コストのプロパティを構成できます。

プロセスの時間とコスト

期間/終了予定時間

ジョブが完了すると予想される時間です。期間は、固定 (日、時間、分単位)、動的 (日付変数)、または通過ポイントにすることができます。

サービス レベル契約

「[サービス レベル契約](#)」を参照してください。

想定コスト

ジョブを実行するための全体的な想定コストです。

予算

プロセス (主にケース フラグメント) に割り当てられた金額です。予算は、管理者が主要なビジネス プロセスを追跡および監視して、プロセスが予算内に収まっているのか、それとも予算を超過しているのかを判断するのに役立ちます。

予算には静的金額または動的金額を指定できます。

予算と想定コストは異なります。たとえば、一般的な異議申し立てケース プロセスは、異議申し立ての登録、健康診断、法廷審問の開催など、いくつかのケース フラグメントで構成されています。通常、予算はケース フラグメント全体に関連付けられており、各ケース フラグメントの想定コストの合計となります。

期間/予算トリガー

「[プロセストリガー](#)」を参照してください。

アクティビティの時間とコスト

優先度

アクティビティの重要度では、1 が最も高い優先度、100 が最も低い優先度を示します。優先度を設定すると、優先度が最も高いアクティビティが最初に選択されます。アクティビティは、期限、優先度の順に処理されます。

目標期間

アクティビティを完了するのに必要な想定期間です。目標期間は、生産性を評価するのに役立ちます。たとえば、アクティビティの想定期間が 5 分の場合、ユーザーはアクティビティの所要時間を 5 分以内に抑える必要があります。所要時間が 5 分ではなく 10 分のユーザーは、生産性が 50% と評価されます。目標期間は、固定 (日、時間、分、秒単位) または動的 (Short または Long 変数) にすることができます。

目標期限日

アクティビティが完了すると想定される期限です。目標期限日は、目標期間、変数、または通過ポイントに基づいて計算できます。

- **[目標期間]:** 期限は、アクティビティが利用可能になった時点からの目標期間として計算されます。リードタイムが使用されている場合は、「アクティビティの期限 = 目標期間 + リードタイム」となります。たとえば、アクティビティの目標期間が 4 時間、リードタイムが 2 時間に設定されている場合に、アクティビティが 12:00 に利用可能になると、アクティビティの期限は 18:00 になります (ビジネスカレンダーに応じて異なる)。ユーザーが 13:30 にアクティビティを実行し、17:30 までに完了した場合、アクティビティは期限超過になりません。ただし、ユーザーが 16:00 にアクティビティを実行し、20:00 に完了した場合、アクティビティは 2 時間の期限超過になります。
- **[変数]:** アクティビティの期限は、期限に指定された値として計算されます。リードタイムを指定した場合、アクティビティの期限は「変数 +/- リードタイム」として計算されます。ビジネスカレンダーが有効になっている場合、期限は稼働日と稼働時間に基づいて計算されます。たとえば、1 稼働日は 24 時間ではなく 8 時間に相当します。
- **[通過ポイント]:** 期限は、選択した通過ポイントに基づいて計算されます。リードタイムを指定した場合、アクティビティの期限は「通過ポイント +/- リードタイム」として計算されます。

リードタイム

ユーザーがアクティビティを実行できる期間です。たとえば、2 日に設定されている場合、ユーザーは 2 日間の期間内であればいつでもアクティビティを実行できます。

リードタイムは、負 (前) または正 (後) になります。たとえば、商品配送完了通過ポイントの値が 2012 年 2 月 17 日 17:00 の場合、最終確認アクティビティの目標期間は x (可変)、リードタイムは -1 時間になります。つまり、商品配送完了通過ポイントに到達する 1 時間前に、最終確認アクティビティを完了する必要があります。

または

商品配送完了通過ポイントの値が 2012 年 2 月 17 日 17:00 の場合、商品受領アクティビティの目標期間は x (可変)、リードタイムは 1 日になります。つまり、商品配送完了通過ポイントに到達した 1 日後に、商品受領アクティビティを完了する必要があります。

注 目標期間を使用してアクティビティの期限を計算する場合、リードタイムに負の値を設定することはできません。

サービスレベル契約

「[サービスレベル契約](#)」を参照してください。

トリガー

「[アクティビティトリガー](#)」を参照してください。

想定コスト

完了時のアクティビティ全体の想定コストです。

固定コスト

長さ (期間) に関係しない、アクティビティのコストです。

通過ポイント

通過ポイントは、主要なアクティビティまたは一連の関連アクティビティが完了したことを示します。

重要な日付やビジネス プロセスの期限などの主要イベントをマークするには、通過ポイントを使用します。たとえば、通過ポイントを使用して製品の納期をマークします。

ジョブが開始すると、通過ポイントのターゲット日の記録が開始されます。関連するアクティビティを再スケジュールすると、通過ポイントのターゲット日が自動的に変更されます。たとえば、従業員採用ビジネス プロセスに従業員開始日と 3 か月の試用期限の 2 つの通過ポイントがある場合に、従業員開始日に変更されると、3 か月の試用期限も変更されます。

プロセスレベルで通過ポイントを定義した後に、次の操作を行います。

- マップまたはアクティビティの通過ポイントを追加して、ジョブの進行状況を追跡します。暫定ターゲット日が予定より遅れている場合に追跡する暫定通過ポイントを設定し、まだ回復する時間がある間には是正措置を講じます。たとえば、研修実施プロセス全体に通過ポイントを追加するか、基本コースと上級コースに暫定的な通過ポイントを設定します。
- 通過ポイントを使用して、プロセスまたはアクティビティをスケジュールし、期限を計算します。たとえば、従業員採用日通過ポイントの日付の 4 週間後に、人事部長の作業リストにセキュリティチェック タスクが表示されるようにスケジュールします。
- 通過ポイントの前後にアクティビティをスケジュールします。たとえば、従業員開始日通過ポイントの日付の 2 日前 (-2 日) に、ネットワーク サービス作業リストに新規従業員のマシン設定タスクが表示されるようにスケジュールします。
- アクティビティが保留中または完了になったときに達成する通過ポイントを設定します。たとえば、人事部長が「面接結果に基づく最終候補者の選定」タスクを実行して完了したらすぐに達成するように、候補者選定完了通過ポイントを設定します。
- 通過ポイントの目標期限日を再スケジュールするか、変更します。この通過ポイントにリンクされた期限を使用して、アクティビティ (保留中以外) が自動的に更新されます。たとえば、面接完了通過ポイントの日付を移動すると、候補者リストや面会室予約などのリンクされたアクティビティの期限が自動的に移動されます。
- ある通過ポイントが別の通過ポイントに依存する場合は、通過ポイントが互いを基準とするように設定します。たとえば、研修資料作成完了通過ポイントの日付の基準を、研修実施通過ポイントの日付に設定します。研修を再スケジュールすると、リンクされているすべての通過ポイントの日付が自動的に再スケジュールされます。
- 通過ポイントをプロセスの状態にリンクします。たとえば、採用プロセスには、事前面接 > 面接 > 選定 > 採用という一連の状態が含まれています。

注 状態は、特定の時点におけるジョブのステータスを表します。通常は、ジョブの進行状況を監視できるように、各状態に完了率が割り当てられています。たとえば、小包は、新規 (0%) > 発送済み (70%) > 確認済み (100%) の順番で一連の状態を通過できます。

通過ポイントは、固定または動的に設定したり、他の通過ポイントを基準として相対的に設定したりできます。

- 固定通過ポイントの目標期間は、日数、時間数、分数、および秒数で指定するか、ジョブの作成日時を基準として相対的に指定します。たとえば、「採用」ジョブが開始してから 24 日後に「面接完了」通過ポイントに到達するように設定します。

- 動的通過ポイントには、期間値を含む日付変数として目標期間が設定されています。

重要 Kofax TotalAgility Workspace を使用して、実行時に通過ポイントの日付を変更することができます。通過ポイント変数の値を変更しても、通過ポイントは自動的に更新されません。通過ポイントを更新するには、UpdateJobMilestone API を使用する必要があります。

- 通過ポイントを基準として目標期間を設定した後で、実行時に別の通過ポイントを更新すると、この通過ポイントに関連するすべての通過ポイントも更新されます。たとえば、「研修実施」通過ポイントが「研修資料作成完了」通過ポイントを基準としている場合に、「研修資料作成完了」の日付を変更すると、「研修実施」通過ポイントは自動的に再スケジュールされます。

選択した通過ポイントの期限より後 (3 日後など) または前 (3 日前など) に到達するように通過ポイントを設定できます。値が 0 の場合は、相対的な通過ポイントが達成された時点で、元の通過ポイントも達成されます。

通過ポイントがプロセスまたはアクティビティに関連付けられている場合は、通過ポイントの関連付けを表示できます。

状態

状態とは、プロセスが開始から完了までに通過する変化を指します。状態を使用して、特定のジョブのステータスや完了率を監視します。たとえば、小包の注文は、注文確認済み > 梱包済み > 発送済み > 配送中 > 配達済みなど、一連の定義可能な状態を経由します。

アクションを状態に関連付けたり、状態をアクティビティに関連付けたりできます。アクティビティが保留中になって、ジョブの状態が変化すると、アクションが開始されます。ジョブのライフタイム中の任意の時点でジョブの状態が変化したときも、アクションが開始されます。たとえば、ジョブのプロパティを表示するとき、または SDK の API を使用したときに、状態が変化することがあります。

次のアクションの中の 1 つまたはすべてに状態を関連付けることができます。

- 再起動
- イベント
- 新規ジョブ

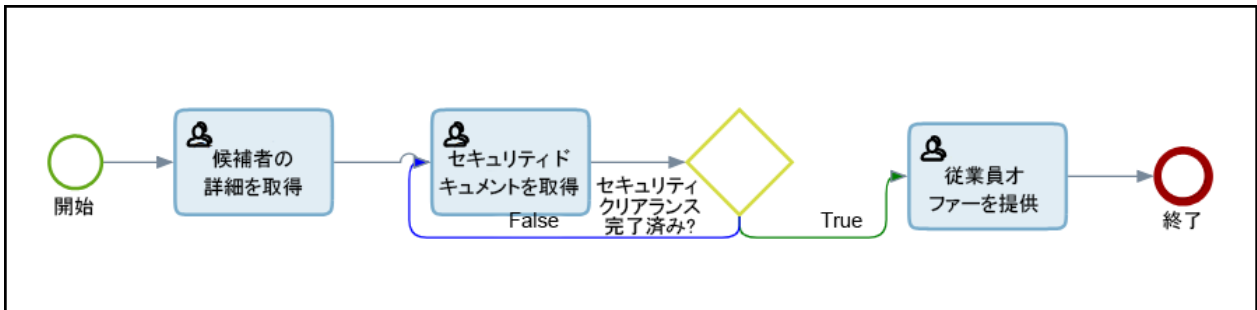
再起動アクション

特定のアクティビティをバイパスし、ジョブが特定の状態に達したときにプロセス内の別の時点でジョブを再起動するには、再起動アクションを使用します。

たとえば、従業員のオンボーディング プロセスでは、ジョブの次の状態を定義します。

- 新規従業員 (0%)
- 機密事項取扱い許可承認済み (50%)
- 従業員オンボーディング完了 (100%)

新規従業員に機密事項取扱い許可が与えられていない場合、ジョブはプロセスの開始時点でロールバックまたは再起動されます。



また、ジョブの状態が変化したときに、埋め込みプロセス内の特定のアクティビティでジョブを再起動することもできます。

注 再起動アクションを適用するには、ChangeJobState API を使用します。

イベント アクション

ビジネス イベントを状態に関連付けて、ジョブの状態が変化してアクティビティが完了したときにイベント アクションが実行されるようにするには、イベント アクションを使用します。

たとえば、最新のリアルタイム レポートを作成するには、銀行取引プロセスで顧客口座の新規作成、住宅ローンの承認などのビジネス イベントを定義してから、状態を使用して承認済みの住宅ローンを記録します。

イベントを発生させる場合は、状態イベント識別子を使用します。状態イベント識別子は状態イベントを識別して記録します。

イベントの特定のフィールドの情報を監視して抽出するには、イベント パラメータをプロセス変数にマップします。

新しいジョブ アクション

プロセスを状態に関連付けるには、新しいジョブ アクションを使用します。ジョブの状態が変化した場合にシステムがプロセスを生成して特定のアクションを実行するように、状態を設定します。関連付けられたプロセスはメイン プロセスから完全に独立しています。要件に応じて、新規ジョブを自動的に実行できます。

たとえば、商品配送プロセスで小包注文の状態が配送中から配送済みに変化した場合、システムは顧客への請求書送信という独立したプロセスを起動できます。

プロセス イベント

TotalAgility を使用すると、外部と内部 (プロセス間) の両方の同期ポイントをモデル化できます。

TotalAgility は特定のビジネス イベントを監視し、このイベントに対して「待機状態」になっているアクティビティがあれば、これを完了することで応答します。

ユーザーは、ジョブに対してイベントが実際に発生した日時を記録できます。以降は、この情報に基づいて、待機状態にあるタスクを続行または完了できるタイミングが判別されます。

TotalAgility は次の両方のタイプのイベントを処理できます:

- 外部: TotalAgility の外部で発生するイベントです。処理時間の 80% を占めます。たとえば、ローン契約に署名すると、自動車保険の申請処理を続行できるようになります。

注 外部イベントを記録するには、TotalAgility API メソッドを使用します。

- 内部 (プロセス間): TotalAgility 内の複数のプロセス マップ間で発生するイベントです。

メモ

プロセスに関連するコメントを挿入するには、メモを使用します。たとえば、メモを使用してプロセスを改善するよう提案できます。

プロセス メモを追加できるのは、Kofax TotalAgility Workspace のみです (Kofax TotalAgility Workspace のヘルプを参照)。ただし、メモを追加した後に、TotalAgility Designer でメモを表示し、このメモに対してアクションが実行されたかどうかを示すことができます。メモの詳細には、日付と、アクションの実行者の名前が表示されます。

注

- プロセス メモは、プロセス バージョンに関係なく、作成および更新されます。
- プロセス マップにメモを追加したり、プロセス マップからメモを削除することはできません。

データ モデル

プロセス、ルール、またはカスタム サービスに対してローカル データ モデルを定義できます。

ローカル データ モデルは、データ モデルを再利用する必要がない場合の 1 回限りの統合に役立ちます。ただし、後でデータ モデルを再利用する場合は、グローバル モデルにプロモートできます。

また、サンプル JSON ファイルを使用してローカル データ モデルを作成することもできます。JSON ファイルを追加すると、JSON 形式が解析され、ツリー構造が作成されます。データ モデルのフィールド名は JSON のフィールド名と一致し、フィールド タイプは JSON サンプルから暗黙的に設定されます。あいまいなフィールド タイプは文字列に設定され、フィールド タイプを変更するか、不要なフィールドを削除することで、データ モデルを編集できます。単純な JSON 文字列のデータ モデルは、ネストされたオブジェクトと複数のオブジェクトを持つ文字列、およびデータの配列を使用して作成できます。

ロール

組織は通常、指定された個人に直接作業を割り当てないで、プロジェクト マネージャーなどのロールに作業を割り当てます。

指定された個人ではなくロールを使用することで、タスクを実行する担当者の名前がわからなくても、必要なロールがわかっているれば、柔軟に対応することが可能になります。

TotalAgility では、次のいずれかに作業を割り当てることができます。

- 個人 (John Smith など)。
- ロール (経理部長など)。
- 組織グループ (経理など)。
- 不明なリソース (変数を使用し、実行時にシステムがリソースを識別する場合)。
- プロセスの以前の関係者 (ジョブ作成者や以前のアクティビティ実行者など)。

プロセスを設計する場合は、そのビジネス プロセスに固有のロールを複数定義できます。

グループまたは他のロールをロール メンバーとして使用することはできません。ただし、個人が複数のロールのメンバーになることはできます。1つのビジネス プロセスでロールに割り当てられているメンバーを変更した場合、これと同じロール名を使用しているビジネス プロセスがシステム内にあっても、このビジネス プロセスは影響を受けません。

ロールは固定または変動にすることができます。

注 固定ロールを変更した場合は、すべての既存ジョブおよび新規ジョブが影響を受けますが、変動ロールを変更した場合は、新規ジョブのみが影響を受けます。

ロールが作成されたら、アクティビティにロールを割り当てます。

アクティビティが埋め込みプロセスである場合は、親マップのロールが使用されます (ロールが既に存在する場合)。

アクティビティがサブジョブである場合は、親マップのロールではなく、サブジョブ用に作成されたロールが使用されます。

ロールのタイプ

ロールは固定または変動にすることができます。固定ロールを変更した場合は、すべての既存ジョブおよび新規ジョブが影響を受けますが、変動ロールを変更した場合は、新規ジョブのみが影響を受けません。

固定ロール

固定ロールとは、ロール メンバーがすぐに変更される可能性が低いロールのことです。たとえば、会社には通常、財務担当取締役は 1 名しかいませんが、組織によっては技術管理担当スーパーバイザーが 5 名いることがあります。

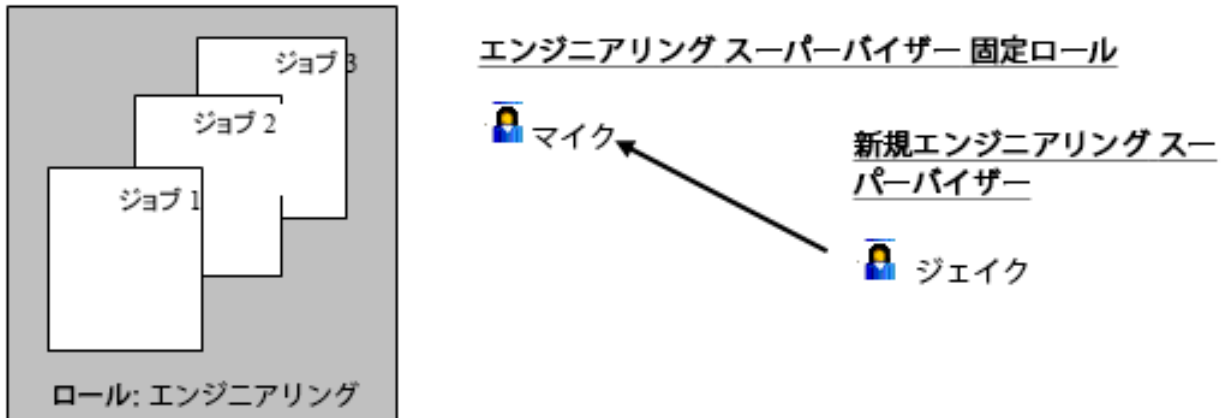
固定ロールは次の場合に使用します。

- ロールのメンバー数が増える可能性が低い場合。固定ロールに複数のメンバーを含めることはできませんが、グループまたは別のロールをメンバーにすることはできません。
- プロセス内のタスクを実行するのが、変更される可能性が低い既知のロール メンバー (ケース ワーカー) のセットであり、これらのメンバーが判明している場合。

設計中に固定ロールを変更すると、そのプロセスの任意のバージョンから作成されたすべての新規ジョブおよび既存のジョブが影響を受けます。

次の図の例では、Jake は技術担当スーパーバイザーの固定ロールに参加しています。サイト設計承認プロセスに対するすべてのライブ ジョブでこのロールにアクティビティを割り当てると、割り当てられたすべてのアクティビティが Jake に直ちに表示されます。

サイト設計の承認



変動ロール

変動ロールとは、タスクまたはジョブに応じてロール メンバーが追加または更新されるロールのことです。

変動ロールはジョブに固有で、ランタイムにジョブごとに割り当てられます。たとえば、新規の訴訟事例は特定のタイプのケース ワーカーに割り当てなければならない場合があります。麻薬事件または殺人事件の場合は、これらの分野を専門に扱うケース ワーカーが必要になります。割り当てられるケース ワーカーは、実際のジョブ インスタンスによって異なります。Web ページを使用して、ユーザーが実行時にケース ワーカーのロール メンバーを動的に入力できるように、またはいつでも役割メンバーを変更できるようにすることができます。

ロール メンバーを変更したときに、特定のプロセスに基づく特定のジョブのみが影響を受ける場合は、変動ロールを使用します。

ケース レベルで定義されたロールは、このケースに関連付けられているすべてのフラグメントが自動的に利用できるようになります。ケース レベルで行った変更は、関連するフラグメント内のすべてのアクティビティに反映されます。また、ケース フラグメント レベルでロールを定義することもできます。

リソース割り当て

リソースとロールをアクティビティに割り当てて、電子メール通知を構成します。

リソースを割り当てるには、手動で行うか、ルールを適用します。

固定リソースと動的リソース

リソースを設計時にアクティビティに割り当ててるのか、それとも実行時に割り当ててるのかに基づいて、リソースは固定または動的になります。

固定リソース

ジョブを実行できるグループ、個人、またはロールが事前にわかっている場合は、設計時にリソースを割り当てます。たとえば、従業員を雇用するには、HR を選択します。

注 プロセス マップから、そのプロセス マップ内で作成されたすべてのロールにアクセスできます。フラグメントの場合は、ケース レベルで定義されたすべてのロールも使用できます。アクティビティには、グループ、個人、変数などの他のタイプのリソースとともに、ロールを割り当てることができます。

動的リソース

アクティビティの実行時にリソースを決定するには、実行時にリソースを割り当てます。たとえば、複雑なジョブを完了するには、特定のスキル レベルを持つリソースを選択します。

手動割り当てと動的割り当て

リソースとロールをアクティビティに割り当てるには、手動で行うか、動的に行います。

リソースの手動割り当て

特定のアクティビティについて作業するリソースは、手動で定義します。リソースを手動で割り当てると、重要度の高いアクティビティにより効率的なリソースを割り当てて、作業のバランスを柔軟に高めることができます。

注 リソースを手動で割り当てることができるのは、手動アクティビティのみです。手動割り当てとルールを同時に使用することはできません。

手動割り当てを使用するようにアクティビティが設定されている場合、ステータスは [割り当ての待機中] と表示されます。ただし、アクティビティに事前条件が定義されている場合は、ステータスが [イベントの待機中] になり、必要なイベントが発生すると、ステータスは [割り当ての待機中] に変わります。

割り当て待機中のアクティビティにリソースが割り当てられると、このアクティビティのステータスは [保留中] に変わります。

リソースの動的割り当て

スキルと可用性に応じて、実行時にリソースを割り当てることができます。リソースを動的に割り当てる方法のメリットは、次のとおりです。

- 設計時に固定リソースを使用する方法と異なり、ビジネス プロセスの柔軟性が高まります。固定リソースの割り当てが有効なのは、常に利用可能な特定の人物に各アクティビティが割り当てられている理想的な作業環境に限られます。
- 実際の作業割り当てをモデル化するのに役立ちます。実際には、特定の時間に利用できる適切なユーザー (適切なスキルを持つユーザー) にのみジョブを割り当てることができます。

ダイナミック リソースを定義するには、次の手順を実行します。

プロセス用の文字列変数を定義し、この変数をリソースとしてアクティビティに割り当てます。システムは実行時に、XML 形式の ResourceID を含む値をこの変数に入力します。

注 .NET アクティビティを使用すると、メソッド呼び出しを行い、この文字列変数に入力できます。このアクティビティは通常、動的アクティビティの前に挿入されます。

TotalAgility には、動的変数として使用する API が用意されています。たとえば、DynamicResourceService はダイナミック リソース XML を作成するために使用されます。AddResource、AddGenericResource、DeleteResource、GetNumberOfResources、AddResourcesUsingServerId など、いくつかのメソッドを DynamicResourceService 内で使用することができます。リソースのユーザー名を渡し、resourcesID を XML 形式で取得するには、特定のメソッドを使用します。

使用するメソッドは、プロセス マップ内の条件によって異なります。

ルールを適用するかどうか、または以前のリソースを使用するかどうかに関係なく、リソースを動的に割り当てることができます。

ルールの適用によるリソースの割り当て

アクティビティに対するリソース要件が複雑な場合は、ルールを適用します。

たとえば、ドキュメントのレビューと承認に複数のリソースが必要な場合は、ルールを適用します。ルールを適用することにより、さまざまなリソースがある個別のアクティビティではなく、複数のリソースがある単一のアクティビティとしてレビューをグループ化できます。

単一のアクティビティだけでなく、ビジネス プロセス全体にルールを適用することもできます。サブジョブ作成アクティビティにルールを割り当てることができます。このアクティビティに割り当てられたリソースごとにサブジョブが作成されます。

注 リソースが手動で割り当てられている場合、ルールを適用できません。

アクティビティ アクセス

アクティビティで作業するユーザーが 1 人か複数か、およびアクティビティを完了する順序を指定できます。

リソースの除外

必要な変数が使用できない場合は、[アクティビティ プロパティ] パネルから新しい変数を直接作成できます。「アクティビティ プロパティの構成中にプロセス変数を作成する」を参照してください。

注

- リソースまたはルールをアクティビティの完了から除外できます。たとえば、経費の請求を送信した人 (ジョブ作成者) を除く「財務」グループの全員に経費の承認アクティビティを割り当てることができます。
- リソースが使用可能なリソースとして直接割り当てられている場合、そのリソースを除外することはできません。

終了条件を使用する

End 条件を使用して、すでにリジェクトされたアクティビティが行われないようにします。End 条件が満たされるか、すべてのリソース設定が完了したときにアクティビティが完了するように、アクティビ

ティの End 条件を設定できます。たとえば、2 人のリソースがローン承認する必要があるものの、どちらか一方がローンをリジェクトできる場合、リソース設定では両方のリソースがアクティビティを完了することが必要です。ただし、いずれかのリソースがローンをリジェクトした場合でもアクティビティを完了できるように End 条件が設定されます。

リソースとの通信

電子メール通知の設定、リソース メモの送信、またはアラートの作成を行って、リソースと通信することができます。

アクティビティ通知

アクティビティ通知を使用すると、アクティビティで作業する準備が整っていること、および作業がキューに入れられていて保留中であることを、電子メールでリソースに通知することができます。プロセス中にジョブが作成されると、アクティビティ通知が有効になっているアクティビティの使用可能なリソースに、電子メールが送信されます。

アクティビティ通知はプロセスとアクティビティに対して設定できます。プロセスに対して設定すると、以降に追加されたすべての手動アクティビティに設定が継承されます。アクティビティに対して設定すると、設定はそのアクティビティにのみ適用されます。

件名や本文などの電子メールのコンテンツを作成したり、電子メールに URL を埋め込んでユーザーを仕事に直接誘導したりできます。たとえば、ローン申請フォーム検証アクティビティで、銀行役員にローン申請の詳細を確認するよう警告するアクティビティ通知を設定します。電子メールに埋め込まれた URL をクリックすると、顧客の詳細が掲載された関連 Web ページや、この詳細を含む関連ジョブが起動するため、役員はローン申請を承認またはリジェクトすることができます。

注 アクティビティ通知が機能するのは、「システム: 電子メール アクティビティの処理」プロセスマップがインストールされている場合のみです。「[システム プロセス](#)」を参照してください。

リソース メモ

リソース メモを使用すると、別のリソースにメモを直接送信できます。

他のリソースから送信されたメモを読んだり、新しいメモを作成したり、読んだメモを削除したりするための完全な API セットが用意されています。

この機能は、TotalAgility Workspace のリソース メールボックスで利用できます。TotalAgility Workspace にログオンすると、受信トレイ内にあるすべてのメッセージを表示して、返信したり、新しいメッセージを他のリソースに送信したりできます。

また、メール サーバーを使用せずに、TotalAgility Workspace 内で効率的に通信することができます。たとえば、この機能を使用して、優先度の高いケースを取得するようにリソースに指示することができます。また、関連するユーザーに TotalAgility Workspace 内から、簡単にメモを投稿できます。また、任意の未読のメモを表示することもできます。

未読の未解決メモがある場合は、TotalAgility Workspace のヘッダーに未解決メモのアイコンが表示されます。

アラート

目前に迫っている上申がある場合は、これを通知するアラートがリソースの作業キューに表示されます。

通過ポイント、プロセス、またはアクティビティのアラートを作成できます。

トリガー

トリガーとは、応答を自動的に開始できるユーザー定義の条件のことです。違反を回避し、ビジネスプロセスの管理効率を上げるのに役立ちます。

たとえば、プロセスの予算使用率が 90% に達したら実行し、ビジネスプロセスが予算を超過しそうになったら事前に通知するように、予算トリガーを設定します。

トリガー タイプ

TotalAgility には、次のタイプのトリガーが含まれています。

- 予算トリガー: コスト違反を回避します。
- 期間トリガー: プロセスの目標期間違反を回避します。
- アクティビティトリガー: アクティビティでの目標期間違反を回避します。
- 通過ポイント トリガー: 期限違反を回避します。
- アラート: 差し迫った上申をリソースに通知します。

トリガーの作成

ジョブの期間、予算、アクティビティの期限、または通過ポイント トリガーを処理する特定のジョブを作成するには、上申マップを使用します。

注 トリガーの実行元を追跡するには、変数を初期値パラメータとして上申マップに割り当てる必要があります。

または、アラート タスクを作成して作業キューに表示し、差し迫った上申があれば、リソースに通知します。

ジョブまたはアクティビティに複数のトリガーを関連付けることができます。たとえば、人事採用プロセスの面接のスケジュール通過ポイントでは、2つのトリガーを設定します。

- すべての事前面接タスクが完了していることを確認できるよう、ターゲット通過ポイント日付の 2 日前に実行するトリガー 1。
- ターゲット期限に合格してから 2 日後に実行して、内定通知またはリジェクト レターを送信するよう通知するトリガー 2。

プロセス トリガー

サービス レベル契約をアクティブに管理するためのプロセス トリガーを作成します。

プロセス トリガーには、以下が含まれます。

- 期間トリガー
- 予算トリガー

期間トリガー

想定されるジョブ期限を基準とする相対的な設定期間が過ぎたときにプロセスが実行する期間トリガーを設定します。期間トリガーは、ビジネス プロセスの進行状況を監視し、適切なタイミングで確実に上申する場合に役立ちます。

トリガーはアクティブなジョブに対してのみ実行されます。ジョブがホールド中または完了している場合は実行されません。例については、次の表を参照してください。

ジョブの期限	ジョブの上申日	ジョブ ステータス	現在の日付	トリガーが発生の有無? 発生/発生しない
2013 年 6 月 26 日 12.00.00	2013 年 6 月 26 日 12.00.00	ジョブは存続	2013 年 6 月 26 日 12.00.00	はい
2013 年 6 月 26 日 12.00.00	2013 年 6 月 26 日 12.00.00	ジョブ完了	2013 年 6 月 26 日 12.00.00	いいえ
2013 年 6 月 26 日 12.00.00	2013 年 6 月 27 日 6.00.00	ジョブは存続	2013 年 6 月 27 日 6.00.00	はい

予算トリガー

ビジネス プロセスの予算またはコストは、リソースとプロセスの関係を示します。これらは管理ベンチマークをサポートし、時間とともに競争力と費用対効果を高める役割を担っています。

予算トリガーは、予算を超えようとしているビジネス プロセスを監視し、対処するのに役立ちます。予算消費額が通常のビジネス許容値の範囲外にある場合、つまり完了したジョブの想定コストが推定目標予算を下回るか、上回った場合に、対処するように予算トリガーを構成することができます。

予算トリガーは通常、リソース コストを使用するビジネス プロセスに使用されます。予算消費額はリソース コスト、固定コスト、およびタスクの実際の作業時間に基づいて計算されます。

例: 指定した許容値、予算、およびジョブ コストに対してトリガーが実行されるタイミングを示す場合

指定した許容値、予算、およびジョブ コストに対してトリガーが実行されるかどうかの例については、次の表を参照してください。列の説明は次のとおりです。

- 予算: 設計時に設定された予算です。
- 累積コスト: 許容値と予算を使用する、マップ上に作成されたジョブの累積コスト。
- 目標予算許容度 (%): 予算に対する割合で指定した、トリガーが起動される許容度。
- トリガー発生の有無?: トリガーが発生するかどうか。トリガーが発生した理由、または発生しなかった理由。

予算	累積コスト	目標予算許容度 (%)	トリガー発生の有無?
300 ポンド	>=30	10%	発生。 このジョブのコストが 30 ポンドに達するとすぐに、トリガーが実行されます。
500 ポンド	>=450	90%	発生。 ジョブのコストが 450 ポンド、つまり 500 ポンドの 90% に達すると、トリガーが実行されます。
300 ポンド	140	50%	発生しない。 累積コストはわずか 140 ポンドであり、150 ポンド (300 ポンドの 50%) に達していないため、トリガーはまだ実行されていません。
1000 ポンド	1090	110%	発生しない。 コストがまだ 1100 ポンド (1000 ポンドの 110%) に達していないため、トリガーはまだ実行されていません。
100 ポンド	>=120	120%	発生。 コストが 120 ポンド (100 ポンドの 120%) に達しているため、トリガーは実行されます。

通過ポイント トリガー

ターゲット日に近づいたアクションを実行するには、通過ポイント トリガーを使用します。たとえば、プロジェクトの期限に間に合わない場合は、通過ポイント トリガーを使用してプロジェクト マネージャーに自動的にアラート (電子メール) を送信し、プロジェクトに割り当てるリソースを増やすか、期限を調整するよう促すことができます。

通過ポイントの期限の前後にプロセスを実行するための通過ポイント トリガーや、通過ポイントの期限に間に合ったときにプロセスを実行するための通過ポイント トリガーを定義することができます。

例: 通過ポイント トリガーを作成するには

次の情報を使用して、サンプル プロセス マップ内に通過ポイントを作成します。

通過ポイント名	ターゲット日	トリガー起動目標
通過ポイント 1	ジョブの開始日から 2 日後。	+1 日 0 日 -1 日

2016 年 9 月 26 日の T0 = 12 時に、サンプル マップでジョブを作成します。

通過ポイントのターゲット日は、ジョブの作成日から 2 日後であるため、2016 年 9 月 28 日の 12 時になります (ビジネス カレンダーはオフ)。

• 通過ポイントが達成されない場合は、次の日付にトリガーが実行されます。

1. 2016 年 9 月 27 日 12 時 - トリガー実行ターゲット日の 1 日前
2. 2016 年 9 月 28 日 12 時 - トリガー実行ターゲット日当日
3. 2016 年 9 月 29 日 12 時 - トリガー実行ターゲット日の 1 日後

- たとえば、2016年9月27日18時(最初のトリガーが実行されてから6時間後)に通過ポイントが達成された場合、この時点では通過ポイントが達成されていないため、最初のトリガーのみが2016年9月27日12時に実行されます。2番目と3番目のトリガーは実行されません。これらのトリガーの実行ターゲット日の前に通過ポイントが達成されたためです。

実際のトリガー実行日は、監視間隔によっても異なります。たとえば、1時間ごとにチェックするように監視が構成されている場合に、システムの最終チェック時刻が12:20だったとします。この条件で、トリガー実行時刻が12:30に設定されている場合、実際のトリガーは1:20に実行されます(次にシステムがチェックされる時刻)。

アクティビティトリガー

アクティビティトリガーは、アクティビティの期限に対して設定されます。

アクティビティが期限超過になる理由としては、さまざまなケースがあります。割り当てられたリソースが作業による過負荷に陥ったり、病気になったりする可能性もあります。適切なタイミングで上申を行うことで、時間どおりにアクションを実行することができるようになります。

アクティビティトリガーは、アクティビティの期日を基準にして一定の期間が経過したタイミング、およびアクティビティが保留中になるか実行されたタイミングで実行されます。ただし、アクティビティの期限に達する前にアクティビティトリガーを実行するように設定することができます。完了したアクティビティまたはホールド中のアクティビティにトリガーを実行することはできません。たとえば、アクティビティを選択して実行しているリソースがない(つまり、ビジネスプロセスが正常に進行していない)場合は、アクティビティの期限の2日前にアラートが必要になる場合があります。

例: 顧客に通知するトリガー

ローン申請プロセスマップで、顧客への通知アクティビティに対して次のトリガーを作成します。

アクティビティ	期限	目標発生日	上申プロセス
顧客への通知	2012年9月28日 12.00.00	-1日	ローン申請
顧客への通知	2012年9月28日 12.00.00	0日	ローン申請
顧客への通知	2012年9月28日 12.00.00	+2日	ローン申請

- 2006年9月26日12.00.00に顧客への通知アクティビティが保留中になった場合、トリガーは次の日付に実行されます。

A	2006年9月27日12.00.00 - トリガー発生日目標期間が-1日となる時点
B	2006年9月28日12.00.00 - トリガー発生日目標期間が0日となる時点
C	2006年9月30日12.00.00 - トリガー起動日目標期間が+2日となる時点

- 最初のトリガーが実行された後、または2006年9月27日12.00.00を過ぎた後にアクティビティが完了した場合、トリガーBとCは実行されません。

予測可能モデル

予測可能モデルとは、結果の可能性を予測するために使用される統計手法のことです。

たとえば、販売の成功は、販売の価値や製品タイプなどの特定の要因に依存する場合があります。予測可能モデルを使用すると、プロセス内でデータを分析し、洞察を行ってタスクに優先順位を付け、ビジネスに最適な結果を得るための判断を下すことができます。

たとえば、保険会社では、保険販売に特化したプロセスがあります。保険会社では過去の経験を元に、若い男性をターゲットにすると成功率が高くなることを把握しています。四半期末までに販売目標を達成する確率を高めるために、保険会社は保険販売の成功見込み度を表すスコアの計算モデルを定義します。

各モデルは、結果に影響を与える可能性が高いいくつかの変数 (予測子)、および統計モデルを作成するための対応する重み付けとスコアで構成されています。

例: 予測可能モデルの使用法を示す手順

1. 3つのプロセス変数を定義します。スコア (Long)、性別 (文字列)、年齢 (Long) です。
2. 性別と年齢に基づくモデルを作成し、年齢が 25 ~ 30 歳の場合のスコアを計算します。
3. 次の表に示すように、変数の値/範囲および重みを定義します。

注 変数を複数回追加し、値または範囲に応じて異なる重みを加えることができます。

プロセス変数	値/範囲	重み
性別	男性	2
性別	女性	1
年齢	25 未満	4
年齢	25 より大きく、30 以下	3
年齢	30 より大きく、50 以下	1

4. 次のようなスコア ルールを作成して、スコアリング システムを定義します。性別 + (年齢 * 2) したがって、26 歳の男性のスコアは 8、18 歳の男性のスコアは 10 です。この結果得られたスコアを決定ロジックおよび作業割り当てルールで使用すると、高スコアの保険要求があった場合に適切なレビュー担当者に振り分けることができるため、会社の潜在的な収益が増加します。

アクセス

プロセスの可用性と機能アクセスを構成します。

[利用可能 (開始)] および [利用可能 (終了)]

特定の日にプロセスをアクティブまたは非アクティブにできます。

設定されている場合、アクティブ期間が終了するとすぐにプロセスは期限切れになります。それ以外の場合は、アクティブなままです。たとえば、衣料品店はクリスマス割引セールの実行を決定し、シーズン開始時に始まり、シーズン終了時に期限切れになるプロセス マップを作成します。

[ジョブ作成フォーム]

新規ジョブ作成フォームを生成するときに「関連するフォームでプロセスを更新する」を選択した場合は、デフォルトで [ジョブ作成フォーム] フィールドに生成されたフォームの名前が表示されます。別の新規ジョブ作成フォームを関連付けるには、別のフォームを選択するか、静的な値を指定します。

[ヘルプ テキスト]

プロセスに関する情報です。テキストは、[プレーン テキスト] または [URL] として Web ページに追加できます。

[所有者]

プロセスで作成されたジョブの所有者です。設計時にプロセス所有者を指定できます。所有者とは、個々のリソースまたはグループのいずれかを指定できる固定リソースのことです。所有者に指定できるのは、一度に 1 つのリソースのみです。

プロセス設計時にプロセス所有者を指定すると、ジョブの所有者がこのリソースに設定されます。それ以外の場合は、ジョブを作成したリソースがデフォルトで所有者になります。

ジョブの所有者を使用すると、リソースをアクティビティに動的に割り当てることができます。この所有者に属するジョブを検索することもできます。

たとえば、多くの組織では、誰が仕事を実行または完了したかに関係なく、ジョブについてはリソースが責任を負います。ジョブ所有者機能を使用すると、所有者となっているリソースは自身が関心を持っているジョブを表示することができます。

現在の所有者または所有者のスーパーバイザーは、ジョブの存続期間中であればいつでも、ジョブの所有者を変更できます。

メンテナンス アクセス

プロセス マップのメンテナンス アクセス許可を持つリソースは、リソースの追加や削除、アクセス タイプに応じてシステム上でメンテナンスを行うためのリソースのアクセス権の変更が可能です。

複数のグループまたはリソースをプロセスに割り当て、それらのアクセス レベルを設定できます。

メンテナンス アクセス許可には、次のアクセス タイプが含まれます。

オプション	説明
[フル コントロール]	このアクセス タイプのユーザーは、プロセスの変更、他のユーザーのアクセス許可の設定および変更が可能です。デフォルトでは、「全員」グループにはフル コントロールがあります。

オプション	説明
[読み取り/書き込み]	このアクセス タイプのユーザーはプロセスを変更できますが、アクセス許可を変更することはできません。
[読み取り]	このアクセス タイプのユーザーは、プロセスの表示のみが可能です。プロセスの変更、他のユーザーのアクセス許可の設定および変更はできません。

リリース時

変更がレビューされて承認されるまで、このプロセスの最終リリースを遅らせるために使用できるプロセスを設定できます。プロセスは待機状態のままになり、最終リリースは保留中になります。

デフォルトの設定

プロセス レベルでアクティビティのデフォルトのリソースと通知を構成します。

アクティビティのデフォルト

各手動アクティビティに個別にリソースを追加する必要がないように、デフォルトのリソースを指定します。プロセスに新しいアクティビティが追加されるたびに、デフォルトのリソースがそのアクティビティに自動的に追加されます。デフォルトのリソースは、個々のリソース、グループ、ロール、またはすべての組み合わせにすることができます。

デフォルトでは、すべてのユーザー (グループ) がアクティビティのデフォルト リソースです。デフォルトのリソースを変更するには、次の手順を実行します。

アクティビティ通知のデフォルト

アクティビティ通知を使用すると、アクティビティで作業する準備が整っていること、および作業がキューに入れられていて保留中であることを、電子メールでリソースに通知することができます。プロセス中にジョブが作成されると、アクティビティ通知が有効になっているアクティビティの使用可能なリソースに、電子メールが送信されます。

アクティビティ通知はプロセスとアクティビティに対して設定できます。プロセスに対して設定すると、以降に追加されたすべての手動アクティビティに設定が継承されます。アクティビティに対して設定すると、設定はそのアクティビティにのみ適用されます。

件名や本文などの電子メールのコンテンツを作成したり、電子メールに URL を埋め込んでユーザーを仕事に直接誘導したりできます。たとえば、ローン申請フォーム検証アクティビティで、銀行役員にローン申請の詳細を確認するよう警告するアクティビティ通知を設定します。電子メールに埋め込まれた URL をクリックすると、顧客の詳細が掲載された関連 Web ページや、この詳細を含む関連ジョブが起動するため、役員はローン申請を承認またはリジェクトすることができます。

注 アクティビティ通知が機能するのは、「システム: 電子メール アクティビティの処理」プロセスマップがインストールされている場合のみです。「[システム プロセス](#)」を参照してください。

プロセス変数

変数がプロセス変数、ケース変数、サーバー変数のいずれであるかを識別するために、変数に接頭辞を付けることを許可します。

変数には、次の方法で接頭辞が付けられます。

- プロセス変数の先頭には「p」が付きます。例: p_SessionId。
- ケース変数の先頭には「c」が付きます。例: c_SessionId。
- サーバー変数の先頭には「s」が付きます。例: s_SessionId。

ケースの完了

実際には、いくつかの関連付けられたジョブがケースの一部として実行される場合があります。ケースが完了すると、関連付けられたジョブに影響します。ケースを構成して、ケースの完了時の関連付けられたジョブのフローを定義できます。たとえば、別のビジネス プロセスを開始して、正式な終了手順を呼び出します。

ケースの完了時に、実行している関連付けられたすべてのケース (ジョブ) を強制終了するか、実行したままにするように、ケースを構成できます。たとえば、裁判所が訴訟ケースの完了時に、訴訟のすべてのケースの原告に対して補償金を支払わなければならないと決定した場合、各原告に対して支払いの手配を開始するためにジョブを維持するように訴訟ケースを構成できます。訴訟が強制終了された場合、原告に対して支払いは行われません。

注 ケースの完了イベントが実行される前に、関連するすべてのジョブを完了する必要があります。

ケースが強制終了されると、そのケースに関連付けられているすべてのジョブも強制終了されます。

履歴、レポート、および実行

データの履歴、およびレポート作成と実行のプロパティを記録するようにプロセスを構成します。

履歴

[履歴の記録]

実行済みのアクティビティや完了したアクティビティなど、データの履歴を記録します。「[終了済みジョブのアーカイブ](#)」も参照してください。

[無期限に保持]

デフォルトでは、プロセスは無期限に保持されます。保持期間を定義することにより、プロセスを特定の期間保持できます。保持期間が終了すると、ジョブは自動的に削除されます。

プロセスを特定の期間保持するには、**[無期限に保持]** をオフにして、保持期間を年、月、日で構成します (デフォルト: 1 年、最小値: 1 日)。

注 削除は回復不可能なアクションです。

保持ポリシーはシステム レベルで構成することもできます。

レポート

レポート プロパティは、データ分析を行う場合に役立ちます。

[分析に含める]

Kofax Analytics for TotalAgility レポートでプロセスのジョブに関連するデータを選択し、プロセス データを分析できるようにします。

[レポート タグ]

プロセスにレポート タグを追加できるようにします。これにより、Kofax Analytics for TotalAgility はレポートにカスタム フィルタを適用できるようになります。

[キャプチャ プロセス]

プロセスをキャプチャ プロセスと見なすことにより、Kofax Analytics for TotalAgility レポート内のデータを使用して、返されたデータをフィルタリングできるようにします。

実行

実行のプロパティは、アクティビティの実行を制御し、プロセス内で外部アセンブリ コンポーネントを使用できるようにする場合に役立ちます。

[スレッド プール]

複数の同時アクティビティの実行を制御できるように、マップに関連付けるスレッド プールです。「[スレッド プール](#)」を参照してください。

[最大ループ数]

同期ジョブまたはビジネス ルールでアクティビティを実行できる回数を定義できます (デフォルト: 1000)。

同期ジョブまたはビジネス ルールでの連続的なループは、TotalAgility サーバーで高負荷なワークロードを引き起こす可能性があります。最大ループ数は、TotalAgility サーバーのワークロードの削減に役立ちます。

[.NET アセンブリ]

プロセスで外部アセンブリ コンポーネントを使用できるようにする場合に、プロセスに関連付ける .NET アセンブリです。

例外

例外は、プロセスの実行中に特定の状況が発生した場合にユーザーにエスカレーションするための方法です。

たとえば、システムが重要なデータをダウンロードするためのリモートサーバーに接続できない場合、または特定のジョブを取得するためのリソースが利用できない場合に、例外が発生します。

プロセス マップをエスカレーション プロセスとして割り当てることにより、例外を処理できます。たとえば、顧客が支払期限までに保険料を提出しなかった場合に、自動的に電子メールを送信するように保険料ポリシー プロセスを設定するといったことが考えられます。

TotalAgility には事前定義された例外処理コードが用意されています。各例外コードは、特定の種類の例外 (プロセス マップ) のプレースホルダーです。マップでこれらのプロセスを使用することで、スループット、容量、ワークロードの変更といった予期しないイベントに対して、手動での介入やプロセスを強制終了することなく対処することができます。

例外コードが呼び出された場合に実行するプロセス マップを作成する必要があります。たとえば、例外コード EXP0001 は、リソースが過度の期間、非アクティブになった場合に呼び出されます。

最も頻繁に使用される例外の例:

EXP0013 - アクティビティの期限: アクティビティの期限を超過するとトリガーされます。

EXP0005 - ジョブ期間の超過: ユーザーがジョブを終了するまでに想定以上の時間がかかるとトリガーされます。

定義済みの例外コードに関連付けられたマップは、次のカテゴリに属します。

- ワークロードの例外マップ: これらのマップにより、ジョブ期間の超過やアクティビティの期限超過など、通常のビジネス許容範囲を超えて実行されるコストやタイミングなどのビジネス例外を処理します。
- システム障害の例外マップ: これらのマップは、システム プロセスの一部の要素が失敗した場合に実行されます。たとえば、情報をダウンロードするためにリモートサーバーに接続できない場合や、スク립ト オブジェクトの実行に失敗した場合に実行されることがあります。

プロセスの関連付け

プロセス マップ、フォーム、または通過ポイントは、プロセス内または多くのプロセス マップで使用できます。

たとえば、マップ内で変数を使用する場合は、初期値パラメータとして使用するか、ジョブの動的な終了予定時間として使用することができます。アクティビティ内では、ダイナミック リソース変数または出力パラメータとして使用できます。同様に、マップ内で通過ポイントを使用する場合は、想定期間で使用するか、相対的な通過ポイントとして使用することができます。アクティビティ内では、目標期限日で使用するか、アクティビティが利用可能になった場合や完了したときに到達する通過ポイントとして使用することができます。1つのプロセス マップでこれらの項目のいずれかを変更または更新すると、他の複数のマップも影響を受ける可能性があります。

関連付けを表示して、以下を確認してください。

- 現在のプロセスを使用するプロセス。
- 現在のプロセスで使用されているプロセス。
- 現在のプロセスで使用されているフォーム。
- マップまたはアクティビティで使用されているサーバー変数。
- 現在のプロセスで使用されているリソース。
- 現在のプロセスで使用されている項目をキャプチャします。
キャプチャ項目には次のものがあります: 分類および抽出グループ、フォルダ タイプ、分割、スキャン/VRS、PDF、およびドキュメント変換プロファイル。
- マップまたはアクティビティで使用されている通過ポイント。
- 現在のプロセスで使用されている統合。
- 現在のプロセスで使用されているデータ モデル。

関連付けを行うと、プロセス マップ全体が可視化されるため、プロセス マップをより効率的に管理およびメンテナンスできるようになります。

表示できるのは、保存またはリリースされたマップの関連付けのみです。

ケースの定義

ケースの定義は複雑なワークフローであり、ユーザーとの対話が必要になることがあります。このワークフローには、決定ポイント、埋め込みプロセス、およびフラグメントを含めることができます。

ケースの定義には、複数の部門で実行され、複数の情報源を使用する、いくつかの複雑なプロセスを含めることができます。たとえば、異議申し立てケースの処理は、異議申し立ての登録、法廷セッションの設定、カルテの確認、異議申し立てのクリアランスなど、幅広いドキュメントやフォーム、多数のプロセスで構成できます。これらのビジネス プロセスは互いに独立して実行できますが、関連先は 1 つのケース (異議申し立て) です。

ケース プロセスには、ケース全体をサポートするために使用される基本ケース プロセスと、いくつかの標準のプロセスまたはフラグメントを含めることができます。これらはすべて、ケース固有の情報を収集および共有するためにリンクされています。

注 標準のプロセスとフラグメントをケースに関連付けて、通過ポイントやロールなどのすべてのケース固有のデータへのアクセスを許可することができます。

ケース マップには、以下を設定して使用することができます。

- 通過ポイントの日付または主要なターゲット日。異議申し立てケースの最初の登録日から 14 日以内のヒアリング日などです。
- プロセス内のアクティビティを完了するためのロール (リソース)。異議申し立てケース フラグメント内の異議申し立て担当者や法定代理人などです。
- ケース固有の情報を格納する変数。この情報は、ケースに関連付けられた標準のビジネス プロセスを含むすべてのフラグメントで、簡単にアクセスおよび利用できます。

フラグメント

ケースフラグメントとは、ケースプロセス内で開始および使用され、他のプロセスまたはケースからは使用できないサブプロセスのことです。たとえば、患者はケースプロセスとして表され、診断はケースフラグメントと見なされます。患者が検査を受けると診断ケースフラグメントは完了しますが、ケースプロセスは患者が退院するときに完了します。

- ケースフラグメントはプロセスと同様に、ノード、データ、SLA、リソースなど、標準のプロセスのすべての属性を保持しています。ただし、フラグメントはそれが作成されたケースに依存し、他のプロセスまたはケースで再利用することはできません。
- ケースフラグメントは、呼び出し元のケースのプロパティを継承します。
- ケースフラグメントは、変数や通過ポイントなどのケース要素に直接アクセスできます。

プロセスとフラグメントの比較の詳細については、Kofax TotalAgility ベストプラクティスガイドの「フラグメントとプロセスの比較」を参照してください。

プロセスとケースの比較

標準のプロセスとケースには、いくつかの重要な類似点と相違点があります。

- 実行時にケースをインスタンス化したものが、ケースフラグメントです。これは、ジョブと標準のビジネスプロセスの関係に似ています。
- 標準のビジネスプロセス(プロセスマップに基づく)は、一連のステップを、特定の固定された順序で開始から終了まで実行します。
- ケースには、実現ノルマの一般的なフローを示す基本プロセスがありますが、そのとおりに開始から終了まで実行されるとは限りません。基本プロセスは、プロセスマップでなく、ケースIDを介してケース情報に関連付けられています。
- フラグメントは、ケースのライフタイム内の任意の時点で開始できるため、プロセス内の特定の開始点またはプロセスマップに関連付けられません。

ケースとプロセスの比較の詳細については、Kofax TotalAgility ベストプラクティスガイドの「ケースとプロセスの比較」を参照してください。

ドキュメント プロセス

プロセスマップの設計ドキュメントを生成できます。

このドキュメントには、リソース、アクティビティ、および関連付けられたパラメータなど、設計で使用する情報すべての詳細がまとめられています。

特定のバージョンのプロセスマップに対して設計ドキュメントを生成できます。

ビジネス ルール

ビジネス ルールを使用すると、プログラミングなしで複雑なビジネス ロジックを構築し、ビジネス上の意思決定を自動化および最適化することができます。

たとえば、店舗は次の割引サービスを行います。

- £100 ~ £1000 の購入額については 5%
- £1000 を超えるすべての購入額については 10%

次のロジックを使用して、割引後の支払い額を計算できます。

```
IF Amount >=100 and <=1000 THEN Discount =5%
IF Amount > 1000 THEN Discount = 10%
Else Discount = 0%
Amount to Pay = Amount - (Amount/ 100) X Discount
Return Amount to Pay
```

ビジネス ルールはルールを図示したものです。ユーザーはビジネス ルールを使用することで、TotalAgility のすべてのバックエンド統合機能を使用して、ルール内で使用するデータを外部ソースから取得することができます。また、プロセス マップの決定ロジックおよび複数分岐ルール ロジックを使用して、ルールを作成し、出力値を決定できます。

以下のビジネス ルール タイプを作成できます。ルール タイプに基づいてビジネス ルールを設計します。

- フロー ルール: 現在のビジネス ルール
- デシジョン ツリー
- デシジョン テーブル

ビジネス ルールには、次の要素が含まれます。

- 入力
- ルールの条件
- 出力

ビジネス ルールを作成、コピー、変更、削除、ロック解除、タグ付けすることができます。

また、ビジネス ルールの特定のバージョンを表示、ロック解除、削除したり、以前のバージョンに戻したりできます。

ビジネス ルールの保守性とテストの詳細については、Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイドの「ビジネス ルール」を参照してください。

スキン

ビジネス プロセス アウトソーシング機能を使用すると、複数のコア プロセスを持つ組織およびシェアード サービス センターは、通常であれば複数の製品と顧客に使用される同一のプロセスを、さまざまな視点で表示することができます。

複数のプロセスの構造が同じであっても、リソース、SLA などに関するルールが異なる場合は、スキンを使用することで、プロセスのコピーを個別に管理およびメンテナンスしなくても、プロセスのさまざま

まなバリエーションを作成することができます。これにより、メンテナンスのオーバーヘッドが大幅に削減され、テンプレートに加えた変更をすべてのスキンに即座に反映できるようになります。

たとえば、ゴールド顧客の場合はプロセスを1日で完了し、シルバー顧客の場合は2日で完了する必要があります。または、プロセスが重要である場合は専門グループに転送し、重要でない場合は一般的なグループに転送する必要があります。いずれの場合も、同じプロセスのバリエーションを2つ作成することができます。

スキンにタグを付けることで、スキンの内容を説明するテキストを追加したり、検索しやすくしたりできます。

テンプレート

プロセスをテンプレートとして設定することができます。プロセスをテンプレートとして設定すると、テンプレートを基にしてスキンを作成できるようになります。テンプレートを変更すると、各スキンに変更が自動的に適用されます。

注 スकिनは常にプロセスの最新バージョンに適用されます。

スキン内でプロセスのプロパティ、変数、およびアクティビティを上書きできます。

ヒント プロセスの一部について構造の変更が必要になる可能性がある場合は、埋め込みプロセスを使用することで、スキン内の埋め込みプロセスを上書きできるようになります。

ルール

スキンは、定義されたスキン ルールに基づいて呼び出されます。たとえば、ゴールド顧客にはゴールドスキンが使用され、シルバー顧客にはシルバー スキンが使用されます。

テンプレートを基にジョブが作成されると、ルールが評価されます。スキンに複数のバージョンがある場合は、アクティブな最新バージョンのスキンを基にジョブを作成する必要があります。true と評価された最初のルールがこのスキンを使用します。また、スキンに行われたすべての上書き設定が使用されます。このスキンのルールが true と評価されなかった場合は、次のスキンに移動し、ルールが合格するまで同じ処理が繰り返されます。true と評価されるルールがない場合、プロセスは上書きを行わないで処理を続行します。

ジョブのライフタイム中であれば、スキンを再評価できます。たとえば、データを変更すると、異なるスキンが呼び出されたり、スキンが呼び出さなかったりする可能性があります。

カスタム サービス

カスタム サービスとは、プロセス、ビジネス ルール、ケースの定義、またはフォーム内で使用するカスタム ロジックを指定することが可能なビジネス プロセス タイプです。

カスタム サービスは自動アクティビティのみに対応しており、手動アクティビティはサポートしていません。

カスタム サービスを作成、コピー、変更、削除、ロック解除、タグ付けすることができます。

システム プロセス

製品の機能をサポートするために、完全にカスタマイズ可能な多数のシステム プロセスが TotalAgility オンプレミスと一緒にインストールされています。

システム: Active Directory の同期

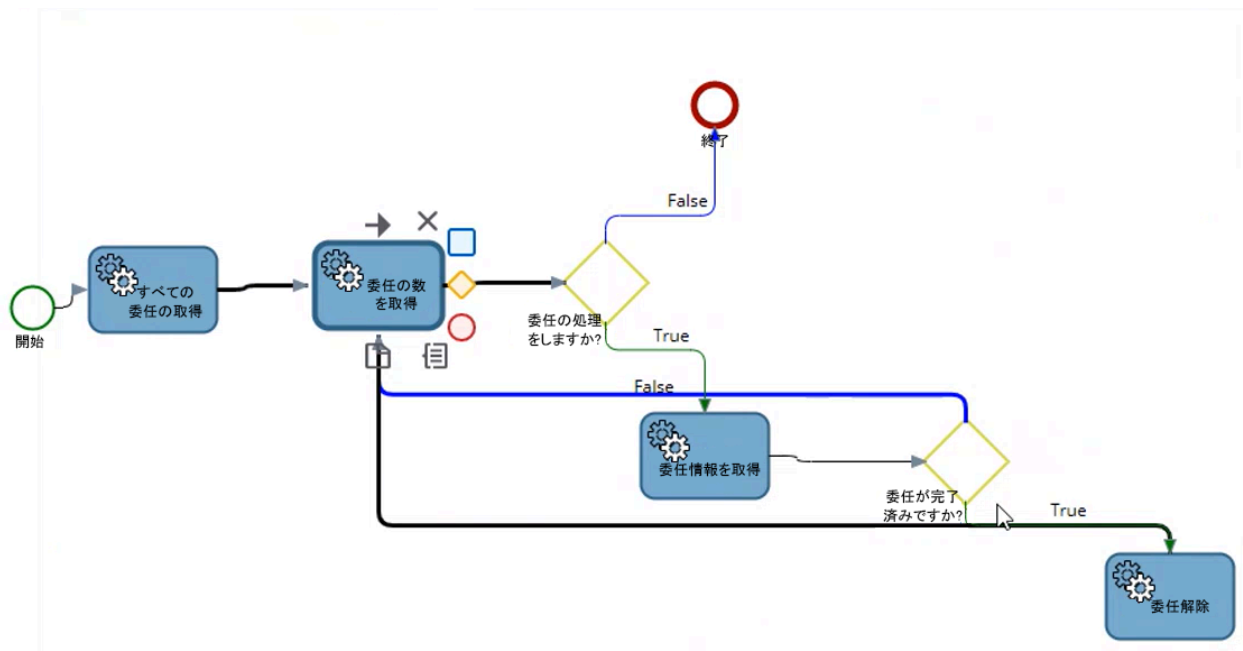
Active Directory (AD) リソースと TotalAgility を同期するには、このマップを使用します。このマップは、Active Directory 内の組織単位とその関連グループおよびユーザーを同期します。組織単位外のコンテナ、オブジェクト、またはユーザーは同期しません。

注

- TotalAgility Active Directory の同期は受動的です。Active Directory で何かを追加、更新、または削除することはできません。その他のセキュリティ対策として、Active Directory のオブジェクト ID は難読化され、リソース ID として TotalAgility に保存されます (16 進数変換)。TotalAgility のリソース ID を使用したとしても、Active Directory 内にある同じリソースを特定することはできません。
- TotalAgility 統合サーバーは、Active Directory 同期システム プロセスをサポートしていません。

システム: 完了した委任の確認

終了日が過ぎたら、このマップを使用して冗長な作業委任ルールを削除します。



冗長な委任を確認して削除するために、毎晩午前 0 時 1 分になると、このマップ上でスケジュールされたジョブが実行されます。

システム パスコード通知

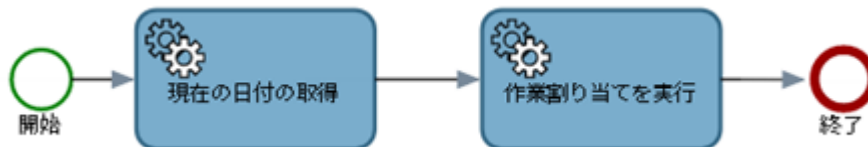
多要素認証が有効な場合は、SYSTEM パスコード通知マップを使用して、TotalAgility への初めてログイン時に認証のためのパスコードをユーザーに送信します。



このマップ内の電子メール ノードは、説明テキストとランダムに生成されたパスコードを含む電子メールをユーザーに送信するように構成されています。

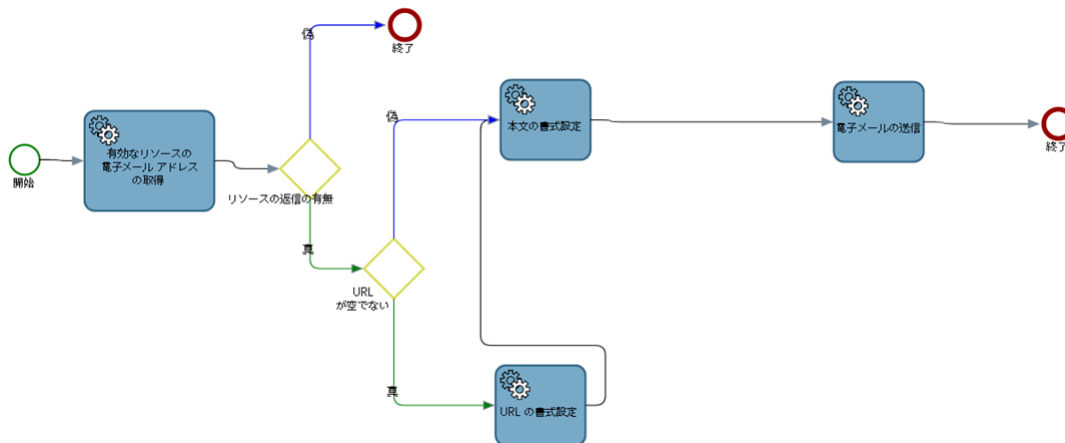
システム: 自動作業割り当ての実行

当日の AwaitingAllocation アクティビティを、AutoWorkAllocation を担っている適切なリソースに割り当てるには、このマップを使用します。



システム: 電子メール アクティビティの処理

アクティビティが保留中の場合に電子メール通知を処理する場合は、このマップを使用します。



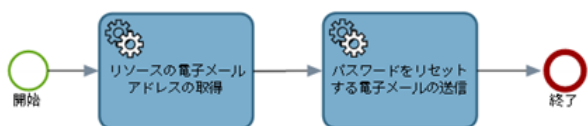
このマップと一緒に、サーバー変数 `SYSTEM_EMAIL_FROM` がシステムにインポートされます。組織内に電子メール通知を送信するユーザーの電子メール アドレスを使用して、デフォルト値を更新します。

電子メール ノードを使用して、アクティビティが保留中になったときに、使用可能なすべてのリソースに電子メールを送信するかどうかを指定します。件名、内容、保留中のアクティビティを取得して実行する ASP ページの URL など、電子メールの構造を定義します。

注 この ASP ページは確実に生成してください。この ASP ページをフォルダ `C:\Inetpub\wwwroot` に配置します。

システム: パスワードのリセット

パスワードをリセットするための電子メールをユーザーの電子メール アドレスに送信するには、このマップを使用します。



システム: 数量のリセット

すべてのチェック数およびサンプリング数をゼロにリセットするには、このマップを使用します。



プロセスの保存およびリリース

プロセス マップの設計が完了したら、保存またはリリースできます。ユーザーが開発ライセンスを持っている場合は、保存されたプロセス マップに基づくジョブのみを開始できます。

- マップを保存するとマップの変更が保存され、Get Customer Details v0.01 などのマップのマイナーバージョンが作成されます。

- マップをリリースすると、マップが保存およびリリースされて、Get Customer Details v1.0 などのマップのメジャーバージョンが作成されます。リリースされたマップを使用できるのは、本番環境のみです。

OnRelease イベントを使用して、プロセスのリリースを制御できます。リリースを処理するには、次の操作を実行します。

- ローン申請リリース承認プロセスなどの新しいプロセスを作成します。
- イベント処理マップにアクティビティを追加して、他のユーザーへの通知や承認の取得など、マップをリリースする前に必要な手順を実行します。
- リリース ビジネス ロジックが完了したら、イベント処理マップによってマップをリリースする必要があります。

注 ProcessService SDK で利用可能な ReleaseProcess メソッドへの API 呼び出しを使用します。

プロセスを元に戻して削除

プロセス マップを以前のバージョンに戻すほかに、プロセスを削除することもできます。

プロセスを元に戻す

プロセス マップを元に戻し、以前のバージョンに基づいてマップの新しいバージョンを作成します。選択したバージョンの変数、アクティビティ、リソース、プロパティ、スキン ルールを含むすべての項目を、新しいバージョンで使用できます。たとえば、管理シナリオでは、会社のプロジェクト プランの環境として、次の手順を行った可能性があります。まず、組織の階層構造、リソース管理レベル、カテゴリ、およびプロセス マップの設計を変更しました。次に、設計を保存およびリリースして、マップの新しいバージョンを作成し、すぐに使用しました。ただし、実装の数日後にパフォーマンスの管理分析を行い、以前のリソース階層とプロセス フローに戻すことにしました。その後、以前のマップ バージョンを選択して、現在のバージョンを置き換えました。

プロセスの削除

プロセスの最新バージョンまたは特定のバージョンを削除できます。プロセスの特定のバージョンを削除すると、選択したバージョンおよび以前のすべてのバージョンが削除されます。たとえば、バージョン 3 を削除すると、バージョン 1 とバージョン 2 のプロセスも削除されます。

モニタリング

常に変化しているビジネス環境では、積極的で情報に基づく意思決定のために、ビジネス パフォーマンスの傾向とパターンを認識することが重要です。

ビジネス イベントは、ケースのオープン、販売の成功、販売の失敗、クレームの解決など、ビジネス ユーザーが監視および管理する主要なイベントです。ビジネスでは、イベントを使用して、ターゲットに向けてのパフォーマンスを監視します。たとえば、販売員の名前と総販売額を記録する販売イベントを定義します。販売員が販売を完了すると、システムは販売プロセス内のイベントを発生させます。

チームの各販売員には、それぞれ異なる四半期ごとのターゲットが設定されていることが考えられます。販売イベントに基づく販売員ごとのビジネス ターゲットを作成し、各四半期についてイベントを監視できます。ターゲット値には販売員の目標の金額を入力し、フィルタ条件には販売員の名前を使用します。販売員ごとにこれを繰り返して、各販売員のビジネス ターゲットを構成します。

あるイベントによって合計または発生数が特定の値に達したときにシステムに通知するように、ビジネス アラートを定義できます。たとえば、販売イベントの場合、販売員がターゲットの2倍に達したときに実行されるアラートを作成します。お祝いの電子メールを送信するジョブをアラートによって作成できます。

Kofax TotalAgility はターゲットを監視し、しきい値が達成されなかった場合にビジネス プロセスを自動的に開始できます。

プロセス、フォーム、またはビジネス ルールによって、これらのイベントを開始できます。

イベントをアクティビティに関連付けることや、ビジネス イベント、ターゲット、アラートをエクスポートおよびインポートすることもできます。

こちらも参照してください。

- イベント
- アラート
- ターゲット

ビジネス イベント

ビジネス イベントを使用して、プロセスから独立して、またはイベントを開始するプロセスを通じて、ビジネス パフォーマンスを監視します。

ビジネス アラート

ビジネス アラートは、目標となるしきい値に達したときに発生する自動アクションです。

アラートはビジネス プロセスであり、電子メールのやり取りのように単純な場合も、運用パラメータの変更のように複雑な場合もあります。

ビジネス ターゲット

ビジネス ターゲットは、ビジネス イベントのパフォーマンスを監視するときに参照する目標です。

これにより、ビジネスが主要なビジネス イベントのコレクションを監視する方法が決定されます。

第4章

ユーザー インターフェイスをモデル化する

TotalAgility では、プロセスをサポートするユーザー インターフェイスを備えたフォームをモデル化できます。手動でのフォームの作成、ビジネス プロセスに基づいたフォームの作成、フォームのプレビューを行うことができます。

また、フォームのモバイル バージョンおよびタブレット バージョンを作成することや、フォームをタッチ強調にすることもできます。

フォームを自動的に生成する

フォームを設計することなく TotalAgility 機能を含むフォームを自動的に作成できます。そうしたフォームには、ソリューションをサポートするための適切なコントロールとアクションが含まれます。

次のフォームを自動的に生成できます。

新規ジョブ作成フォーム

すべての初期値パラメータのコントロールが追加され、「新しいジョブの作成」イベントが構成されます。

アクティビティ フォーム

「アクティビティの取得」、「完了」、「アクティビティのキャンセル」イベントとともに、アクティビティの入力および出力パラメータのタイプ固有のコントロールが追加されます。

マルチビュー フォーム

マルチビュー フォームでは、ユーザーはプライマリ フォームから移動することなく、さまざまなフォームを表示できます。マルチビュー フォームはコンテナのように動作し、フォーム内に他の関連フォームが表示されます。ユーザーは、ナビゲーション メニューを使用して、マルチビュー フォームのページを切り替えることができます。ページを切り替えても、ページの状態は保持されます。ユーザーがメニュー項目を使用してページに戻ると、ユーザーが離れたときのままの状態が表示されます。

マルチビュー アクティビティ フォーム

マルチビュー アクティビティ フォームでは、コンテキストを維持したまま、プライマリ フォームを表示したり、他のフォームに移動したりできます。このフォームを使用すると、複数のアクティビティのフォームを作成したり、ナビゲーション メニューを使用してこれらのフォームと追加コンテンツを表示したりします。

作業キュー フォーム

表示の詳細または作業タイプが指定されたカスタム作業キュー フォームです。

ログオン フォーム

自社サイトにリダイレクトする外部の Web ページを作成せずに自動的に生成されるカスタム ログオン フォームです。このフォームでは、Windows 認証、フェデレーション セキュリティ、または手動ログオンを使用できます。

Windows 認証またはフェデレーション セキュリティを使用するログオン フォームでは、ログオンしているユーザーの ID を認証に使用します。手動ログオンを使用するログオン フォームでは、ユーザーがユーザー名とパスワード (オプション) を入力する必要があります。

フォルダ フォーム

フォルダ フォームは、フォルダのカスタマイズ ビューです。フォルダ フォームを使用して、フォルダタイプに対してスキャン、検証、確認、およびドキュメント レビューの各フォームを生成できます。1 つのフォルダタイプに対して複数のフォームを生成できます。ただし、1 つのフォルダタイプに対して生成できるフォームはフォームタイプごとに1つだけです。

ドキュメント フォーム

ドキュメント フォームは、ドキュメントのカスタマイズ ビューです。ドキュメント フォームを使用して、特定のドキュメントタイプに対してスキャン、検証、確認、ドキュメント レビューの各フォームを生成できます。1 つのドキュメントタイプには複数のフォームを含めることができます。ただし、ドキュメントタイプに含めることができるフォームタイプは1つだけです。

スキャン新規ジョブ作成フォーム

スキャン新規ジョブ作成フォームでは、ジョブを作成するだけでなく、ドキュメントをスキャンしてジョブに関連付けることもできます。

デバイス新規ジョブ作成フォーム

デバイス新規ジョブ作成フォームは、スキャン新規ジョブ作成フォームの機能をすべて備えていますが、モバイル デバイスまたは MFP でのみ使用できます。

次の MFP フォームを自動的に生成できます。

注 MFP フォームには、Lexmark MFP デバイスからのみアクセスできます。フォームのタブレットバージョン (デフォルト) のみを作成できます。

作業キュー フォーム

表示の詳細または作業タイプが指定されたカスタム作業キュー フォームです。このフォームには、MFP 対応アクティビティのみが表示されます。

スキャン アクティビティ実行フォーム

スキャン アクティビティ実行フォームでは、「アクティビティの取得」、「完了」、「アクティビティのキャンセル」イベントとともに、アクティビティの入力および出力パラメータのタイプ固有のコントロールを追加できます。このフォームは、MFP 対応スキャン アクティビティに対してのみ生成できます。

スキャン新規ジョブ作成フォーム

スキャン新規ジョブ作成フォームでは、MFP 対応スキャン アクティビティに関するドキュメントのスキャンおよびジョブの作成を行うことができます。

手動でのフォームの作成

レイアウトおよび機能を完全に制御する場合は、フォームを手動で作成します。

フォームを手動で作成すると、自動的に作成されるフォームと比較して、結果のウィンドウをより柔軟に制御できます。時間と労力を節約するため、新しいフォームを作成する前にフォームを設計しておきます。

- テーブル フレームワークは、フォームにコントロールを追加する前に挿入します。
- フレームワークに、フォームのコンテンツを整理および配置するための行、列、およびセルを含めます。
- セクションとコントロールを含めます。
- ロゴやその他の種類のグラフィックを含めます。
- フォームのラベルを表示しない場合にも、フィールドにラベルを付けます。ラベルは、エンドユーザーが検証に失敗したフォーム フィールドを把握するために役立ちます。

TotalAgility ベスト プラクティス ガイドの「ソリューションの構築 > フォームの構築 > 設計ガイドライン」セクションを参照してください。

ユーザー エクスペリエンスを各デバイスに合わせてカスタマイズできるように、「電話またはタブレット タッチを有効にする」追加オプションを使用して、デスクトップ PC、電話、またはタブレットバージョンのフォームを作成できます。

多機能周辺機器 (MFP) Lexmark デバイスで使用するカスタム フォームを作成できます。MFP フォームのタブレットバージョン (デフォルト) のみを作成できます。

ツールボックス

フォームのレイアウトを定義し、コントロールを追加します。

フォームに情報を入力するには、テキスト ボックスへの入力やリストからの項目の選択、チェック ボックス オプションの選択や他のアクションの実行などを行います。ユーザーが操作を行うオブジェクトは、「コントロール」と呼ばれます。

ボタンなどの一部のコントロールでは、アクションを実行するイベントを実行できます。たとえば、フォームの下部にあるボタンをクリックすると、入力情報をデータベースに保存するといったイベントが考えられます。

(すべてのフォームの) 一部のコントロールでは、入力要素の名前を入力せず、基になる DOM に依存するメソッドを使用すると問題が発生する場合があります。このような場合、コントロールにアクセスするには Ext.getCmp() などの Ext API を使用する必要があります。例:

```
var myCheckBox = Ext.getCmp('checkbox1');
```

ツールボックスには、基本的なレイアウト要素 (列、行、セル) と、ユーザー インターフェイスの設計に役立つ一般的なコントロールおよび高度なコントロールが含まれています。

レイアウト

フォームのコンテンツを配置する場合、列、行、およびセルが役立ちます。

列

列を使用して、フォームを縦に均等に分割します。たとえば、1つの列を追加すると、フォームは2つの等しい部分に分割されます。2つの列を追加すると、フォームは3つの等しい部分に分割されます。

行

フォームをパネルとして水平に分割する行を追加します。

セル

セルを追加して、フォームにセクションを作成します。

一般的なコントロール

TotalAgility は、次のような基本的なフォーム コントロールをサポートします。

ラベル

ラベル コントロールを使用して、フォームに説明テキストを追加します。

テキストボックス

テキストボックス コントロールを使用して、ユーザーがフォームに情報を入力するためのテキスト フィールドを作成します。また、テキスト ボックスを使用して、数式の結果や現在の日付などの情報を表示します。

複数行テキスト

1行以上のテキストを入力するテキスト フィールドを作成するには、複数行のテキスト コントロールを使用します。たとえば、ユーザーはこのフォームに顧客の住所などの情報を入力できます。

複数行テキスト コントロールは、デスクトップ、電話、またはタブレット (タッチ対応および非タッチ) フォームで使用できます。このコントロールは、デバイス新規ジョブ作成フォームを除くすべてのフォームでサポートされます。

ボタン

ボタン コントロールを使用して、ユーザーがフォームの送信、データベースのクエリ、ローンの承認などのアクションを実行できるようにします。

ボタン コントロールには、ユーザーがボタンをクリックした場合に呼び出されるイベントの定義済みセットがあります。

チェック ボックス

チェック ボックス コントロールを使用して、多数の独立した選択肢から特定のオプションを選択します。

テーブル

テーブル コントロールを使用して、情報またはデータを行と列に整理および配置します。

ドロップダウン リスト

ドロップダウン リストを使用して、入力されたデータが有効であることを保証し、ユーザーが設計者の意図した応答でフォームを完成できるようにします。

ドロップダウン リストには、静的 (ハードコード)、または、データ接続を介してデータベース内のテーブルにバインドされたテーブルから取得、あるいは、ルックアップまたは別のフォームからのリダイレクトから取得可能な、事前定義された (および通常は共通の) オプションのセットが含まれます。

カレンダー

カレンダー コントロールを使用して、ユーザーが有効な正しい日付を入力できるようにします。

ラジオ ボタン リスト

ラジオ ボタン リスト コントロールを使用して、相互排他的な複数のオプションを提示し、ユーザーがその中から 1 つの回答を選択できるようにします。たとえば、「結婚歴」ラジオ ボタン リストで「既婚」ラジオ ボタンを選択した場合、「独身」、「離婚」、および「未亡人」ラジオ ボタンはオフになります。

タブ

タブ コントロールを使用して、フォーム上の関連情報をグループ化します。フォームに複数のタブ コントロールを構成し、それぞれのタブ コントロールに複数のタブを含めることができます。個々のタブ コントロールを保存すると、タブの詳細がすべて保存されます。

タブに表示されるデータを管理するには、タブ コントロールのタブに対して Tab loaded イベントを使用します。Tab loaded イベントにより、実行時にタブに表示されるデータが、そのタブの他のコントロールに入力されたデータであるようになります。また、このイベントは関連するタブをユーザーがクリックした場合にのみトリガーされるため、フォームのロードするパフォーマンスが最適化されます。

注 このイベントは、ユーザーが最初にタブをクリックした場合に一度だけトリガーされ、それ以降クリックしてもトリガーされません。ただし、フォームとともに最初のタブがロードおよび表示されるため、フォームがロードされた場合は、タブ コントロールの最初のタブのイベントがトリガーされます。

ハイパーリンク

ハイパーリンク コントロールを使用して、フォーム上の URL へのリンクを提供します。たとえば、製品のリストに関する情報を表示するフォームに、それらの製品に関する詳細情報を表示するための他の Web ページへのハイパーリンクを含めることができます。ハイパーリンク コントロールは、イントラネットまたはインターネット上の任意の Web サーバーを指定することができます。

イメージ

フォームまたはフォーム上のボタンにアイコンとイメージを追加することで、フォームの見た目や操作性を強化します。

グラフ

グラフ コントロールを使用して、フォームにグラフを追加し、クエリから返されたデータを視覚的に表示します。グラフには、フィールドでグループ化された項目の数と項目の合計数が表示されます。

注 グラフ コントロールは、タッチ フォームと非タッチ フォームで使用可能ですが、MFP フォームでは使用できません。

タイル

タイル コントロールを使用して、クエリから返された合計をダッシュボードにコンパクトに表示します。

リスト

リスト コントロールを使用して、電話とタブレットのスイープ オプションにより、項目のリストを表示します。複数のリスト コントロールを追加し、フォームの複数の列に追加することで並べて表示できます。リスト コントロールは、タッチ対応の電話フォームまたはタブレット フォームでのみ使用できません。デスクトップ フォームでは使用できません。

水平線

水平線コントロールを使用して、フォームの見た目や操作性を強化し、コンテキストの変更をわかりやすくします。水平線を使用すると、画面全体に線を引き、ページのセクションを区切ることができます。

キャプチャ コントロール

TotalAgility には、次のようなキャプチャ コントロールが用意されています。

- テキスト フィールド
- チェック ボックス
- コンボ ボックス
- テーブル

デザイン ビューでキャプチャ フォームを開き、これらのコントロールを構成できます。

ミニビューア

ドキュメント フォームのキャプチャ フィールドのミニビューアを表示して、フィールドに関連するイメージの一部をすばやく表示します。ドキュメント フォームのキャプチャ フィールドにミニビューアを表示すると選択した場合、選択したキャプチャ フィールドに追加のコントロールが追加されます。

注 ミニビューアはキャプチャ テーブル コントロールでは使用できません。

入カタイプ

入カタイプとは、フォーム ツールボックスで使用可能なクイック コントロール (テキストボックス) で、フォームに簡単に追加できるように事前構成されています。

入カタイプは、デスクトップ、および電話やタブレット (タッチ対応と非タッチ) フォームで使用できません。また、デバイス新規ジョブ作成フォームを除くすべてのフォームでサポートされています。

拡張コントロール

TotalAgility は、次のような拡張フォーム コントロールをサポートします。

<ul style="list-style-type: none"> • ジョブ リスト • 作業キュー • ワークロード • ファイルのアップロード • リソース ツリー • 埋め込みページ • プロセスビューア • Web capture • サムネイル ビューア • [KCM] 	<ul style="list-style-type: none"> • ケースヘルス • チェックリスト • 言語セクタ • カスタム アクション ボタン • ツールバー • 関連ジョブの新規作成 • サマリー • ジョブ アクション ボタン • アクティビティ アクション ボタン • Mobile Capture • モバイル バーコード キャプチャ
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注 タッチ対応プロパティを持つ電話またはタブレット フォームは、埋め込みページとファイルのアップロード コントロールのみをサポートします。

アクティビティ アクション ボタン コントロール

アクティビティ アクション ボタン コントロールには、アクティビティで実行可能な、事前定義済みの一連のアクションが用意されています。


これは、関連付けられたドロップダウン メニューを備えたボタンとして表示されます。各メニュー項目は、実行可能なアクションを表します。

注 アクティビティ アクション ボタン コントロールは、デスクトップ PC、非タッチ式のモバイルおよびタブレット フォームに適用されます。

ケースヘルス コントロール

ケースヘルス コントロールは、ケースの主要な詳細を表示し、ケースの全体的なステータスと進行状況を表示します。

ケースヘルス コントロールを使用して、他のプロセスのステータスを表示します。これを行うためには、通常のプロセスまたはフラグメントの jobID をケースヘルス コントロールに渡します。ケース/ジョブ ID を設定すると、実行時に、選択したケースまたはジョブの現在の状態が次の図に示すように表示されます。

9日 残り		プロパティ	ステータス
	進行状況	ケース参照 11111111 ケースタイプ 新しいケース定義 作成日 2021/03/11 17:46:31 ケース所有者 User1 作成者 User1	終了予定時間 2021/03/21 17:46:31 オープン期間 0日 0時間 0分 2秒 作業時間 0日 0時間 0分 0秒 状態 ステータス アクティブ

チェックリスト コントロール

チェックリスト コントロールを使用して項目のリストを表示し、経験の浅いユーザーに対するガイドとしてタスクの各手順を示します。

品質を管理するため、サンプリングとチェックを組み合わせることでコントロールを使用します。

キャプチャ複合コントロール

複合コントロールは、生成時にキャプチャ フォームに自動的に追加されます。

キャプチャ フォームは、プロセス マップの 1 つ以上のキャプチャ アクティビティに基づいて生成されません。

関連ジョブの新規作成コントロール

関連ジョブの新規作成コントロールを使用して、関連ジョブを開始するために呼び出すことが可能な現在のジョブに関連するプロセス (フラグメントおよび関連プロセス) のリストを提供します。

カスタム アクション ボタン コントロール

カスタム アクション ボタン コントロールを使用して、オプションのドロップダウン リストまたはオプションのイメージ リストを選択するためのボタンを作成します。

このボタンは、フォーム上またはフォーム上のテーブル内で使用できます。各オプションにより、設定されたアクションを実行できます。カスタム アクション ボタン コントロールは、デスクトップ PC、電話、およびタブレット (非タッチ式) フォームで使用できます。

ヒント タッチするには、既存の「アクション メニューの表示」アクションを使用します。

埋め込みページ コントロール

埋め込みページ コントロールを使用して、外部 Web ページ (URL 経由)、既存のフォーム、またはフォーム内の Insight ビューを埋め込むことができます。

実行時に、サイトをロードすると、埋め込み Web ページが自動的に開かれ、複数のページを同時に表示できます。

ファイル アップロード コントロール

ファイル アップロード コントロールを使用して単一または複数のファイルを参照し、ドキュメント リポジトリあるいは TotalAgility サーバー内の指定された場所にアップロードします。

ジョブ アクション ボタン コントロール

ジョブ アクション ボタン コントロールには、ジョブまたはケースで実行できる事前定義済みの一連のアクションが用意されています。

ジョブ アクション ボタン コントロールは、ドロップダウン メニューが関連付けられたボタンとして表示されます。各メニュー項目は、実行可能なアクションを表します。表示するアクションのリストは構成可能です。

このコントロールで利用可能なイベントはないため、アクションに直接関連付けることはできません。

注 ジョブ アクション ボタン コントロールは、デスクトップ PC、非タッチ式のモバイルおよびタブレット フォームに適用されます。

ジョブ リスト コントロール

ジョブ リスト コントロールを使用して、ユーザーが TotalAgility でジョブの表示、検索、および操作を実行できるようにします。

事前定義されたクエリを表示するようにコントロールを構成するか、ユーザーがリストを作成するために使用するクエリを選択および変更できるようにします。フォーム内のジョブ リスト コントロールを使用して、関連情報を持つジョブを表示できます。表示するプロパティとメタデータは、実行するアクションと同じく構成可能です。ジョブ リスト コントロールには公開された RowSelected イベントがあり、フォーム設計者は選択したジョブに基づいて追加のジョブ関連アクションを実行できます。

1 つ以上のジョブを選択すると、それに応じて SelectedJob/SelectedJobs、および SelectedCase/SelectedCases プロパティが入力されます。複数選択機能を利用できるようにするには、コントロールの「複数選択」プロパティ チェック ボックスを選択します。

タスク ▾ ジョブ ▾ リソース ▾ 管理 ▾ アプリ ▾							
ジョブ							
+ [] [] <		ライブジョブ(デフォルト) [] リフレッシュ [] クエリの構築 [] アクション		検索: ジョブ ▾		ジョブ ID を入力してください []	
	プロセス	SLA (...)	期限	作成者 ↑	優先度	ステータス	プロセ... アクション
<input type="checkbox"/>	bgProcess	●	2021/03/11	User1	1	一時停止	2 選択 ▾
<input type="checkbox"/>	bgProcess	●	2021/03/11	User1	1	一時停止	2 選択 ▾
<input type="checkbox"/>	bgProcess	●	2021/03/11	User1	1	一時停止	2 選択 ▾
<input type="checkbox"/>	bgProcess	●	2021/03/11	User1	1	一時停止	2 選択 ▾
<input type="checkbox"/>	np1	●	2021/03/11	User1	1	アクティブ	2 選択 ▾
<input type="checkbox"/>	np1	●	2021/03/11	User1	1	アクティブ	2 選択 ▾
<input type="checkbox"/>	np1	●	2021/03/11	User1	1	アクティブ	2 選択 ▾
<input type="checkbox"/>	np1	●	2021/03/11	User1	1	アクティブ	2 選択 ▾

ユーザーは、ジョブ行でアクションを選択することで、単一のジョブでタスクを実行できます。または、テーブル ヘッダーでアクションを選択して、複数のジョブまたはケースで一度にタスクを実行できます。

KCM コントロール

Kofax TotalAgility フォームを介して KCM でインタラクティブにドキュメントを生成するには、KCM (Kofax Communication Manager) コントロールを使用します。以前に収集したデータを含めるには、プロセスのデータ バックボーン変数でコントロールを初期化する必要があります。

たとえば、入力としてデータ バックボーン変数を使用するプロセスに手動アクティビティを追加したり、標準フォームの GetJobVariable API を使用してバックボーン変数を取得したりできます。

KCM コントロールには、次の動作モードがあります。

- 作成: ドキュメント パックから選択したテンプレート、ドキュメント テンプレート、またはレターブックのテンプレートに基づいてドキュメントを作成します (エンド ユーザーが実行時にテンプレートを選択)。
- 再実行: このモードでは、コントロールが再実行モードで表示されます。以前の選択は変更可能で、パック内のドキュメントは再実行時に更新されます。

- レビュー: コントロールを読み取り専用モードで表示し、生成されたドキュメントのレビューを許可します。レビューおよび再実行モードで KCM コントロールを構成します。

KCM コントロールを使用すると、電子メールや印刷などの配布メカニズムに基づき、KCM サーバーを介してドキュメントを配布できます。

言語セレクトラ コントロール

言語セレクトラ コントロールを使用して、フォームを表示する言語を制御します。

注 フォームには、1つの言語セレクトラ コントロールのみを含めることができます。フォームに複数の言語セレクトラ コントロールがある場合、予期しない動作が発生し、選択した言語は実行時に設定されなくなります。

Mobile Capture コントロール

Mobile capture コントロールを使用してイメージをキャプチャします。

このコントロールを使用すると、次の目的でイメージをキャプチャできます。

- 既存のドキュメントに追加します。
- 新しいフォルダ内に新しいドキュメントを作成します。
- 既存のフォルダまたはサブフォルダ内に新しいドキュメントを作成します。

このコントロールで作成されたドキュメントは、ドキュメントのレビュー アクティビティまたは検証アクティビティの一部として使用できます。

注 このコントロールは、タッチ非対応の電話またはタブレットのフォームでのみ使用できます。Mobile SDK と連動して電話デバイスで表示した場合にのみ機能します。たとえば、標準のブラウザで参照してフォームを表示した場合など、SDK なしでこのコントロールを使用するとコントロールは機能しません。

Mobile capture バーコード コントロール

Mobile capture バーコード コントロールを使用して、バーコードをキャプチャし、値をジョブ内で使用できるようにします。

フォームに追加できるコントロールのインスタンスは1つだけです。カメラのビューファインダーでバーコードが検出されると、コントロールのバーコード値プロパティが設定され、イベントが発生します。その後、たとえば CompleteActivity 呼び出しに渡すために、必要に応じて値を使用できます。

このコントロールは、タッチ非対応の電話またはタブレットのフォームでのみ使用できます。Mobile SDK と連動して電話デバイスで表示した場合にのみ機能します。SDK なしではこのコントロールを使用できません。たとえば、標準ブラウザで参照してフォームを表示した場合、コントロールは機能しません。

注 このイベントは、バーコードが見つかった場合にのみ発生します。

プロセス ビューア コントロール

プロセス ビューアは「ジョブ ビューア」とも呼ばれます。

注 プロセスビューア コントロールは、タッチ対応フォームではサポートされていません。

プロセス ビューア コントロールには次のような 2 つの目的があります。

- ジョブ (プロセスのライブ インスタンス) の進行状況に関する実行時ビューを表示し、取得したパスとさまざまなノードのステータスを強調表示します。各アクティビティで重要な情報を利用でき、それぞれのアクティビティには現在のステータスを表す特定の色のアウトラインが表示されます。適切な権限がある場合、ジョブの一部のライブ プロパティを変更できます。この方法でコントロールを使用するには、ジョブ ID を指定する必要があります。
- 標準設計環境外でのプロセス バージョンの設計を表示します。適切な権限がある場合、多くの運用プロパティを変更できます。この方法でコントロールを使用するには、オプションのバージョン番号とともにプロセス ID を指定する必要があります。

注 バージョン番号を指定しない場合、プロセスの最新バージョンが表示されます。

リソース ツリー コントロール

リソースの選択を有効にするには、リソース ツリー コントロールを使用します。

サマリー コントロール

サマリー コントロールは、リソースの日前の概要を提供します。

このコントロールを使用して、次のような詳細を表示します。

- 予定時間のサマリー: カレンダーまたは作業パターンに基づく稼働時間、および当日の貸方と借方。
- アクティビティ ステータス: 保留中および期限切れのすべてのアクティビティ、または保留中および期限切れの自分自身のアクティビティ、およびそのワークロード。
- ジョブ: 自身が所有者であるすべての保留中および期限切れのジョブ。
- アchievementのステータス: 作成されたジョブと完了したアクティビティの数、およびアクティビティに費やした時間。
- 通知: アラートの数と未読のリソース メモ。



サムネイル ビューア コントロール

サムネイル ビューア コントロールを使用して、Web capture コントロールに読み込まれたドキュメントのサムネイルを表示します。

Web capture コントロールのページに移動すると、対応するページがサムネイル ビューで強調表示され、コントロールには選択したページと現在表示されているページの違いが表示されます。

ツールバー コントロール

ツールバー コントロールを使用して、ボタンを1つのコントロールにグループ化します。

このコントロールは、デスクトップ PC、電話、およびタブレット フォームで使用できます。ツールバーに表示される階層内のボタン、区切り、スペーサーを定義できます。各ボタンには、テキストとイメージ、またはテキストのみ、あるいはイメージのみを含めることができます。

Web capture コントロール

Web capture コントロールを使用して、ドキュメントを作成、スキャン、および表示します。

Web capture コントロールを使用すると、次のことができます。

- 複数ページのドキュメントを作成します。
- 新しいフォルダ内に新しいドキュメントを作成します。
- 既存のフォルダまたはサブフォルダ内に新しいドキュメントを作成します。
- ドキュメントをスキャンして表示します。ドキュメントを表示するには、ドキュメント ID を使用します。
- 新規に作成したドキュメントまたはフォルダのタイプを指定します。

- 既存のドキュメントに新しいページを追加します。

注 コントロールを使用すると、既存のドキュメントに新しいページを追加できますが、ドキュメントを置き換えることはできません。

- 新規に作成されたドキュメントまたは既存ドキュメントのすべてのページを表示します。
- 誤ってスキャンされたページを削除します。
- 設計時に特定のボタンを選択的に非表示にし、選択したボタンのみを実行時に表示します。
- メイン フォームからイメージまたはドキュメント ビューアをドック解除し、別のブラウザ ウィンドウに表示して、2 番目のモニターで表示できるようにします。
- イメージを永続的に変更して、データベースに配置してはならない機密情報を削除します。
- ステイッキー メモを追加します。

注 Web capture コントロールは、タッチ対応スマートフォンおよびタブレット フォームではサポートされていません。

作業キュー コントロール

作業キュー コントロールを使用して、作業を選択し、完了する手段をユーザーに提供します。

事前に定義されたクエリを表示するか、リストを作成するために使用するクエリを選択および変更するようにコントロールを構成できます。

注 作業キュー コントロールは、タッチ フォームではサポートされていません。

ワークロード コントロール

ワークロード コントロールを使用して、システム クエリの結果を表示します。

このクエリは、自動および手動タスクのワークロードを表示するのに役立ち、これにより、タスクの処理の遅延を回避してパフォーマンスを向上させるためのアクションを実行できます。

実行時にワークロード コントロールを表示すると、システム クエリのみがクエリ パネルに表示されます。クエリのリストは、選択したクエリに基づいて表示されます。

注 ワークロードはタッチ フォームではサポートされていません。

フォーム初期化

初期値変数とは、ジョブの作成時に値が提供されるプロセス変数です。初期値変数の順序は、Designer 内で構成可能です。

新規ジョブ作成フォームは、初期値変数および対応する新規ジョブ作成フォーム イベントに適切なコントロールを提供します。

プロセス マップを使用してジョブを作成する場合、変数に初期値変数の値が使用されます。

フォーム イベントとアクション

フォームとフォーム上の各コントロールには、アクションを使用可能な定義済みのイベントのリストがあり、設計者はユーザーのアクションに応じた動作を設定できます。

たとえば、選択した国に基づいて州または郡のリストを取得したり、[送信] ボタンをクリックした場合に注文を保存したりできます。

フォーム アクション

アクションは、イベントを開始するためのさまざまな方法を示します。たとえば、次の 2 つの異なるアクションに基づいて、顧客の信用スコアの確認を行うことができます。

- データベースから顧客の詳細を読み取る DB クエリ アクション
- 適切なスコアを計算する .Net メソッド アクション

フォームのロード、ボタンのクリック、テーブル行の選択など、フォームまたはフォーム コントロールで発生するイベントで実行される複数のアクションを構成できます。

たとえば、ローン申請フォームでは、信用調査ボタンで DB クエリ、Web サービス、およびリダイレクト アクションを作成して、ボタンがクリックされた場合にアクションが順番に実行されるようにすることができます。

- 顧客の詳細を取得する (DB クエリ アクション)
- 顧客のクレジット スコアを取得する (Web サービス アクション)
- ユーザーを次の関連フォームに移動する (リダイレクト アクション)

注 アクションが失敗した場合はメッセージが表示され、それ以上のアクションは呼び出されません。たとえば、ログインに失敗した場合、ユーザーは「作業キュー」ページにリダイレクトされません。

ヒント

- メンテナンスの複雑さとコストを削減するため、10 ~ 20 以上のアクションを発生させるイベントがないことを確認してください。
- アクションの目的を示す明確な表示名を使用します。一度作成した名前は変更できません。

アクション タイプ

フォームまたはフォーム コントロールに対して、TotalAgility は、次のアクションをサポートします。

アクション	用途
.NET メソッド	新しいジョブの作成などのアクションを実行するための API を呼び出します。
行の追加	テーブルに行を追加します。
代替抽出検索	ドキュメント検証フォームに追加した場合、検証アクティビティで代替抽出検索を実行します。
フォーム バリエーションの適用	フォーム バリエーションの最新バージョンを適用します。バリエーションの作成時に定義した状態とラベル テキストが、実行時に反映されます。

アクション	用途
検証の適用	デスクトップ PC、スマートフォン、タブレット フォームで利用可能なコントロールを検証します。
Begin 条件	条件アクションを開始します。
ビジネス ルール	定義済みのビジネス ルールを使用します。
計算ルール	フィールド値を計算します。
スタックの順序を変更	スタックの順序の値を変更するか、要素を削除します。あるいは、スタックの下方向に移動します。
クリア	指定したフォーム変数とフィールドをクリアします。
選択のクリア	テーブルまたはドロップダウン リストの選択をクリアします。
閉じる	現在開いているフォームまたはポップアップ ウィンドウを閉じます。
複合	複数のコントロールで使用する複数のアクションを含めます。
カスタム サービス	ボタン、テキスト ボックスなどのフォーム コントロールでカスタム サービス アクションを使用します。
データ オブジェクト	データ オブジェクト アクションを使用して、データを操作するためのデータ オブジェクト変数の値を取得または設定します。
DB クエリ	データベースにアクセスして、レコードを表示、挿入、更新、または削除します。
行の削除	フォーム内のテーブルから行を削除します。
表示ルール	ユーザーがフォームに入力した内容に基づいてフォームの表示ルールを呼び出し、表示状態を自動的に変更します。
Else 条件	フォームのアクションをより柔軟で読み取りやすくします。実行時に、Begin 条件が満たされない場合、Else 条件内のすべてのアクションが実行されます。
End 条件	条件アクションを終了します。
ファイルのアップロード	実行時にフォームにファイルをアップロードします。
ファジー検索	「ファジー」データベース (リレーショナル データベースからエクスポートされた単一のテーブルまたはビュー) のパターンに (厳密にはなく) 一致する文字列を見つけます。 注 ファジー検索アクションは、ドキュメント検証フォームでのみ使用できません。
アクション メニューの非表示	タッチ対応デバイスでタッチ対応電話フォームまたはタブレット フォームを開いた場合にメニューを非表示にします。
JavaScript	ドキュメント オブジェクト モデル (DOM) へのアクセスを許可します。
MFP 印刷	ドキュメントを MFP デバイスにダウンロードして印刷します。
MFP スキャン	MFP デバイスを使用してドキュメントをスキャンします。 注 スキャン アクションは、MFP スキャン新規ジョブ作成および MFP スキャン アクティビティ実行フォームに対してデフォルトで使用可能です。
MFP スキャン設定	MFP デバイスのスキャン設定を表示および変更します。

アクション	用途
リダイレクト	別のフォームまたはポップアップ ウィンドウにリダイレクトします。
キャプチャのリフレッシュ	キャプチャ フォーム (スキャン、検証、確認、ドキュメント レビュー) をリフレッシュし、アクティビティ実行フォームをキャプチャして、ジョブの無効なフィールドが入力されないようにします。
ページ レンディションの更新	フォームのページ レンディションを更新し、それに応じて実行時にレンディション ボタンを有効または無効にします。
フォーム変数のリセット	1 つ以上のフォーム変数のデータをリセットします。
RESTful サービス	フォームを外部アプリケーションと結合します。
RPA	フォーム内から RPA ロボットを実行します。
同じページ	同じページに必要なデータを取得します。
デバイスの設定	デスクトップ PC、スマートフォン、またはタブレットのフォーム間でフォームの要素 (デスクトップ PC、スマートフォン、またはタブレット) を切り替えます。
フォーカスの設定	フォーム コントロールにフォーカスを設定します。
ジョブから言語を設定	ページのロード時に、フォームの言語をジョブの言語に設定します。
メッセージの表示	ユーザーにアラートまたはプロンプトを表示するか、ユーザーに確認を要求します。
アクション メニューの表示	タッチ対応電話フォームまたはタブレット フォームの複数のアクション メニューのリストからアクション メニューを表示します。
ナビゲーションの表示	サイト ナビゲーションを選択するか、タッチ対応電話フォームまたはタブレット フォームのメニューを選択します。
更新コントロール	プロパティの現在の値をコントロールに適用し、コントロールによる結果リストの再読み込みおよび更新を行います。
コントロール プロパティの更新	コントロールのプロパティを更新して、コントロールの表示または動作を動的に変更します。
行の更新	テーブルの行を更新します。
Web capture	Web capture コントロールを使用してスキャンまたはアップロードされたページを保存します。
Web サービス	Web サービスを呼び出して、特定のアクションを実行します。

フォーム イベント

このセクションでは、フォームとコントロールでサポートされるイベントについて説明します。

拡張コントロールでサポートされるイベントとアクション

フォーム/フォーム コントロール	サポートされるイベント	サポートされるアクション
ケースヘルス	なし	なし
埋め込みページ	なし	なし
エンティティ インスタンス	なし	なし
ファイルのアップロード	アップロード完了時	すべて

フォーム/フォーム コントロール	サポートされるイベント	サポートされるアクション
言語セレクト	なし	なし
プロセス ビューア	なし	なし
作業キュー	なし	なし
ジョブ リスト	行の選択時	すべて
チェックリスト	なし	なし
サマリー	なし	なし
リソース ツリー	変更時	すべて
Web capture	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントの保存完了 取り込み開始 取り込み完了 変更されたドキュメント ページ インデックスの変更 コントロールのドッキング解除 コントロールのドッキング 	すべて
サムネイル ビューア	なし	表示ルール
ジョブ アクション ボタン	なし	なし
アクティビティ アクション ボタン	なし	なし
関連ジョブの新規作成	なし	なし
KCM	完了済み	すべて
Mobile capture バーコード	バーコードがキャプチャされた時	すべて

注 フォームのロードに失敗すると、フォームのロード時にトリガーに失敗したイベントの名前などのエラーの理由がリストされます。

フォームおよび基本コントロールでサポートされるイベントとアクション

フォーム/フォーム コントロール	サポートされるイベント	サポートされるアクション
フォーム	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロード済み 2. レンダリング前 3. レンダリング後 <p>注 フォームでこれらのイベントを使用する場合は、次の順序で発生するようにしてください。ロード済み、レンダリング前、レンダリング後。</p> <p>キャプチャ アクティビティ フォームは、レンダリング方法が他のフォーム タイプとは異なります。これは ThinClient コントロールが原因で、ThinClient コントロールでは、コントロールが完全にレンダリングされる前に onLoad アクションが完了する必要があります。そのため、「レンダリング前」イベントまたは「レンダリング後」イベントがそのフォームでトリガーされた場合でも、フォーム自体が実際に必要な状態にレンダリングされていない可能性があります。</p> <p>フォームのロード イベントのベスト プラクティスについては、Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイドの「フォームのロード イベント」を参照してください。</p>	すべて
列	なし	なし
行	なし	なし
セル	なし	なし
ラベル	選択の変更時	なし
テキスト ボックス	テキストの変更時	すべて
ボタン	クリック時	すべて
テーブル	行の選択時、行の選択解除時	すべて
ドロップダウン リスト	選択の変更時	すべて
チェック ボックス	チェックの変更時	すべて
ラジオ ボタン リスト	ラジオ ボタンの選択の変更時	すべて
カレンダー	日付の変更時	すべて
タブ	タブのロード時	すべて
ハイパーリンク	なし	なし
イメージ	なし	なし
水平線	なし	なし
グラフ	クリック済み	すべて
タイル	クリック時	すべて

注 フォームのロードに失敗すると、フォームのロード時にトリガーに失敗したイベントの名前などのエラーの理由がリストされます。

キャプチャ フォームと複合コントロールでサポートされるイベントとアクション

キャプチャ フォーム (ドキュメント、フォルダ、スキャン新規ジョブ作成、スキャン - 新しいアクティビティ、検証、確認、ドキュメント レビュー、またはデバイス新規ジョブ作成) を生成すると、デフォルトで一連の定義済みのイベントとアクションがフォームに関連付けられます。たとえば、検証フォームには、保留中のアクティビティと検証コントロールのロード バッチ アクションを含む、ロードされた検証フォーム イベントがあります。検証コントロールには、ページの追加、ページの削除、ページの移動などの事前定義されたイベントがあります。Redirect や .Net メソッドなどの他のアクションをキャプチャ フォームまたは複合コントロールに追加できます。

注

- フォームを再生成すると、フォームの状態が変わります。たとえば、フィールドを削除した場合、再生成時にフィールドが再び追加され、フォームを本来の状態に戻すには手動での操作が必要になります。
- TotalAgility をアップグレードした場合、キャプチャ フォームは新しいアクションを含むようにすべて更新され、フォームはアップグレード前と同じ状態のままになります。
- 以前のバージョンで作成されたフォームなど、アクションのないキャプチャ フォームをインポートした場合、キャプチャ フォームは新しいアクションを含むように更新され、フォームはインポート前と同じ状態のままになります。

キャプチャ クライアント コントロールでサポートされるイベントとアクション

キャプチャ アクティビティで使用するキャプチャ コントロールは、ツールバー ボタン、コンテキストメニュー、およびホットキーに対応するイベントを公開します。例: OnDeletePages イベントが発生させて、選択したページを削除します。ほとんどのイベントには、目的の操作を実行するアクションが事前に入力されており、複数のキャプチャ コントロールで使用できます。これらのイベントへのアクセスは、割り当てられたキャプチャ許可に基づきます。TotalAgility Designer では、これらのイベントをカスタマイズできます。

次の表は、キャプチャ コントロールで使用可能なイベント、各イベントが発生するタイミング、および各イベントが実行するアクションを示します。

イベント	キャプチャ コントロール	発生	アクション
ページの削除	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	1つ以上のページを選択し、ツールバー、ページ コンテキストメニュー、またはホットキーを使用して「ページの削除」アクションを選択した場合。	選択したページを削除します。

イベント	キャプチャ コントロール	発生	アクション
ページの移動時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	ドラッグ アンド ドロップ操作またはホットキーを使用して1つ以上のページを移動した場合。	選択したページを移動します。
ページの回転時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	1つ以上のページを選択し、ツールバー、ページ コンテキスト メニュー、またはホットキーを使用して「ページの回転」アクションを選択した場合。	選択したページを回転します。
ドキュメント タイプの変更時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	ドキュメントのドキュメント タイプを変更し、ENTER キーを押した場合。	なし
ドキュメントの作成時	ドキュメント レビュー コントロール、スキャン コントロール、および検証コントロールを除くすべてのコントロール。	発生しない	なし
ドキュメントの選択時	すべて	選択したドキュメントが変更された場合。	なし
フォルダの選択時	すべて	選択したフォルダが変更された場合。(たとえば、ナビゲータでフォルダが選択された場合)	なし
ドキュメントの削除時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	単一のドキュメントを選択し、ツールバー、ドキュメント コンテキスト メニュー、またはホットキーを使用して「削除」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントを削除します。
ドキュメントの削除	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	複数のドキュメントを選択し、ツールバー、ドキュメント コンテキスト メニュー、またはホットキーを使用して「削除」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントを削除します。
ドキュメントの拒否	すべて	複数のドキュメントを選択し、ツールバー、ドキュメント コンテキスト メニュー、またはホットキーを使用して「リジェクト」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントをリジェクトします。

イベント	キャプチャ コントロール	発生	アクション
ドキュメントのリジェクト解除時	すべて	複数のドキュメントを選択し、ツールバー、ドキュメント コンテキスト メニュー、またはホットキーを使用して「リジェクト解除」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントのリジェクトを解除します。
ドキュメントのマージ時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	単一のドキュメントを選択し、ドキュメント コンテキスト メニューまたはホットキーを使用して前のドキュメントに「マージ」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントを前のドキュメントにマージします。
ドキュメントのマージ	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	複数のドキュメントを選択し、ドキュメント コンテキスト メニューまたはホットキーを使用して「選択したドキュメントをマージ」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントをマージします。
スキャン フォームのロード時	すべて	スキャン CNJ フォームをロードした場合。	なし
スキャン アクティビティ フォームのロード時	すべて	スキャン アクティビティ フォームをロードした場合。	なし
スキャンの完了時	スキャン コントロール		
検証フォームのロード時	検証コントロール	検証するドキュメントを選択した場合。	選択したドキュメントを検証します。
確認フォームのロード時	確認コントロール	確認するドキュメントを選択した場合。	選択したドキュメントを確認します。
ドキュメント レビュー フォームのロード時	ドキュメント レビュー コントロール	レビューするドキュメントを選択した場合。	選択したドキュメントをレビューします。
ドキュメントの分割時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	単一のページを選択し、ページのコンテキスト メニューまたはホットキーを使用して「ドキュメントの分割」アクションを選択した場合。	選択したページでドキュメントを分割します。
ドキュメントの移動時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	単一のドキュメントを選択し、ドラッグ アンド ドロップ操作またはホットキーを使用してドキュメントを移動した場合。	選択したドキュメントを移動します。
フォルダの作成時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	フォルダを選択して、フォルダのコンテキスト メニューから「フォルダの作成」アクションを選択するか、ホットキーを選択した場合。	新しい子フォルダを作成します。

イベント	キャプチャ コントロール	発生	アクション
フォルダの削除時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	フォルダを選択して、フォルダのコンテキストメニューから「フォルダの作成」アクションを選択するか、ホットキーを選択した場合。	選択したフォルダを削除します。
フォルダのマージ時	ドキュメント レビュー コントロール、スキャン コントロール、および検証コントロールを除くすべてのコントロール。	発生しない	サポートされていません。
フォルダの分割時	ドキュメント レビュー コントロール、スキャン コントロール、および検証コントロールを除くすべてのコントロール。	発生しない	サポートされていません。
フォルダの移動時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	フォルダを選択し、ドラッグアンドドロップ操作を使用してフォルダを移動した場合。	選択したフォルダを新しい場所に移動します。
フィールドの変更の保存時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	ドキュメントまたはフォルダのフィールドを変更し、別のドキュメントまたはフォルダに移動した場合。	フィールドが変更された場合に保存します。
アクティビティのキャンセルのキャプチャ時	すべて	ツールバーまたはホットキーを使用してアクティビティのキャンセル アクションを選択した場合。	変更を保存し、アクティビティをキャンセルします。
アクティビティの完了のキャプチャ時	すべて	ツールバーまたはホットキーを使用して「アクティビティの完了」アクションを選択した場合。	変更を保存し、アクティビティを完了します。
オープン アクティビティのキャプチャ時	ドキュメント レビュー、スキャン、検証、確認コントロールを除くすべてのコントロール。	発生しない	なし
キャプチャを完了し、次のアクティビティを取得します	すべて	ツールバーまたはホットキーを使用して、「完了して次のアクティビティを取得」アクションを選択した場合。	変更を保存し、アクティビティを完了して、作業キューから次のアクティビティを取得します。
保存アクティビティのキャプチャ時	ドキュメント レビュー、スキャン、検証、確認コントロールを除くすべてのコントロール。	発生しない	なし

イベント	キャプチャ コントロール	発生	アクション
前面と裏面のスワップ時	確認コントロールを除くすべてのコントロール。	両面ページを選択してから、ページ コンテキスト メニューまたはホットキーを使用して「前面と裏面のスワップ」操作を選択した場合。	選択した両面ページの前面と裏面のスワップします。
プロセス タブ フォームのロード時	スキャン	初期値変数を含むプロセスを選択した場合。	初期値変数を取得します。
ページの拒否	すべて	1つまたは複数のページを選択し、ツールバー、ページ コンテキスト メニュー、またはホットキーを使用してリジェクト アクションを選択した場合。	選択したページをリジェクトします。
ページのリジェクト解除時	すべて	1つ以上のページを選択し、ツールバー、ページ コンテキスト メニュー、またはホットキーを使用して「リジェクト解除」アクションを選択した場合。	選択したページのリジェクトを解除します。
新しいジョブの作成	スキャン新規ジョブ作成フォームでのスキャン コントロール。	ツールバーまたはホットキーを使用して「新しいジョブの作成」アクションを選択した場合。	新しいジョブを作成します。
ドキュメント タイプの確認時	ドキュメント レビュー コントロール	ドキュメントを選択し、ツールバーまたはホットキーを使用して「ドキュメント タイプの確認」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントのドキュメント タイプを確認します。
ドキュメントの問題の無効化時	ドキュメント レビュー コントロール	ドキュメントを選択し、ツールバーまたはホットキーを使用して「問題の無効化」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントの問題を無効化し、ドキュメント レビューでそのドキュメントを有効にします。
ドキュメントの問題の回復時	ドキュメント レビュー コントロール	ドキュメントを選択し、ツールバーまたはホットキーを使用して「問題の復元」アクションを選択した場合。	選択したドキュメントの問題を復元します。
フォルダの問題の無効化時	ドキュメント レビュー コントロール	フォルダを選択し、ツールバーまたはホットキーを使用して「問題の復元」アクションを選択した場合。	選択したフォルダの問題を無効化し、ドキュメント レビューでそのフォルダを有効にします。
フォルダの問題の回復時	ドキュメント レビュー コントロール	フォルダを選択し、ツールバーまたはホットキーを使用して「問題の復元」アクションを選択した場合。	フォルダの問題を復元します。

フィールド イベントのキャプチャ時

イベント	発生	アクション
選択フィールド		
選択の変更時	フィールドを変更して、そこからフォーカスを移動した場合。	なし
フィールドの確認時	フィールドを選択してから、キーボードの ENTER キーを押してフィールドの確認アクションを選択した場合。	選択したフィールドを確認します。
フィールドの強制的な有効化時	フィールドを選択してから、CTRL + ENTER キーを押して「フィールドを強制的に有効化」アクションを選択した場合。	選択したフィールドを強制的に有効にします。
コンボ ボックスのドロップダウン時	「選択」フィールドにフォーカスした状態で選択リストを展開した場合。	なし
テキスト フィールド		
テキストの変更時	フィールドを変更して、そこからフォーカスを移動した場合。	なし
フィールドの確認時	フィールドを選択し、ENTER キーを押して「フィールドの確認」アクションを選択した場合。	選択したフィールドを確認します。
フィールドの強制的な有効化時	フィールドを選択してから、CTRL + ENTER キーを押して「フィールドを強制的に有効化」アクションを選択した場合。	選択したフィールドを強制的に有効にします。
ブール値		
チェックの変更時	フィールドを変更して、そこからフォーカスを移動した場合。	なし
フィールドの確認時	フィールドを選択し、ENTER キーを押してフィールドの「確認」アクションを選択した場合。	選択したフィールドを確認します。
フィールドの強制的な有効化時	フィールドを選択してから、ツールバーまたは CTRL + ENTER キーを使用して、「フィールドの強制的な有効化」アクションを選択した場合。	選択したフィールドを強制的に有効にします。
テーブル		
テーブル セルの確認時	テーブル セルを選択し、ENTER キーを押して「フィールドの確認」アクションを選択した場合。	選択したテーブル セルを確認します。

イベント	発生	アクション
テーブル セルを強制的に有効化	フィールドを選択し、ツールバーまたは CTRL + ENTER キーを使用して「フィールドを強制的に有効化」アクションを選択した場合。	選択したテーブル セルを強制的に有効にします。
テーブルの強制的な有効化時	テーブルを選択し、ツールバーまたは CTRL + ENTER キーを使用して「フィールドを強制的に有効化」アクションを選択した場合。	選択したテーブルを強制的に有効にします。
テーブル行の追加時	テーブル ツールバーから「行の追加」アクションを選択した場合。	テーブルに新たな最終行を追加します。
テーブル行の挿入時	テーブル ツールバーから「行の挿入」アクションを選択した場合。	テーブルで、現在選択されているセルまたは行の前に行を挿入します。選択されたセルまたは行がない場合、新しい行はテーブルの最後に追加されます。
テーブル行の削除時	テーブル行を選択し、テーブル ツールバーから「行の削除」アクションを選択した場合。	選択したテーブル行を削除します。
テーブルの補間時	テーブル行を選択し、テーブル ツールバーから「テーブルの補間」アクションを選択した場合。	選択した行を、追加行を見つけるためのテンプレートとして使用して補間を実行します。
テーブル セル コンボ ボックスのドロップダウン	選択列のテーブル セルにフォーカスして、選択リストを展開します。	なし
データ入力されたテーブル行の挿入時	「行の追加」アクションを使用して、フォームのテーブルに行を追加した場合。	データ入力された行をテーブルに挿入します。
データ入力されたテーブル行の挿入時	「行の追加」アクションを使用して、フォームのテーブルに行を追加した場合。	NET アクションを実行して、テーブルに複数の行を挿入します。
行の選択時	テーブル行またはその行のセルを選択した場合。	なし
行の選択解除時	テーブル行またはその行のセルの選択を解除した場合。	なし

MFP フォームでサポートされるイベントとアクション

次の表に、MFP フォームの基本および詳細コントロールでサポートされるイベントとアクションを示します。

基本コントロールでサポートされるイベントとアクション

フォーム/フォーム コントロール	サポートされるイベント	サポートされるアクション
MFP フォーム	ロード済み MFP スタート ボタンの押下時 MFP 一時停止ボタンの押下時 MFP クリア ボタンの押下時 MFP ヒント ボタンの押下時 MFP スキャン完了時 MFP スキャン失敗時	すべて
ラベル	なし	なし
テキストボックス	テキストの変更時	すべて
ボタン	タップ	すべて
テーブル	行の選択時 行の選択解除時	すべて
ドロップダウン リスト	選択の変更時	すべて
チェック ボックス	チェックの変更時	すべて
イメージ	なし	なし
ハイパーリンク	なし	なし
タブ	タブのロード時	すべて
水平線	なし	なし
カレンダー	日付の変更時	すべて
ラジオ ボタン	ラジオ ボタンの選択の変更時	すべて
セル	なし	なし
リスト	リスト行の選択時 メニュー ボタン 1 クリック時 メニュー ボタン 2 クリック時 スワイプ ボタン 1 クリック時 スワイプ ボタン 2 クリック時	すべて

拡張コントロールでサポートされるイベントとアクション

フォーム/フォーム コントロール	サポートされるイベント	サポートされるアクション
埋め込みページ	なし	すべて
ファイルのアップロード	なし	すべて
Mobile capture	イメージのキャプチャ完了時 イメージの処理完了時 イメージのアップロード完了時	すべて
モバイル バーコード キャプチャ	バーコードのキャプチャ完了時	すべて

タブレットおよび電話フォームでサポートされるイベントとアクション

次の表に、テーブルおよび電話フォームの基本および拡張コントロールでサポートされるイベントとアクションを示します。

基本コントロールでサポートされるイベントとアクション

フォーム/フォーム コントロール	サポートされるイベント	サポートされるアクション
電話フォームとタブレット フォーム	ロード済み レンダリング前 レンダリング後	すべて
ラベル	なし	なし
テキストボックス	テキストの変更時	すべて
ボタン	タップ	すべて
テーブル	行の選択時 行の選択解除時	すべて
ドロップダウン リスト	選択の変更時	すべて
チェック ボックス	チェックの変更時	すべて
イメージ	なし	なし
ハイパーリンク	なし	なし
タブ	タブのロード時	すべて
水平線	なし	なし
グラフ	タップ	すべて
カレンダー	日付の変更時	すべて
ラジオ ボタン	ラジオ ボタンの選択の変更時	すべて
セル	なし	なし
リスト	タッチ リスト行の選択時 メニュー ボタン 1 クリック時 メニュー ボタン 2 クリック時 スワイプ ボタン 1 クリック時 スワイプ ボタン 2 クリック時 項目タッチ開始時 項目タッチ移動時 項目タッチ終了時	すべて

拡張コントロールでサポートされるイベントとアクション

フォーム/フォーム コントロール	サポートされるイベント	サポートされるアクション
埋め込みページ	なし	すべて
ファイルのアップロード	アップロード完了時	すべて

フォーム/フォーム コントロール	サポートされるイベント	サポートされるアクション
Mobile capture	イメージのキャプチャ完了時 イメージの処理完了時 イメージのアップロード完了時	すべて
モバイル バーコードのキャプチャ時	バーコードがキャプチャされた時	すべて

フォーム変数

フォーム変数は、フォーム レベルでデータを保持し、アクション内など、フォーム内の必要な場所で使用します。これにより、フォームにデータを保持するための非表示フィールドを作成する必要がなくなります。作成後は、フィールドやグローバル変数と同じ方法でフォーム変数を使用できます。

フォーム変数タイプ

TotalAgility は、配列、ブール値、バイト、日付、小数、数値、データ オブジェクト、および文字列型のフォーム変数をサポートしています。

フォームの展開

フォームの設計が終了したら、そのフォームを保存またはリリースします。

- フォームを保存すると、フォームへの変更がマイナー バージョンで保存されます。
- フォームをリリースすると、フォームの運用の準備が整い、実行時に表示可能になって、メジャーバージョンに更新されます。

フォームのリリース後は、次の URL を使用して、実行時にフォームにアクセスします。

`http://[サーバー名]/TotalAgility/Forms/[フォーム名].form`

サイトが使用されている場合は、次の URL を使用します。

`http://[サーバー名]/TotalAgility/Forms/[サイト名]/[フォーム名].form`

フォームのデバッグ

デバッグを使用して、実行時にフォームをテストおよびデバッグできます。デバッグを行うとソリューションの開発時に問題をより迅速に特定できるため、効率性が向上します。

デバッグ モードでは、フォームを使用して次のことを実行できます。

- ブレークポイントの設定
- 変数値の表示と編集
- アクションを順に実行するか、次のブレークポイントまで実行する
- サーバー側のアクションを展開して、入力と出力を表示する

注 クライアント側のアクションを展開して詳細を表示することはできません。

アクティビティとフォームとの関連付け

フォームは、アクティビティの「関連ファイルのパス」プロパティを介してアクティビティに関連付けることができます。

このプロパティは、アクティビティ実行フォームが生成されると自動的に入力されますが、手動で入力することもできます。

ユーザーがアクティビティを実行すると、「関連ファイルのパス」プロパティで指定したフォームにリダイレクトされます。プロパティが空白の場合、ユーザーは一般的なアクティビティ実行フォームにリダイレクトされます。

サイト

サイトを使用してデフォルトのスタイル設定とナビゲーションを定義し、要件に合わせた外観や操作性を選択します。

同じフォームを別のコンテキストで使用すると、異なる外観や操作性を得ることができます。サイトを作成、変更、削除し、サイトで使用するサポートされた言語を指定できます。

同じサイト内で、デスクトップ PC、タブレット、および電話フォームに使用する設定を構成できます。これは、設定内容やフォームを表示しているデバイスに応じて、同じフォームに対して異なるスタイルを設定できることを意味します。たとえば、フォームがデスクトップ PC で表示されている場合、フォームはデスクトップ PC の設定に基づいて表示されます (フォームに特定のヘッダー フォームまたはナビゲーションが選択されていない場合)。

複数のサイトで同じフォームを使用できますが、外観や操作性は、サイトに関連付けられたテーマ、ヘッダー、メニューに基づいて変更されます。

テーマ

テーマは、フォームの視覚的なレイアウトを定義する一連のデザイン要素および配色です。テーマにより、各フォームに対して一貫した専門的な外観を設定します。

テーマをサイトに関連付けると、サイト内の既存のすべてのフォームおよびサイトに追加された新しいフォームにテーマが自動的に適用されます。

事前定義されたスタイルをテーマに選択すると、そのテーマを使用するすべてのフォームに新しい外観が適用されます。

フォーム コントロールのテーマを構成することもできます。フォーム レベルでのコントロールの設定は、サイト固有のスタイル、フォント/背景の上書き、テーマで使用されるスタイル シートの順にサイトレベルの設定を上書きします。

グローバル変数

複数のフォームで使用するグローバル変数として、変数を定義できます。

たとえば、TotalAgility データベースを利用する必要がある場合、値として DSN = TotalAgility を使用してグローバル変数を作成できます。TotalAgility データベースを利用する場合、同じ変数を異なる形式で使用してその値を 1 か所で管理できます。

オプションとして、グローバル変数のローカライズを提供できます。

TotalAgility には、Workspace パッケージですぐに使用できる次のようなグローバル変数が用意されており、Workspace フォーム全体で使用されます。

- ケース参照
- ジョブ ID
- プロセス ID
- プロセスバージョン
- 現在のログオン ユーザーのリソース ID
- 現在のログオン ユーザーの名前
- 現在のログオン ユーザーのセッション ID

セキュリティ トークン

セキュリティ ロールとリソースに関連付けられたセキュリティ トークンにより、フォーム設計者は、アプリケーションの関連領域へのアクセスを制限し、ユーザーへの表示が許可されていない情報を非表示にして情報のセキュリティを制御できます。

サイト設計者は、組織の内外からの脅威に対する情報の安全性を確保するという課題に対応する必要があります。セキュリティ侵害は、ビジネス チャンスの損失、高額な訴訟、さらには企業の破産につながる可能性があります。したがって、違反行為からデータの整合性を保護することが不可欠です。

たとえば、給与の詳細を含むセクションへのアクセス権を財務チームだけに制限できます。これにより、不正アクセスから機密情報を保護します。

Workspace 内では、管理者はセキュリティ ロールを作成し、トークンとユーザーをセキュリティ ロールに関連付けることができるため、柔軟なセキュリティの管理方法が提供されます。

セキュリティの詳細については、Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイドの「フォームのセキュリティ」を参照してください。

ナビゲーション

ナビゲーションを使用して、ユーザーがフォームから別のフォームに移動し、サイトをナビゲートする方法を定義します。

サイトにマルチレベル ナビゲーション機能を追加できます。ナビゲーション メニューは、明確に示された目的地と、あるフォームから別のフォームへの推奨ルートを提示するロードマップとして機能します。

カスタマイズ可能な垂直および水平ナビゲーション バーをサイトに追加して、メニュー項目へのアクセスを許可または拒否できます。

注 垂直ナビゲーション バーは、フォームの左側にのみ配置できます。

ナビゲーション メニューはグローバル レベルで定義され、サイトに適用するとそのサイト内のすべてのフォームで使用できるようになります。」を参照してください。

トップ レベルのメニュー オプションやメニュー タイトルなどのナビゲーション項目を変更すると、定義したナビゲーション レイアウトを使用して、すべてのフォームに変更が自動的に適用されます。

ナビゲーション メニューはログオン フォームやポップアップ ウィンドウなどの一部のフォームでは必要ないため、水平および垂直ナビゲーション メニューを含めるかどうかを個々のフォームに指定できません。

メニューのスタイルは、テーマで構成されたメニュー スタイルに応じて異なります。

顧客アセット

ディスク上にファイルを保持するのではなく、イメージ、スタイル シート、ドキュメント テンプレート、カスタム ページ、.NET アセンブリなどの「[アセット]」をアップロードし、パブリック URL を使用してアクセスすることができます。

各アセットは TotalAgility の内部に保存されるため、フォームおよびプロセスの設計時に使用できます。

フォーム バリエーション

フォームの複数のバリエーションを作成して、コントロールと列を動的に非表示または無効にしたり、すべてのフォーム タイプの実行時に表示するラベル テキストを変更したりします。

汎用のフォームを 1 つ作成し、使用中のバリエーションに応じて異なる形式で表示できます。

注 次のフォームはフォーム バリエーションをサポートしていません。スキャン新規ジョブ作成、検証、確認、ドキュメント レビュー、スキャン、ドキュメント、フォルダ、デバイス新規ジョブ作成、MFP、MFP アクティビティ、MFP 作業キュー、および MFP スキャン新規ジョブ作成。

第 5 章

Workspace

Kofax TotalAgility Workspace は、ユーザーがアクティビティ リスト、ケースおよびプロセスを対話的に使用し、作業、リソースおよびその他のデータ要素を管理することを可能にする Web アプリケーションです。

TotalAgility Workspace は、ビジネスの要件に応じてカスタマイズや拡張が可能です。

作業の作成

ジョブ、ケース、フラグメントの作成

Workspace では、ジョブ、ケース、またはフラグメントの作成を可能にする汎用フォームを利用できます。このフォームには、選択したプロセスで定義された初期値パラメータも表示されます。

ケースまたはケース フラグメントの場合、ケース参照を指定する必要があります。

別の方法として、プロセス固有のフォームを TotalAgility Designer で作成できます (ユーザー インターフェイス > フォーム > 生成)。これにより、特定のプロセスのジョブを作成するためのカスタマイズされたユーザー インターフェイスを提供できます。

ジョブまたはケースのプロパティ

ジョブが作成されると、このジョブのプロパティを表示できます。プロパティ フォームには、該当のジョブに関連するすべてのアーティファクトが表示されます。これには一般的なプロパティ、通過ポイント、状態、変数、メモ、イベント、ルール、ドキュメントが含まれます。

ジョブやケースの検索

Workspace の [クエリの表示] オプションを使用して、優先度、期限および作成者などの条件に基づいてジョブを検索できます。

作業の管理

作業キュー

自分に割り当てられたタスクのリストと、自分が所属するグループ (チーム) に割り当てられたすべてのタスクを表示できます。これは、注意が必要なタスクまたはプロジェクトに焦点をあてるために役立ちます。特に、一度に複数の領域で作業している場合に便利です。

クエリ パネル

「クエリ」を参照してください。

アクティビティの取得と完了

アクティビティは、アクティビティが直接割り当てられている、または所属するグループに割り当てられているリソースによって取得および完了できます。アクティビティを取得することにより、アクティビティの完了時に出力パラメータ値を更新および適用できます。ワークフローは、プロセスの次のアクティビティに進みます。

委任作業

病欠や休暇に対処するために、委任機能を使用して新しいアクティビティをあるリソースから別のリソースに一定の期間割り当てます。

アクティビティの委任は、アクティビティの再割り当てとは異なります。委任の場合には、そのアクティビティは両方のリソースの作業キューに表示されます。

作業の再割り当て

あるリソースから別のリソースへアクティビティの割り当てを変更するには、アクティビティを再割り当てします。これにより、元のリソースの作業キューにアクティビティが表示されなくなります。

手動での作業割り当て

手動による作業の割り当てには、次の 2 つの方法があります。

- アクティビティを主体にする: アクティビティの重要度に基づいて、その作業を担当するのに最適なリソースを選択します。
- リソースを主体にする: リソースの重要度に基づいて、また、リソース活用を最適化するために、あるリソースに割り当てるのに最適なアクティビティを選択します。

取得済みアクティビティのリセット

この画面で、管理者は他のリソースが取得したアクティビティを保留中にリセットできます。

アクティビティがリソースによって取得されたが完了していない場合、アクティビティは次のいずれかのアクションが発生するまで取得されたままになります。

- ユーザーがアクティビティをキャンセル、保存、または完了する。
- アクティビティが保留中にリセットされる。
- ユーザーがすべてのアクティブなセッションからログアウトする。
- ユーザーがログインし、他にアクティブなセッションがない。
- セッション タイムアウトが発生する。

ライブ ジョブとアクティビティの変更

Workspace では、[活性状態]、[一時停止]、または [ホールド] のジョブのプロパティを表示して変更することができます。これにより、プロセスの変更が発生しても柔軟に対応することができます。

また、保留中の状態のジョブ アクティビティ、ジョブに割り当てられた変動ロールのメンバー、ジョブの各活性状態のアクティビティに割り当てられた静的リソース、ロールおよびグループも変更できます。

ジョブを変更するには、適切なアクセス権限が必要です。

注 アクティビティ メンバーの変更は、設計時にアクティビティに対してワークフロー ルールが使用されていない場合にのみ可能です。

ジョブのホールド

ジョブをホールドにすると、指定した期間 (最大 52 週間) 処理が遅れます。ジョブがホールドになると、指定した保留期間の間、作業キューに利用可能なアクティビティがなくなり、イベント処理が行われなくなります。保留期間が経過すると、ジョブはアクティブなステータスに移行し、アクティビティは保留中になります。または、ジョブをアクティブ化して、保留ステータスから削除することもできます。

たとえば、数週間にわたって病欠や休暇を続けているユーザーがいる場合などに、ジョブの再割り当てや委任をするよりもホールドにするほうが適している場合があります。

ビジネス カレンダー

グローバル ビジネス カレンダーを使用すると、すべてのリソースで稼働日と非稼働日、および稼働時間を設定できます。各リソースは、グローバル カレンダーから抽出した個人用のカレンダーを利用できます。

ビジネス カレンダーをオンにすると、システム内で期限、SLA などを計算するときに、これらの稼働日または非稼働日が考慮されます。

システムの管理

ログオン ユーザー

現在 TotalAgility Workspace にログオンしているユーザーのリストを表示し、選択したユーザーをログオフできます。

監査ログ

監査ログは、ビジネス プロセスやシステム機能の実行に関係する、およびその結果として生成される情報を追跡するために役立ちます。この情報は、変更の原因、誰が変更を加えたか、いつ変更が加えられたかを特定し、分析するために役立ちます。すべての監査ログを表示する、または日付範囲および監査ログのタイプでフィルタリングして表示することができます。

ジョブのアップグレード

完了していない、または強制終了されていないライブ ジョブを、ジョブ プロセス マップの最新リリースバージョンにアップグレードできます。この機能により、組織は、ライブ ジョブを強制終了または再開することなく、これらのジョブに変更を加えることができます。変更は、即座に有効になります。

ジョブをアップグレードすると、選択したジョブに変数、変動ルール、作業タイプ フィールド、通過ポイントなどの新しい項目が追加されます。アップグレードでは、既存のジョブ データの上書きや削除は行われません。

終了済みジョブの削除

すべての終了済みジョブまたは指定した時間範囲内のジョブを削除して、データベース領域を解放できます。

パフォーマンス統計

指定した期間またはジョブ数でのプロセスとそのアクティビティのパフォーマンス統計を表示できます。これらの統計情報を使用して、コストと時間の面でプロセスとアクティビティがどの程度効率的か、および向上させるために調整が必要かどうかを判断できます。この分析の結果として、プロセスおよびそのアクティビティ内の一部の主要な運用項目を変更できます。

プロセスに対する次のパフォーマンス統計情報を表示します。

- テキストによる範囲の説明 (期間または数)。
- 選択した範囲に基づいて評価されるジョブの数。たとえば、日付範囲として最後の月を選択した場合、統計情報には最後の月に処理されたジョブの数が表示されます。しかし、ジョブの数としてたとえば最新の 1000 件を選択して、ジョブが 50 件しかない場合には、統計情報には分析されたジョブとして 50 件が表示されます。
- 指定された期間に完了したジョブの割合および数。
- 予算内で完了したジョブの割合および数。
- ジョブの平均期間。
- ジョブの平均コスト。

注 プロセス パフォーマンスを表示するときにコストの超過を正しく記録および表示するために、モニター サービスを実行している必要があります。

第 6 章

TotalAgility のリソース

リソースとは、組織で働く人、またはそのような人で構成されるグループです。TotalAgility では、ワーカー (個人) とグループを作成できるほか、システムに外部リソースを追加することができます。グループ内にはサブグループを作成できます。グループに割り当てられたタスクは、そのグループ (またはそのサブグループ) のリソース全員が実行できます。たとえば、金融会社に財務アナリスト、ビジネスアナリスト、コストアナリストの 3 つのグループがあり、それぞれが専門のリソースを抱えているとします。ここで、ビジネスアナリストグループとコストアナリストグループを財務アナリストグループに追加すると、財務アナリストグループに割り当てられているすべてのタスクを、ビジネスアナリストグループとコストアナリストグループが実行できるようになります。

ビジネスプロセスの設定と作成にはリソースが不可欠であるため、プロセスマップを作成する前には必ず、リソースを定義してください。

個人リソース

TotalAgility の個人リソースとは、作業の作成や完了、または管理タスクや監督タスクの実行を担当する人物です。各ワーカーには、システム内で認証を可能にする一意の ID が必要です。

グループリソース

グループは、1 人または複数の個人の集まりです。グループには他のグループを含めることができます。個人リソースは複数のグループに属することができます。

アクティビティがグループに割り当てられると、そのグループ内の個人またはそのグループ内のサブグループがアクティビティを取得できます。

TotalAgility には以下のデフォルトグループが用意されています。

- **[管理者]**: このグループのメンバーは、システムに対するフルコントロールを持っています。
- **[デザイナー]**: このグループのメンバーは、TotalAgility Designer および Transformation Designer にアクセスできます。
- **[デバイスユーザー]**: このグループのメンバーは、MFP デバイスにアクセスできます。
- **[全員]**: TotalAgility 内の特別なグループです。TotalAgility でリソース構成を介して作成されたすべての個人リソースは、このグループに自動的に追加されます。
- **[Insight の管理者]**: このグループのメンバーは、TotalAgility から Insight で管理タスクを実行できます。
- **[Insight ユーザー]**: このグループのメンバーは、TotalAgility から Insight を使用できます。
- **[プロセスインテリジェンス]**

注 インストール ユーザーは、「管理者」グループ、「デザイナー」グループ、「デバイス ユーザー」グループ、および「全員」グループに自動的に追加されます。

外部リソース

場合によっては、専門的なアクティビティのために期間限定で組織に参加する外部リソースを追加することもできます。たとえば、ドキュメントの受領を確認するために、一時的に外部弁護士を必要とする場合などです。

外部リソースのアクセス権は制限されています。外部リソースができるのは、自分の作業キューを表示し、作業キューに一覧表示されている関連アクティビティを取得して完了することまでです。

外部リソースには、直接作業を割り当てることも、ロール メンバーシップを使用して作業を割り当てることもできます。外部リソースは [全員] グループに所属しません。

電子メール アドレス

各リソースには電子メール アドレスを割り当てることができます。システム設定を使用して、電子メール アドレスの一意性を強制できます。

パスワード

ワーカーや外部リソースにはパスワードを割り当てることができます。パスワードは暗号化された値として保存されます。

ペルソナ

ペルソナを使用すると、ターゲット オーディエンスを個々のグループに分けることができます。それぞれのペルソナは、個人の興味やニーズに基づいて区別されます。

リソースをペルソナに関連付けると、そのペルソナ固有のコンテンツを提供するターゲット ランディング ページにリソースが誘導されます。

リソースの拡張

システム レベルでメタデータを定義することにより、すべてのワーカーまたはグループに対して TotalAgility に保持されている情報を拡張できます。ワーカーまたはグループを構成するときに、リソースの住所、生年月日、役職などの補足情報の値を管理できます。

作業グループ

リソースは多くのグループに属することができますが、リソースに作業グループを割り当てることによって、そのグループに関連するすべてのアクティビティに集中してもらうことができます。

スーパーバイザー

管理権を持つリソースは、他のリソースまたはリソースグループのスーパーバイザーになることができます。

1 ~ 10 の管理レベル (1 が最高) を割り当てることにより、スーパーバイザーの階層を作成できます。

セキュリティ レベル

どのリソースがどのアクティビティの作業ができるかをコントロールするには、セキュリティ レベルを使用します。セキュリティ レベルの範囲は 1 ~ 10 で、1 が最高レベルのセキュリティです。リソースのデフォルトのセキュリティ レベルは 10 です。

アクティビティにはセキュリティ レベルを割り当てることができます。アクティビティに設定されたセキュリティ レベル以上のセキュリティ レベルを備えたリソースのみが、アクティビティを実行できます。

スキル レベル

特定のスキル レベルを持つ人が作業を実行する必要がある場合は、スキル レベルを使用してリソースに作業を割り当てます。スキル レベルの範囲は 1 ~ 10 で、1 が最高のスキル レベルです。リソースのデフォルトのスキル レベルは 10 です。

アクティビティにはスキル レベルを割り当てることができます。アクティビティに設定されたスキル レベル以上のスキル レベルを備えたリソースのみが、アクティビティを実行できます。

変動コストおよび固定コスト

固定コストは、作業時間に関係なく発生する 1 回限りのコストです。これに対して、変動コストは単位時間あたりのレートがあり、それに基づいて算出されます。たとえば、サービス エンジニアであれば出張料金 50 ドル (固定コスト) のほかに、1 時間あたり 10 ドル (変動コスト) が追加請求されます。3 時間の作業であれば、80 ドルがかかります。

変動コストと固定コストは、そのリソースが稼働した作業時間に基づいて累積および記録できます。

変動コストでは、日、時間、分、秒を測定単位として使用できます。

アクティブな期間

アクティブな期間は、リソースがアクティブである期間です。TotalAgility では、各ワーカーまたは外部リソースに開始日と終了日を割り当てることができます。これにより、リソースを削除せずにシステムへのアクセスを許可できます。

アクティブなユーザーとは、開始日がないか、現在の日付より前であるユーザーです。また、アクティブなユーザーの終了日はないか、現在の日付より後になっています。非アクティブなユーザーは TotalAgility にログインできません。

アクティブな期間を定義することは、ユーザーをケースの期間または短期間だけアクティブすることができるという点で、特に外部ユーザーを利用する場合に有用です。アクティブな期間は、ワーカーが入社または退職した時期も示します。

作業カテゴリ

リソースは多くのカテゴリにアクセスできます。作業カテゴリを設定することで、ユーザーはそのカテゴリに関連するすべてのアクティビティに集中できます。リソースが TotalAgility Workspace または Designer のプロセスでマップを開いたり、ジョブを作成したりといったアクションを実行すると、作業カテゴリが表示されます。

Active Directory の同期

「[システム プロセス](#)」を参照してください。

第7章

システム データ

サーバー変数、ルックアップ、エンティティ、作業タイプ、ドキュメント テンプレート、チェックリスト テンプレートなどのシステム データを、さまざまなプロセスとフォームで再利用できます。

サーバー変数

サーバー変数は、システム内のグローバルな値を保持するために使用する変数で、ビジネス プロセス、ケース、またはケース フラグメントで使用できます。

サーバー変数は、特定の時点で1つの値しか持つことができません。たとえば、会社のテンプレートの場所がサーバー変数に保持されていて、その場所が変更された場合に、変数値を変更すると、その変数を使用するすべてのプロセスに変更が反映されます。これらの変数の値をセキュアにすることもできます。たとえば、接続文字列にセキュアな情報が含まれているため、誰にも見られたくないという場合が考えられます。場所がプロセス変数としてプロセス マップ レベルで定義されていると、その場所を全部のプロセスで個別に変更する必要があります。

正規表現

正規表現は、テキスト形式の検証フォーム フィールド、ドキュメント フィールド、およびパスワード形式で使用されます。

TotalAgility には、事前定義された複数の正規表現が用意されています。ただし、フォームおよびバリデータで使用する独自の正規表現を定義することもできます。

ルックアップ

ルックアップは、サーバー レベルで定義された静的データ項目のリストであり、すべてのフォームまたはプロセスで使用できます。

異なる言語でコンテンツを表示するときは、ルックアップを使用します。また、ルックアップはプロセスまたはフォームをまたいでさまざまなエンティティで再利用できます。

デフォルトでは、システムはシステムの言語でルックアップを作成します。別の言語でルックアップを作成したり、ルックアップを翻訳したりすることもできます。

注 設計時にルックアップ用に選択された言語は、サイト レベルでも利用できる必要があります。そうしないと、実行時にそのルックアップが表示されません。

ドキュメント テンプレート

ドキュメント テンプレートは、ドキュメントの作成に使用するものです。

ドキュメント テンプレートを TotalAgility にアップロードしておくこと、ドキュメントの作成アクティビティでテンプレートを使用してドキュメントを作成できます。

注 TotalAgility は、Microsoft Word テンプレートの .dotx および .dotm のみをサポートします。

通貨コード

通貨コードは、フォーム内のテキスト ボックスのフォーマット設定に役立ちます。

テキスト ボックスに通貨コードを関連付けると、実行時にデータの入力形式とシンボルをマスクできます。これにより、データ入力のマスクをブラウザのロケールに対応させることができます。たとえば、ドイツでユーロを入力する形式は、アイルランドで値を入力する場合とは異なります。

次の通貨コードは、設定なしで使用できます。

- ユーロ €
- ポンド £
- ドル \$

チェックリスト テンプレート

チェックリスト テンプレートを使用すると、頻繁に使用される項目を再利用のためにグループ化できます。たとえば、「名前」、「住所」、「電話番号」、および「電子メール ID」を「個人詳細」というチェックリスト テンプレートにグループ化し、そのテンプレートを使用して従業員レコード、顧客詳細、または患者レコードを作成することができます。

ここに挙げた例では、「Customer Details」(顧客詳細)と「Employee Details」(従業員詳細)という2種類のテンプレートに、共通して名前、住所、メール、電話のチェックリスト項目があります。

- 「Employee Details」テンプレートでは、「Complete」(完了)のような列を1つ作成すると、実行時にテンプレートのチェックリスト項目ごとに1つずつオプションが表示されます。

従業員の詳細

	<input type="checkbox"/>	完了	
名前	<input type="checkbox"/>		+
住所	<input type="checkbox"/>		+
電子メール	<input type="checkbox"/>		+
電話	<input type="checkbox"/>		+

完了保存キャンセル

- 「Customer Details」テンプレートの場合、「Yes」(はい)や「No」(いいえ)のような2つの列を作成すると、実行時にテンプレートのチェックリスト項目ごとに2つずつオプションが表示されます。

顧客の詳細

	<input type="checkbox"/>	はい	<input type="checkbox"/>	いいえ	
名前	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		+
住所	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		+
電子メール	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		+
電話	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		+

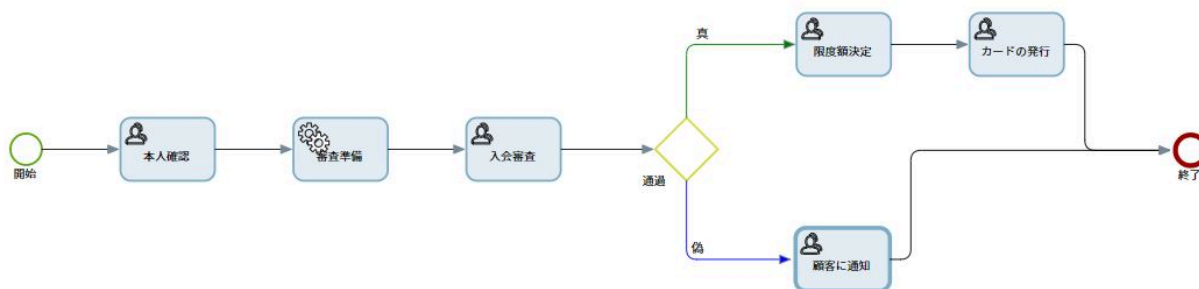
完了保存キャンセル

チェックリスト項目

チェックリストを使うと、プロセスの各ステップで経験の浅いユーザーをガイドできます。

ジョブの段階を表示するには、チェックリストからの出力を使用します。たとえば、顧客がオンラインでクレジットカードを申請し、名前、住所、雇用主の名前、年収の情報を提供するとします。銀行はその詳細を確認し、与信限度を決定します。銀行は確認チェックリストを使用してプロセスを追跡できます。プロセスは以下のサンプル マップに示したとおりです。

- 顧客詳細の確認: このアクティビティでは、チェックリストは出力変数であり、銀行員が詳細を確認し、チェックリストを完成させます。TotalAgility により、ジョブの状態が確認準備完了に設定され、ジョブが「顧客詳細のレビュー」アクティビティに渡されます。
- 顧客詳細のレビュー: このアクティビティでは、チェックリストが入力および出力変数として設定されています。この段階では、2 列から成るチェックリストが表示されます。銀行員が記入した最初の列は読み取り専用です。2 列目は編集可能で、詳細をレビューする銀行の支店長が記入します。
- 与信限度の決定: 銀行の支店長がチェックリストに記入した後、詳細が承認された場合、ジョブがこのアクティビティに渡されます。
- 顧客への通知: 詳細が正しくない場合、ジョブがこのアクティビティに渡されます。クレジットカードは発行されません。
- クレジットカードの発行: このアクティビティでは、銀行がクレジットカードを発行します。



チェックリストを作成します。

チェックリストをレビューできるようにするには、[確認準備完了] ノードを使用します。

チェックリストには 3 つの状態があります。チェックリストが編集可能かどうかと、チェックリストに 2 番目のデータ列が含まれるかどうかは、この状態によって決まります。

- 読み取り専用: チェックリストは、アクティビティへの入力としてのみ設定されます。
- 読み取り/書き込み: 編集可能なチェックリストが、アクティビティの出力になります。
- レビュー: [確認準備完了] ノードにより、チェックリストがレビュー対象としてマークされます。チェックリストの最初の列は読み取り専用です。2 番目の列は編集可能です。

実行時には、チェックリストに定義された回答に対してコメントを入力できるほか、1 つの回答を選択してすべての質問に対して一度に適用することもできます。

アクティビティを進行する前に、チェックリストを照会して、すべての項目が完了しているかどうかを確認できます。

作業タイプ

作業タイプは、作業キュー フォームのフィールドの外観と動作のコントロールに役立ちます。

次の画像はユーザーの作業キューを示したものです。タスクの取得と完了はここから行います。

作業キュー	アクティビティ名	Customer Name	Account Number	プロセス	優先度	期限
Loan Application Queue	Confirm Details	Bob Smith	3435665X	Student Loan Application	1	2021/03/16 18:42:04
共有クエリ	Confirm Details	Jane Cameron	34463665S	Student Loan Application	1	2021/03/16 18:42:05

デフォルトでは、プロセス マップは標準の作業タイプを使用します。これは作業キュー ウィンドウに表示されるもので、ジョブまたはタスクに関する次の標準フィールドで構成されます。

- アクティビティの取得ボタン
- 名前
- 説明
- 期限
- 優先度
- ジョブ ID
- バージョン
- プロセス
- リソース
- ジョブ SLA のステータス
- ジョブの状態
- アクティビティ SLA のステータス

作業タイプは、フル コントロールまたは読み取り/書き込みのアクセス許可があるカテゴリの下に作成できます。作業タイプのコピーを作成したり、その作業タイプをプロセス マップに関連付けたりすることのほか、作業タイプに関連付けられているプロセス マップの一覧表示が可能です。

作業タイプは、関連付けられているプロセス マップに同期されます。作業タイプを変更すると、その作業タイプを使用しているすべてのマップに変更が反映されます。

カスタム フィールドを備えた作業タイプを作成することによって、作業キューをカスタマイズできます。作業タイプをカスタマイズすると、プログラマーが Web ページまたはフォームに作業タイプをレンダリングできるため、全体の開発時間を短縮できます。

各カスタム作業タイプには、最大 30 個の追加フィールド (変数名) を含めることができ、SUPPLIER_NAME、DOC_ID、DOCUMENT_NAME、INVOICE_NO など、システム内または外部システムから取得した変数値を表示できます。

注 実行時、フィールドの値として 100 文字のみが保存されます。

GetWorkQueue2 API は、作業タイプのカスタム フィールドを返す API で、これを使うと作業キュータスクの並べ替え、優先順位付け、およびフィルタリングが可能になります。

データ モデル

データ モデルとは、データのコレクションを表すユーザー定義のデータ構造です。

データ モデルによって、REST API との統合を簡素化し、データベースのストレージ スペースを削減します。データ モデルは、データをグループ化するために使用します。構造内に保持されたデータは、[データ オブジェクト変数](#)を使用してプロセスおよびフォーム内で使用できます。

グローバルおよびローカルのデータ モデルを定義できます。

グローバル モデルはすべてのプロセスとフォームで使用できますが、ローカル モデルはモデルを定義したフォームまたはプロセスでのみ使用できます。ローカル データ モデルは、データ モデルを再利用する必要がない場合の 1 回限りの統合に役立ちます。

また、サンプル JSON を使用してグローバルまたはローカルのデータ モデルを作成することもできます。JSON ファイルを追加すると、JSON 形式が解析され、ツリー構造が作成されます。データ モデルのフィールド名は JSON のフィールド名と一致し、フィールド タイプは JSON サンプルから暗黙的に設定されます。あいまいなフィールド タイプは文字列に設定され、フィールド タイプを変更するか、不要なフィールドを削除することで、データ モデルを編集できます。単純な JSON 文字列のデータ モデルは、ネストされたオブジェクトと複数のオブジェクトを持つ文字列、およびデータの配列を使用して作成できます。

第 8 章

キャプチャ

TotalAgility を使用すると、アプリケーション、プロセス、リポジトリに対する自動分類、抽出、検証、配信に使用するあらゆるタイプのコンテンツをキャプチャでき、組織において多大な労力を必要とするプロセスを大幅に削減できます。

ビジネスプロセスのあらゆる時点で人手を介さず情報をキャプチャし、情報を抽出、分割、分類、検証して完成させることができます。たとえば、ローンの申請手続きを始めると、金融機関が収入証明や信用報告書などの書類を求めてくる場合があります。このような情報をモバイル デバイスやタブレット デバイスなどの任意のソースからいつでも取得して、ローンの申請手続きに利用することができます。

ドキュメントを分類して、再利用のためのスキャナ設定またはデバイス設定を定義できます。さらに、キャプチャ時にドキュメントの内容を分割して、フォルダに自動的に配置できます。

イメージ (またはイメージから自動的に抽出されたイメージとテキストの両方) を PDF または他のファイル形式にエクスポートし、解像度や品質などを定義できます。テキストとグラフィックを識別し、HTML および XML ファイル形式に変換することで、視覚障害者向けの支援ソフトウェアに確実に認識させることができます。

さらに、抽出グループ、ドキュメント バリエーション、フィールド フォーマッタ、フィールド バリデータなどのキャプチャ関連項目を作成できます。

抽出グループ

抽出グループは、ドキュメントの分類とプロセスに役立つ 1 つ以上のドキュメント タイプのセットです。

抽出グループには、RootDocumentType と呼ばれるデフォルトのドキュメント タイプが含まれます。すべてのドキュメント タイプは、デフォルトのドキュメント タイプ内で作成されます。

分類グループ

分類グループは、複数の抽出グループで構成されます。分類グループは、ドキュメントの分類に役立ちます。

同じ抽出グループを複数の分類グループに含めることができます。分類グループをタグ付けして、分類グループの内容を説明するテキストを追加できます。

フォルダ

フォルダは、ドキュメントの分類と処理に役立つ1つ以上のフォルダ タイプのグループです。たとえば、「人事」というフォルダに「採用」、「スキル セット」、「給与改定」などのフォルダ タイプを含めるといったことが考えられます。

TotalAgility にはデフォルトで、インスタンス ID、タイプ、ドキュメント数の各システム定義フィールドが含まれたルート フォルダが含まれます。ルート フォルダ内にフォルダの階層を作成できます。各フォルダには子フォルダを含めることができます。すべてのカスタム フォルダは、デフォルト フォルダから自動的にフィールドを継承します。

ドキュメント/アクティビティ バリエーション

ドキュメント タイプに対してバリエーションを作成し、無視するフィールドを指定できます。これにより、1つの汎用的なドキュメントを作成し、使用中のバリエーションに応じて異なる方法で表示することができます。

請求書など、一般的なドキュメント タイプを1つ用意することもできます。ただし、請求書のタイプによっては、一部のフィールドが対応しない可能性があります。たとえば、会社 A が請求書に割引のフィールドを含めない一方で、会社 B が常に特定の金額の割引を含める場合などです。

このドキュメント タイプをスキャン、検証、確認、またはドキュメント レビューのフォーム内で使用する場合、無視するように構成されたフィールドは表示されません。このドキュメントの有効期間中、このドキュメント タイプが有効と見なされます。

多段階検証をサポートするために、フィールドを表示および非表示にするドキュメント バリエーションのアクティビティ バリエーションを作成できます。これにより、複数のリソースによって段階的にドキュメントを検証できるようになります。表示されるフィールドはアクティビティに対して有効と見なされますが、ドキュメントに対しては無効である可能性があります。

ドキュメント バリエーションまたはアクティビティ バリエーションでフィールドを無視するように設定すると、フィールドはフォーム上に存在するものの非表示になります。使用法に関する追加の条件ルールがないフィールドに対してのみ、バリエーションを使用してください。

注 表示ルール アクションを使用して、フィールドを非表示にすることもできます。

ドキュメント バリエーション オプションは、スキャン新規ジョブ作成フォームまたはスキャン アクティビティ フォームを生成するときのみ使用できます。バリエーションは、ファイルのアップロードなどのキャプチャ コントロールでは利用できません。この方法でキャプチャされたドキュメントは、SDK を使用してバリエーションを適用するように更新できます。

検証ルールを適用すると、すべての非表示フィールドが有効と見なされます。マルチ フィールド検証ルールを構成しており、必須フィールドの一部が非表示になっている場合、マルチ フィールド ルールは実行されません。

アクティビティを行うか、スキャンを使用して新しいジョブを作成すると、ドキュメントの作成時にバリエーションが適用されます。バリエーションのバージョンは最新のアクティブなバージョンに設定されます。その時点でバリエーションが存在しない場合、ドキュメントにバリエーションがスタンプされますが、バージョ

ンは 0 に設定されます。これを更新してバリエントを適用する唯一の方法は、ドキュメントを再分類することです。

バリエントはドキュメント タイプ内でコピー、または親ドキュメント タイプから子にコピーすることができるため、微調整を行うためにバリエント全体を手動で再作成する必要はありません。

フィールド フォーマッタ

フィールド フォーマッタは、抽出されたフィールドのコンテンツに事前に定義済みのフォーマットを強制的に適用して一貫性を保つために使用されます。

たとえば、金額に 1,500.00 など、小数点とコンマが含まれている場合があります。金額フォーマッタを使用すると、金額が数値 (1500) に再フォーマットされます。

TotalAgility では、次のフォーマッタ タイプがサポートされます。

- 金額: 金額と通貨に関連する設定を構成します。
- 日付: 日付形式を構成します。
- パーセント: パーセント形式を構成します。
- ビジネス ルール: ビジネス ルールに基づいて特別なフォーマット設定を行います。また、ビジネス ルールを使用して、フィールドの形式が別のフィールドの値に依存する依存フォーマットを設定することもできます。

金額、日付、パーセントの各フォーマッタは、単一フィールドのフォーマッタとして使用されます。一方、ビジネス ルール フォーマッタは単一フィールドに加えて複数フィールドのフォーマッタとしても使用できます。

TotalAgility では、次の 2 つのデフォルト フォーマッタが用意されています。

- DefaultDateFormatter: 日付の順序や日付の出力形式など、基本的な日付形式が含まれます。
- DefaultAmountFormatter: デフォルトの通貨形式と典型的な小数点の記号の形式が含まれます。

フォーマッタは、テーブル列を含むドキュメント タイプまたはフォルダ タイプのフィールドに関連付けることができます。

フォーマッタのベスト プラクティスについては、『Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイド』の「フォーマット設定」を参照してください。

フィールド バリデータ

フィールド バリデータをグローバルに定義して特定のフィールドで再利用し、バリデータを複数回定義する必要がないようにします。

グローバル フィールド バリデータは、ドキュメント タイプおよびフォルダ タイプのフィールド レベルで使用できます。

フィールドズーム設定

フィールドズーム設定を使って、各ドキュメントフィールドのズームエリアを構成できます。

関連付けられたゾーンがある場合、フィールドゾーンサイズを基準にした自動ズームを設定するか、別のズームレベルを設定できます。

関連付けられたゾーンがない場合、1番目のページ、最後のページ、3番目のページなどのようにドキュメント内の移動先のページと、上部の20%、下部の30%、右上の10%、左下の15%などのようにズームする領域を設定できます。

ドキュメント変換プロファイル

ドキュメント変換プロファイルには、受信ドキュメントを変換するための変換設定が含まれています。

特定のタイプの受信ドキュメントに必要な変換設定を構成して、ドキュメント変換プロファイルを作成します。ドキュメント変換アクティビティでは、ドキュメント変換にドキュメント変換プロファイルを使用します。1つのドキュメント変換プロファイルを作成し、さまざまなプロセスマップで同じものを再利用できます。また、複数のドキュメント変換プロファイルを作成して、さまざまな受信ドキュメントタイプに対応することもできます。

さらに、Adobe PDF Library SDKのスムージングフラグとレンダリングフラグを使用して、PDFからTIFFに変換する際のJPEG品質を向上できます。このフラグによって、特定のPDFタイプにおいてドキュメント変換中に発生する黒い線が解消されます。

PDFプロファイル

PDF生成プロファイルを使用して、ドキュメントのPDF出力を改善します。

イメージやテキストをPDF (Portable Document Format) ファイルにエクスポートしたり、出力されるPDFファイルをPDF/Aに準拠させたり、解像度やJPEG品質を定義したりできます。テキストとグラフィックを識別するPDFタグを追加して、HTMLおよびXMLファイル形式に変換することで、視覚障害者向けの支援ソフトウェアに確実に認識させることができます。

スキャン/VRSプロファイル

スキャン/VRSプロファイルを使用して、一般的なスキャナ、標準化、2値化、変換、再利用のためのイメージ完成設定を保存します。

また、高度なeVRS設定を構成して、クロップ、傾き補正、斑点除去、高度な2値化など、イメージ品質をさらに向上させることもできます。

注 Kofax eVRSは、イメージの品質を向上させるために使用されるイメージ向上ツールです。

TotalAgilityでは、デフォルトのスキャン/VRSプロファイルが提供されます。デフォルトのプロファイルを編集するか、追加のプロファイルを作成できます。スキャン/VRSプロファイルをキャプチャ対応プロ

セスに関連付けるか、スキャン インターフェイス、電話デバイス、アップロード シナリオなどで使用できます。

スキャン/VRS プロファイルと Web Capture サービスの VRS Elite との関係

VRS Elite Twain-On-Top ソースからスキャンする場合、TotalAgility ではイメージ処理が無効になり、VRS Elite によって処理されます。したがって、イメージ処理は VRS Elite で構成する必要があります。これにより、VRS Elite でイメージ処理を実行した後に、そのイメージが TotalAgility に渡されます。

スキャン/VRS プロファイルが構成されている場合、同じ名前が VRS Elite プロファイルを自動選択するために使用されます。

注 スキャナ ワークステーションの CPU が、VRS スキャナのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。CPU が遅いとスキャンのパフォーマンスが低下し、CPU が速いとスキャンのパフォーマンスが向上してスキャナの定格スキャン速度に近づきます。したがって、大きなドキュメントをスキャンする場合はハイエンド ワークステーションを使用して VRS をスキャンしてください。

MFP スキャンにスキャン/VRS プロファイルを使用する

スキャン/VRS プロファイルは、MFP スキャンで 2 つの目的に使用できます。

1. 「スキャン設定」を MFP にプッシュすることで、MFP スキャン エンジンは、指定されたスキャン設定を使用します。

これには次のような設定が含まれます。

- カラー モード (カラー、グレースケール、白黒でのスキャンなど)
- 解像度
- ページのサイズ
- ページの向き
- シンプレックス/デュプレックス
- ページ ソース (ADF またはフラットベッド)

MFP がスキャンを実行すると、スキャン エンジンが対応する設定を使用するように構成されます。

2. TotalAgility が MFP からイメージを受信したときに eVRS を使用して指定されたイメージ処理を実行するように、「イメージ処理設定」を指定します。

これには次のような設定が含まれます。

- 出力色
- 出力解像度
- 自動回転
- 自動クロップ
- 空白ページの削除
- 傾き補正
- 斑点除去
- eVRS コマンド文字列

分割プロファイル

分割プロファイルを使用して、スキャン中にドキュメントを分割し、フォルダに自動的に配置します。

コントロール レイアウト

[コントロール レイアウト] オプションを使用して、キャプチャ フォーム レイアウトを作成します。

キャプチャ コントロールは、「スキャン」、「スキャン新規ジョブ作成」、「確認」、「検証」、「ドキュメント レビュー」などのキャプチャ アクティビティに使用します。レイアウトは、同じキャプチャ コントロール タイプのフォーム間で共有、再利用できます。

注 スキャン新規ジョブ作成レイアウトを、スキャン新規ジョブ作成フォーム以外に割り当てることはできません。

レイアウトは、次の 4 つのパネルで構成されます。

1. ナビゲータ
2. サムネイル
3. イメージ ビューア
4. フィールド

レイアウトをカスタマイズし、レイアウト パネルをスワップ、ドック、サイズを変更、折りたたみ、または非表示にすることもできます。

注 キャプチャ フォームにドック解除されたドキュメントがある場合、Internet Explorer を使用して表示することはお勧めしません。これは、Internet Explorer のメモリ リークに関する既知の問題があるためです。

第 9 章

翻訳

翻訳機能を使用すると、ユーザー向けの完全な複数言語ソリューションを作成できます。ソリューション内のアーティファクトに複数の言語の翻訳を提供またはインポートできます。

TotalAgility は、コンピュータ ソフトウェアをさまざまな言語や地域に適応させるためのパラメータを定義する、国際化 (i18n) およびローカリゼーション (l10n) 標準に準拠します。

作業キュー内のアクティビティ名などのプロセスの詳細は、ソリューション全体にわたって広範囲に表示されるため、アクティビティ名、SLA の説明、作業タイプ、ページ レンディション、カテゴリなどのプロセス要素が翻訳の対象になります。「多言語プロセスの有効化」の設定 ([システム] > [システム設定] > [全般]) が有効になっていない場合、プロセスを翻訳できますが、実行時にプロセスは基本言語でのみ表示されます。

フォームは、ソリューションのメイン ユーザー インターフェイスを提供します。そのため、コントロール テキスト、ラジオ ボタン、テキスト フィールド、チェック ボックス、列見出し、ナビゲーション テキスト、エンティティ、およびエンド ユーザーに表示されるテーブル ヘッダーなどの各項目は、1 つ以上の言語への翻訳の対象になります。

注

- Windows では、パスワード モードでテキスト ボックスを使用している場合、Microsoft 仮想キーボードは無効になります。
- フォームを以前のバージョンからアップグレードした場合は、フォームを手動で保存してリリースすることで、作業キューとジョブ リストの列見出しを翻訳できるようになります。

TotalAgility では、プロセスによって項目の翻訳用にサポートされる言語を定義して、言語や地域の制限なくターゲット市場にサービスを提供できます。言語は、TotalAgility でサポートされている言語のリストから選択できます。

注 翻訳には最大 215 種類の言語を選択できます。

言語を追加して翻訳を提供すると、実行時に、ブラウザ設定または言語セレクトア コントロールを介して、すべてのデータがブラウザに設定された正しい言語で表示されます。ブラウザ言語の翻訳が利用できない場合、各要素はベース言語で表示されます。言語セレクトア コントロールの選択は、サイトでサポートされている言語に基づきます。ブラウザ言語の翻訳が利用できない場合、各要素はベース言語で表示されます。

言語をエクスポートおよびインポートすることもできます。

- 特定のジョブの言語を取得または設定するには、Job Service コンポーネントの API を使用します。
 - ジョブの言語を設定するには、UpdateJobLanguage を使用してジョブ ID と言語コードを渡します。
 - ジョブに言語を返すには、GetJobLanguage を使用してジョブ ID を渡します。

- 「ジョブから言語を設定」アクションを追加して、表示されたフォームをジョブの言語でレンダリングします。
アクションをフォームに追加し、ジョブ ID を渡します。これにより、ロード時にフォームの言語が設定されます。その言語の翻訳が利用可能である必要があります。

第 10 章

クエリ

クエリは、必要なジョブとアクティビティを検索し、自動および手動タスクのワークロードを表示するのに役立ちます。

ジョブ クエリ、作業キュー クエリおよびシステム クエリを作成し、これらのクエリを特定の個人またはグループと共有することもできます。ジョブ クエリを使用すると、必要なジョブを検索できます。作業キュー クエリを使用すると必要なアクティビティを検索できます。システム クエリは、自動および手動タスクのワークロードを表示するのに役立ち、タスクの処理の遅延を回避するアクションを実行し、パフォーマンスの向上を実現できます。システムで実行され、完了した作業を表示し、関心領域を特定して分析できます。

実行時にクエリの列の表示を管理するには、列を選択して表示順に並べ替えるか、カスタムの並べ替え順序を定義して各フィールドの方向を昇順または降順に指定します。

クエリを実行、表示、編集、または削除するためのアクセス許可をグループまたは個々のリソースに与えることができます。

クエリで指定した取得制限に関係なく、項目数を表示するようクエリを構成できます。この場合の取得制限とは、重複を除外してシステム内のアクティビティの数を返すことです。たとえば、アクティビティが自分と自分がメンバーであるグループに直接割り当てられている場合、そのアクティビティは重複を除外すると 1 個のアクティビティですが、作業キューには 2 回表示されます。

実行時にジョブ リスト、作業キュー、またはワークロード コントロールでクエリを表示すると、クエリに一致する項目の合計数が表示されます。項目数は、表の上のタイトルの横に括弧で囲まれて表示されます。

第 11 章

システム

TotalAgility でカテゴリを定義して関連する項目をグループ化し、作業をスケジュールして、保持ポリシー、フェデレーション セキュリティ、例外、SLA などのさまざまなシステム設定を構成できます。スレッドプールの追加、システム タスクの管理、Web サービス URL のホワイトリストへの登録、バックアップライセンス サーバーの構成、およびその他の多くの設定を行うことができます。

これらの設定を構成する方法については、次のリンクを参照してください。

- [カテゴリ](#)
- [ジョブ スケジュール](#)
- [システム設定](#)

カテゴリ

カテゴリを使用して、TotalAgility 内の関連する項目 (リソースからプロセス) をグループ化し、アクセスを制限または許可する手段を提供します。

さまざまな種類の項目に関連付けを行うことで、保存したフォルダが異なる場合でも追跡できます。たとえば、すべてのビジネス プロセスと財務部門で使用されるあらゆるリソースを「財務」カテゴリに関連付けるといったことが考えられます。

TotalAgility には、すぐに使用可能な次のようなカテゴリが用意されています。

- デフォルト カテゴリ
- システム カテゴリ
- **TotalAgility** フォーム: このカテゴリには、TotalAgility Workspace のフォームが含まれます。
- ビジネス ルール パラメータ: このカテゴリは、TotalAgility をアップグレードした場合、または、以前のマップにロジック ルールをインポートした場合にのみ利用可能です。すべてのビジネス ルール パラメータはサーバー変数としてインポートされ、このカテゴリに分類されます。

独自のカテゴリを作成することをお勧めします。カテゴリ内にカテゴリを作成することもできます。

注 デフォルト カテゴリおよびシステム カテゴリは削除できません。ただし、それらの説明は変更できます。

ジョブ スケジュール

TotalAgility は、組み込みのジョブ スケジューラによるスケジューリング機能を提供します。作業をスケジュールするために使用可能な独自のジョブ スケジュールを作成できます。ジョブ スケジュールは、プロセス、その初期化データ、および作成頻度で構成されます。

特定の期間または間隔で 1 つ以上のジョブを作成するようにスケジュールできます。たとえば、データベースの定期的な更新や、サードパーティのシステムとの同期を行うといったことが考えられます。

TotalAgility には、次のようなジョブ スケジュールが用意されています。

- **SYSTEM** (削除しないでください) - **AUTO WORK ALLOC**: 作業割り当てを自動的に実行します。
- **SYSTEM** (削除しないでください) - **DELEGATION**: 完了した委任を確認します。
- **SYSTEM** (削除しないでください) - **サンプリングのリセット**: 数量カウントをリセットします。

システム設定

システム内には、使用可能なさまざまなシステム設定があります。

これらの設定は、次のカードの下にグループ化されています。

- データベース、保持、およびレポート
- ユーティリティ
- プロセス
- ログオンおよび認証
- システム
- ユーザーの動作
- ライセンス サーバーと統計
- キャプチャ
- アクセス制御リスト
- アプリ

データベース、保持、およびレポート

このカードには、次のシステム設定が含まれます。

- データベース設定
- 保持ポリシー
- レポート サーバー
- レポート タグ

データベース設定

十分なアクセス許可がある場合、データベース設定を表示および構成できます。

データベースのバージョン

システムではデータベースのバージョンが表示されます (読み取り専用)。

監査ログへの書き込み

データベースに監査ログを保持します。

注 監査ログはサーバーのアクティビティとパフォーマンスの監視に役立ちますが、監査データにより TotalAgility データベースが大幅に増大します。この設定を解除して、データベース サイズを縮小し、パフォーマンスを向上させることができます。ただし、監査ログを保持する場合は、関連する保持ポリシーを構成して、古い監査ログ エントリを削除します。

アーカイブ モード

ジョブの終了時 (自然終了または強制終了) に、このジョブを詳細とともにライブ テーブルから終了済み テーブルに自動または手動でアーカイブして、パフォーマンスを向上させることができます。

- **[自動] (デフォルト):** 定期的なシステム タスクにより、ジョブの詳細が活性状態テーブルから終了済み テーブルにアーカイブされます。
- **[手動]:** ユーティリティの下にある「終了済みジョブのアーカイブ」リンクをクリックすると、終了済みジョブがアーカイブされます。アーカイブしない場合、このジョブはライブ ジョブ テーブルに残ります。「終了済みジョブのアーカイブ」を参照してください。

注

- アーカイブ モードを自動から手動に変更できます。モードを自動から手動またはその逆に変更すると、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。
- TotalAgility をアップグレードした場合も、「終了済みジョブのアーカイブ」プロパティは、アップグレード前と同じ設定のままになります。

保持ポリシー

データベースの容量が増大することを防ぐため、古い項目や未使用の項目をシステムから削除する必要があります。

保持ポリシーにより、データベース サイズの最小化を自動的に行うことができます。デフォルトではシステムに保持ポリシーが設定されていないため、すべてのアーティファクトは手動で削除しない限りデータベースに無期限で保持されます。

特定の項目の保持期間および保持するバージョンの数を定義することで、未使用の項目のクリーンアップ、データベースの容量の管理、パフォーマンスの最適化に役立ちます。

バージョン ベースの保持

デフォルトでは、すべてのバージョンが保持されます。オプションとして、フォーム、プロセス (スキンを含む)、ビジネス ルール、分類グループ、抽出グループといったさまざまなメジャー バージョンを保持できます。たとえば、プロセスの最後の 15 バージョンを保持することなどができます。

カスタム保持の場合、デフォルトは最後の 10 バージョンで、最小は 1 バージョンです。

注

- プロセス バージョンに基づくジョブ (活性状態または終了済み) がある場合、そのプロセス バージョンは削除できません。
- 分類グループまたは抽出グループが削除された場合、Transformation Designer からそのプロジェクトを削除する必要があります。
- 抽出グループを参照するドキュメントがある場合でも、その抽出グループは削除できます。したがって、既存のドキュメントを確認する必要はありません。

時間ベースの保持

デフォルトでは、各項目は無期限で保持されます。カスタムの保持期間を構成できます。

保持期間は、項目を保持する日数、月数、または年数です。保持期間が終了すると、その項目はデータベースから自動的に削除されます。

次のような場合に保持期間を定義できます。

- 内部ユーザー: 終了日が保持期間よりも後の日付である場合。
- 外部ユーザー: 終了日が保持期間よりも後の日付である場合。
- 監査ログ エントリ: ログへの記録日が保持期間よりも後の日付である場合。
- ドキュメント: LastAccessedAt が保持期間よりも後の日付である場合。ドキュメントの削除後、フォルダ階層内にドキュメントが残っていない場合、保持ポリシーによりルート フォルダも削除されます。保持ポリシーは、オンライン学習フォルダまたはそのサブフォルダを削除しません。
- フォルダ: ルート フォルダの LastAccessedAt の日付が保持期間 (ドキュメント保持の値が使用されます) より後で、フォルダ階層にドキュメントが含まれておらず、フォルダ階層にロックされたフォルダが含まれない場合。保持ポリシーは、オンライン学習フォルダまたはそのサブフォルダを削除しません。

注 保持ポリシーは、サブフォルダを個別に削除しません。サブフォルダは保持ポリシーに一致するルート フォルダの一部として削除されます。

- **KCM** パック: 作成日が保持期間よりも後の日付である場合。

特定のプロセスの保持期間を構成し、保持ポリシー システム タスクによってパージされたジョブを取得することができます。プロセス レベルで定義された保持期間は、システム設定よりも優先されます。

ドキュメント ベースの保持

デフォルトでは、ドキュメントは無期限で保持されます。カスタムの保持期間を構成できます。

保持期間の設定時:

- 特定の保持設定を持たないすべてのドキュメント タイプでは、「最終アクセス時間」タイム スタンプとシステム設定で設定された期間に基づく一般的な保持動作が使用されます。
- 最終アクセス時間または終了時間を使用した特定の設定を持つすべてのドキュメント タイプについて、保持ポリシーは、その特定のドキュメント タイプの最新バージョン用に構成された設定に基づいてドキュメントを削除します。
- 保持ポリシーによってルート フォルダからすべてのドキュメントが削除されると、ルート フォルダも削除されます。
- ルート フォルダにドキュメントがなく (空のサブフォルダがある場合でも)、その最終アクセス時間がドキュメントに設定された一般的な保持期間よりも以前の場合、ルート フォルダは削除されます。保持ポリシーの実行中は、オンライン学習フォルダは削除されません。

保持プロセスの実行

保持ポリシー システム タスクは、データベースからの項目の削除を処理します。

保持ポリシーは、削除の準備ができている検索されたすべてのドキュメントを常に削除します。保持ポリシーは、「デフォルトの保持チャンク サイズ」の設定に従って、これらのドキュメントをチャンクに分割します。単一の TotalAgility システム タスクがドキュメントのチャンク処理を実行します。これは、単一のシステム タスクの制限時間が 5 分であるため必要になります。たとえば、大量のデータを含む巨大な階層がある場合、システム タスクは 5 分以内にデフォルトの 250 件のドキュメントを削除できないことがあります。このような場合は、チャンク サイズを小さくすることができます。このサイズが小さいほどより多くのシステム タスクが作成され、サイズが大きいほどより少ないシステム タスクが作成されます。

レポート サーバー

キャプチャ データはレポート データベースに保存されます。このようなデータを処理する方法を定義できます。

レポート機能を有効にする

デフォルトでは、レポート コンポーネントの情報の送信およびレポート メッセージの処理を有効にします。このチェック ボックスをオフにすると、すべてのレポートサーバーの設定が無効になり、ステージング データベースから未処理のレポート データを削除するか確認するよう求められます。確認して保存すると、すべてのレポート ステージング データが削除され、復元できなくなります。

レポート ウェアハウス ETL エージェント

レポート サービスが抽出/変換/ロード プロセス全体の変換手順およびロード手順を実行する期間。

(デフォルト: 0 時間 0 分と 23 時間 59 分)

オンプレミス マルチテナンシー環境および Azure 環境の場合、システム タスクはテナントごとに作成され、1 つのテナントのタスクは 1 分間隔になります。それぞれのタスクは個別に処理され、適切なステージング/ウェアハウス データベースのペアは、システム タスクごとに 1 ペアずつ処理されます。

注 「レポート ウェアハウス ETL エージェント」の設定は、オンプレミス環境では TotalAgility インストールごとに 1 回構成し、オンプレミス マルチテナンシー環境および Azure 環境ではテナントごとに 1 回構成します。

「レポート ウェアハウス ETL エージェント」の設定は、オンプレミス環境では TotalAgility インストールごとに 1 回構成し、オンプレミス マルチテナンシー環境および Azure 環境ではテナントごとに 1 回構成します。

データ保持期間

フィールドおよびドキュメントに関連付けられたデータを保存する期間。

(フィールドのデフォルト = 5 日、ドキュメントのデフォルト = 3650 日 (10 年))

レポート タグ

プロセスに追加したレポート タグにより、Kofax Analytics for TotalAgility でレポートにカスタム フィルタを適用できます。

レポート タグの名前は 50 文字以内にする必要があります。

レポート タグは更新または削除することができます。

ユーティリティ

このカードには、次のシステム設定が含まれます。

- [終了済みジョブのアーカイブ](#)
- [ジョブの全削除](#)
- [保護されている項目の検索](#)
- [ロック ステータス検索](#)

終了済みジョブのアーカイブ

ジョブの終了時 (自然終了または強制終了) に、このジョブに関連するすべての詳細を活性状態テーブルから終了済みテーブルにアーカイブして、パフォーマンスを向上させることができます。

終了済みのジョブは、アーカイブ モードが手動の場合にのみアーカイブできます。「[データベース設定](#)」の「アーカイブ モード」を参照してください。

ジョブの全削除

「ジョブの全削除」ユーティリティは、データベースから活性状態と終了済みジョブを削除するために使用可能な権限ベースの機能です。このユーティリティは、通常、運用環境またはテスト環境でテストジョブを削除するために使用されます。

「ジョブの全削除」オプションは、適切な権限があり、システムで開発ライセンスを実行している場合にのみ使用できます。

保護された項目の検索

保護された項目を検索し、これらの項目の関連付けを表示して、項目が使用されているすべてのインスタンスを特定できます。

保護された項目を、項目名または次の項目タイプで検索します。プロセス、フォーム、ビジネス ルール、抽出グループ、分類グループ、フォルダ、フォーム テンプレート、およびカスタム サービス。

パッケージの作成時に項目を保護できます。パッケージを別のシステムにインポートした場合は、保護された項目のリストを検索して表示できます。保護された項目は Designer では表示されないため、これらの項目がプロセス、フォーム、またはビジネス ルール内で使用されているかどうかを確認することはできません。たとえば、プロセス内で使用中の項目を削除できない場合があります。

注

- 検索は、項目の最新のバージョンに基づいて行われます。たとえば、TestProcess のバージョン 1 が保護されていても TestProcess のバージョン 2 が保護されていない場合、検索結果は TestProcess を返しません。
- 抽出グループ、分類グループ、フォルダ、およびフォーム テンプレートでは関連付けを使用できませんが、これらの項目に関連付けられているフォームが表示されます。

TotalAgility から項目を直接削除することもできます。一度に削除できる項目は 1 つだけです。また、保護された項目が使用中である場合は削除できません。

ロック ステータス検索

項目名、項目タイプ、および項目をロックしたリソースに基づいて、ロックされた項目を追跡できます。複数の項目の組み合わせ (たとえば、リソースによってロックされたすべてのフォームまたはプロセス) を検索します。「ロック」および「ロック解除」オプションにより、TotalAgility Designer 内の項目の制御および構成の柔軟性が強化されます。デフォルトでは、ビジネス プロセスなどの項目は作成時にロックされ、他のリソースによる変更が制限されます。「ロック解除」オプションを使用して、他のユーザーが項目を変更できるようにします。ロックされた項目の検索を可能にするリソースのアクセス許可を設定できます。「[アクセス制御リスト](#)」を参照してください。

次の項目タイプのロック状態を検索できます。ビジネス プロセス (ケースの定義、ケース フラグメント、カスタム サービスを含む)、分類グループ、ドキュメント バリエーション、抽出グループ、フォルダ タイプ、フォーム、フォーム テンプレート、フォーム バリエーション、ジョブ スケジュール、スキン、およびデータ モデル。

プロセス

このカードには、次のシステム設定が含まれます。

- [例外](#)
- [プロセス ノード カラー](#)
- [スクリプト](#)
- [SLA および作業の割り当て](#)

例外

例外は、プロセスの実行中に特定の状況が発生した場合にユーザーにエスカレーションするための方法です。

たとえば、システムが重要なデータをダウンロードするためのリモート サーバーに接続できない場合、または特定のジョブを取得するためのリソースが利用できない場合に、例外が発生します。

プロセス マップをエスカレーション プロセスとして割り当てることにより、例外を処理できます。たとえば、顧客が支払期限までに保険料を提出しなかった場合に、自動的に電子メールを送信するように保険料ポリシー プロセスを設定するといったことが考えられます。

TotalAgility には、事前定義された例外処理コードが用意されています。各例外コードは、特定の種類の例外 (プロセス マップ) のプレースホルダーです。マップでこれらのプロセスを使用することで、スルー

プット、容量、ワークロードの変更といった予期しないイベントに対して、手動での介入やプロセスを強制終了することなく対処することができます。

例外コードが呼び出された場合に実行するプロセス マップを作成する必要があります。たとえば、例外コード EXP0001 は、リソースの非アクティブな時間が長すぎる場合に呼び出されます。

プロセス ノード カラー

アクティビティ タイプを簡単に識別できるように、プロセス内のさまざまなアクティビティ タイプの標準色を設定できます。

デフォルトでは、手動、自動、結合、およびその他のアクティビティに対して次の色を使用できます。

アクティビティ	アクティビティ タイプ	デフォルトの色
【手動】	【全般】 (通常のアクティビティ)	#7aadcc
	【キャプチャ】 (スキャン、検証、確認、ドキュメント レビュー)	#7aadcc
【自動】	【全般】 (新しいジョブの作成、サブジョブの作成、データ アクセス、同期、式、スクリプト、埋め込みプロセス、ループ、XML、リソース情報、ジョブ所有者、ジョブの変数、スリープ、サポート情報、Restful サービス、ドキュメントの作成、レビュー準備完了、およびビジネス ルール)	#78be83
	【キャプチャ】 (抽出、分類、PDF 生成、イメージ処理、合成、削除、エクスポート、転送、ドキュメント変換、およびイメージ品質の分析)	#78be83
	【.NET】	#78be83
	【Web サービス】	#78be83
【結合】	【Microsoft】	#b897ce
	【RPA】	#b897ce
	【SignDoc】	#b897ce
	【KCM】	#b897ce
	【Micro Focus Content Manager】	#b897ce
【その他】	【その他】 (埋め込みプロセス)	#c19d42

スクリプト

スクリプトは、特定の言語で実行される一連の命令です。

TotalAgility では、VBSCRIPT、C# スクリプト、および VB.Net スクリプトをアクティビティに関連付けることができます。アクティビティがアクティブになると、関連付けられたスクリプトが実行されます。VBSCRIPT は、オンプレミス マルチテナント環境ではサポートされていません。

CSharp および VB.Net スクリプト アクティビティにデータ交換スクリプトを入力できます。このスクリプトは、アクティビティに入力されたスクリプトを実行する前に実行するか、アクティビティのスクリプトの一部として実行されます。

スクリプト アクティビティのテキストで SParm を使用する場合は、「データ交換機能のプリロードと実行」を使用する必要があります。そうしない場合は、アクティビティのスクリプトの開始時にプリロードテキストを手動で入力する必要があります。「データ交換機能のプリロードと実行」を使用すると、アクティビティに入力されたスクリプトを実行する前にデータ交換スクリプトが実行されます。

SLA および作業の割り当て

任意のジョブまたはアクティビティに SLA インジケータを設定し、リソースを手動または自動で割り当てることができます。

サービス レベル契約

サービス レベル契約 (SLA) は、ジョブ リストまたは作業キューのしきい値のステータスまたはジョブとアクティビティの状態を視覚的に表したものです。

すべてのジョブまたはアクティビティに対して詳細な構成が可能な SLA インジケータを指定し、プロセスが目標値を超過するリスクがある場合にプロセスの参加者が迅速に確認して、必要に応じて対応を図ることができるようにします。

TotalAgility は、サーバー レベルで定義される最大 5 つのステータスをサポートします。2 つのステータス - 緑と黄はデフォルトで有効です。また、オプションとして赤、黒、紫を含めることができます。赤や緑などに対するステータス名を設定できます。

アクティビティの割り当て

リソースの作成時に設定したスキル レベル、またはプロセス レベルで設定したスキル レベルに基づいて、リソースにアクティビティを割り当てることができます。

作業キュー

一度に取得するアクティビティ行の最大数。たとえば、500 に設定され、1000 のアクティビティが存在する場合、作業キュー内の 500 行のみを取得できます。(デフォルト: 50、最大: 5000)

ログオンおよび認証

このカードには、次のシステム設定が含まれます。

- [パスワードとログオン](#)
- [多要素認証](#)
- [リソースの拡張](#)
- [ユーザー セッション](#)
- [フェデレーション セキュリティ](#)

パスワードとログオン

TotalAgility システム内では、パスワードとログオン設定を管理できます。これらのオプションの詳細については、[Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイド](#)を参照してください。

パスワード

[パスワード形式]

すべてのパスワードが準拠する必要がある形式。パスワードの形式は、正規表現またはインライン値です。たとえば、1文字以上の大文字のアルファベット、1文字以上の小文字のアルファベット、および1文字以上の数字を含む、8文字以上が必要なパスワード形式の場合の正規表現は次のとおりです。^(?=.*[a-z])(?=.*[A-Z])(?=.*\d)[a-zA-Z\d]{8,}\$

パスワード形式の正規表現の例:

- 1文字以上の大文字のアルファベット、1文字以上の小文字のアルファベット、および1文字以上の数字を含む、8文字以上が必要なパスワード形式の場合の正規表現は次のとおりです。

```
^(?=.*[a-z])(?=.*[A-Z])(?=.*\d)[a-zA-Z\d]{8,}$
```

有効なパスワードの例: **PaSs1234**または**pASS1234**

- 最小8文字、最大10文字で、1文字以上の大文字のアルファベット、1文字以上の小文字のアルファベット、1文字以上の数字、1文字以上の特殊文字を使用するパスワード形式の場合の正規表現は次のとおりです。

```
^(?=.*[a-z])(?=.*[A-Z])(?=.*\d)(?=.*[$@#!%*?&])[A-Za-z\d@$#!%*?&]{8,10}
```

有効なパスワードの例: **PaSs@123**および**pASS1234**

[パスワード ハッシュ アルゴリズム]

パスワードの整合性を検証するために使用されます。次の2つの設定が含まれます。

- [SHA-1]:** 暗号化ハッシュ アルゴリズム (アップグレード時のデフォルト設定)。
- [Script]:** パスワードベースのキー派生機能 (クリーン インストール時のデフォルト設定)。

パスワード ハッシュ アルゴリズムを変更すると、既存のユーザー パスワードは変更の保存時にすべて無効になります。したがって、デフォルトのパスワードを指定し、すべてのユーザーまたは現在のユーザーのみに対してパスワードを更新する必要があるかどうかを指定する必要があります。

[パスワードを使用しないログオンの無効化]

TotalAgility オンプレミスでは、権限のないユーザーが Logon SDK メソッドのいずれかを呼び出してセッション ID を取得すると、メッセージが表示されます。

[パスワード通知プロセスのリセット]

プロセスを使用する (デフォルト: SYSTEM がパスワードをリセット)。ユーザーがパスワードを忘れてリセットを要求した場合にパスワードをリセットします。

セキュリティ違反

セキュリティ違反またはパスワード形式の変更があった場合、すべてのユーザーに次のログオン時にパスワードの変更を要求します。

ログオン

[複数のユーザー ログオンを許可]

このオプションを選択すると、同じセッションを使用した複数のログオンが可能になります。たとえば、TotalAgility Designer と TotalAgility Workspace に同時にログオンしたり、同じセッションで複数のブラウザ ウィンドウを使用して Kofax TotalAgility Workspace にログオンしたりできます。

ログオン状態フォーム

フォームをログオン状態に関連付けると、フォーム設計者が次に表示されるフォームを把握するために役立ちます。デフォルトでは、各状態で特定の形式を使用します。たとえば、「AwaitingChangePassword」状態は「ChangePassword.form」フォームを使用します。

アカウント ロックアウト ポリシー

ログオンに失敗して試行回数がしきい値を超えると、アカウントがロックされます。指定された時間内に指定された回数、ユーザーが間違ったパスワードを入力した場合、アカウントロックアウト ポリシーによりユーザー アカウントが無効になります。ロックアウトは、攻撃者によるユーザーのパスワードの推測を防ぎ、ネットワークへの攻撃が成功する可能性を減らします。アカウントのロックアウト期間を定義できます。あるいは、管理者がアカウントを手動でロックおよびロック解除できます。

[ログオン試行の最大回数]

ユーザー アカウントがロックされるログオン試行の失敗回数。管理者によってリセットされた場合、またはアカウントのロックアウト期間が終了した場合にのみ、ロックアウトされたアカウントを再度使用できます。ログオン試行の失敗回数の値を 0 ~ 999 の範囲で設定できます。値 0 は、アカウントをロックできないことを示します。(デフォルト: 5)

[アカウント ロックアウト期間]

アカウントが自動的にロック解除されるまでにロックされる期間 (分単位)。アカウントのロックアウト期間は、0 ~ 99,999 分です。値 0 は、管理者が明示的にロックを解除するまでアカウントがロックアウトされたままになることを示します。(デフォルト: 30 分)

多要素認証

多要素認証 (MFA) は、ユーザーの正当性を検証するための次のような複数の独立した認証要素を必要とするセキュリティ アプローチです。

1. 知識要素: パスワードやセキュリティの質問への回答など、ユーザーだけが知っているもの。
2. 所持要素: クライアント コンピュータまたはデバイス上のパスコード付きの電子メールやユーザー固有の Cookie など、ユーザーだけが所持するもの。
3. 固有要素: 指紋や虹彩認識など、ユーザー固有のもの。
各要素の提示後、認証を行うためには、それぞれの要素が相手によって検証される必要があります。

内部リソースと外部リソースに対して、個別に多要素認証を有効にできます。TotalAgility は、内部リソースと外部リソースの両方に対し、次の認証機能をサポートします。

- パスコード: 初めてログオンするユーザーは、パスコードの入力を求められます。パスコードは電子メールでユーザーに送信され、有効期限が設けられています。アクティブなパスワードを入力するとユーザーのシステムに Cookie が追加され、ログオンが続行されます。その後のログオン時には、システムは有効な Cookie を確認します。Cookie が存在しない場合、ユーザーはパスコードの検証を再度実行する必要があります。
- パスワードの形式: セキュリティを強化するため、正規表現を使用して、特定の形式に準拠したリソースへのパスワードの追加を必須にすることができます。これはオプションの設定です。

リソースの拡張

システム レベルでメタデータを定義することにより、すべてのワーカーまたはグループに対して TotalAgility に保持されている情報を拡張できます。ワーカーまたはグループを構成すると、その補足情報用に保持される値を管理できます。

ユーザー セッション

ユーザーには、ユーザー セッション設定を表示または編集するための十分なアクセス許可が必要です。

システム

システム セッション ID

セキュアな SDK 呼び出しの実行を許可します。TotalAgility のインストールごとに、一意のシステム セッション ID が生成されます。システム セッション ID は、再生成やその値を手動で設定することができます。

制限ユーザー セッション ID

デフォルトの制限付きセッション ID を表示したり、新しい制限ユーザー セッション ID を生成したりできます。

ユーザー

セッション タイムアウト

システムによりユーザー セッションが自動的に無効化されるまでの時および分単位の時間枠。セッション タイムアウトは、「プロセス セッションのタイムアウト」システム タスクがアクティブで、TotalAgility Core Worker サービスが実行されている場合にのみ有効になります。

バッチ セッションのタイムアウト

バッチがタイムアウトするまでの時および分単位の時間枠。この間隔は、ジョブのスキャンと作成、主にスキャンまたは検証アクティビティなどのキャプチャ関連の作業を実行するときに表示します。(デフォルト: 0 時間 30 分)

「バッチ」は、キャプチャ フォームで作業する際に行ったすべてのドキュメント/フォルダ データの変更の一時的なストレージです。これがタイムアウトすると、すべての変更が失われ、最初からやり直す必要が生じる場合があります。「スキャン新規ジョブ作成フォーム」を再度起動するか、スキャン アクティビティまたは検証アクティビティを再度実行する必要があります。

キャプチャ バッチをタイムアウトにする場合は、適切な値を設定するか、システム タスクの「キャプチャ タイムアウトを処理する」を無効にします。

バッチは、セッション タイムアウトとは関係なくタイムアウトします。これは基本的に、ユーザーがキャプチャ アクティビティを完了する必要がある時間を示します。アクティビティの実行中にバッチがタイムアウトした場合でも、取得したアクティビティをキャンセルして、作業キューから再度取得できます。

タイムアウト警告期間

ユーザー セッションのタイムアウトを知らせる警告が表示されるまでの期間。(デフォルト: 5 分)

たとえば、システム セッション タイムアウト = 1 時間、バッチ セッション タイムアウト = 30 分、警告セッション タイムアウト = 5 分と設定してキャプチャ アクティビティを実行し、30 分間アイドル状態の

ままになると、25 分後 (30 分でバッチ セッションがタイムアウトする 5 分前) に警告メッセージが表示されます。

注 アクティビティ実行フォームでセッションがタイムアウトした際、1 つのセッションがある場合はアクティビティがキャンセルされ、複数のセッションがある場合はアクティビティが実行されたままになります。

セッション タイムアウト フォーム

ユーザー セッションがタイムアウトしたことを通知し、再度ログインするためのリンクを提供する TotalAgility のフォーム。

たとえば、ユーザーが「新規ジョブ作成フォーム」フォームを表示しており、セッション タイムアウトメッセージの表示後にアクションを実行しない場合、システム設定で設定したタイミングに基づいて、セッションがタイムアウトするまでメッセージが表示されます。ユーザーがメッセージの [OK] をクリックすると、セッションがリセットされ、ユーザーはフォームで以降のアクションを実行できます。アクションを実行しない場合、セッションはタイムアウトし、ユーザーはセッション タイムアウト フォームにリダイレクトされます。

注 アクティビティ実行フォームでセッションがタイムアウトした際、1 つのセッションがある場合はアクティビティがキャンセルされ、複数のセッションがある場合はアクティビティが実行されたままになります。

リソースのアイドル時間枠

イベントが発生する前に、システムがリソースをアイドル状態にする時間を指定します。たとえば、リソースがアクティビティを拒否してから 2 時間後に、同じアクティビティを再度リソースに提供するイベントを発生させることができます。(デフォルト: 0 時間 0 分)

フェデレーション セキュリティ

フェデレーション セキュリティ システムは、複数の企業またはセキュリティ ドメインにまたがる ID とリソースへのアクセスを管理するための仕組みです。複数の場所における ID の重複とセキュリティ管理を回避し、ID の管理および信頼性の高い方法で情報とサービスにアクセスするための簡単な方法を提供します。

フェデレーション システムでは、組織のグループが相互信頼と合意済みの規格に基づいて ID 属性を共有し、フェデレーションの他のメンバーからの認証を促進し、オンライン リソースへの適切なアクセス権を付与します。認証とは、ユーザーとシステム プロセスの ID を確認するプロセスです。TotalAgility では、認証にフェデレーション セキュリティ システムまたはクレームベースの ID を使用します。

クレームベースの ID またはフェデレーション認証は、TotalAgility Azure およびオンプレミスで認証を行うためのより柔軟なソリューションです。TotalAgility では、信頼できるサードパーティの ID プロバイダによる認証はそのまま利用して、認証済みのユーザーに対して返されたクレームのみを処理できます。

クレームには、認証済みのユーザーまたは組織が自身または別のサブジェクトについて記述された複数のステートメントが含まれます。たとえば、ステートメントには、名前、グループ、購入の好み、民族、特権、関連性、または能力に関するものなどを含めることができます。クレーム トークンは、正しい ID プロバイダによって発行されたことを示すため、署名付きの形式になります。

TotalAgility は、Web サービス フェデレーション言語 (WS フェデレーション) およびセキュリティ アサーション マークアップ言語 (SAML) プロトコルを使用して、あるサイトにすでにログインしているユーザーが再度ログインせずに別のサイトにアクセスできるようにします。シングル サインオン (SSO)

は、ユーザーの単一の認証チケットまたはクレーム トークンが複数の IT システムまたは組織全体で検証されるフェデレーション セキュリティ システムのサブセットです。

ID プロバイダは、セキュリティ トークン サービスを提供します。ID プロバイダの例は次のとおりです。

- オンプレミス: AD FS 2.0 を備えた Windows Server Active Directory (SAML 2.0 およびその他のトークン形式をサポート)
- パブリック クラウド: Windows Azure Active Directory
- OneLogin (ワンログイン)

セキュリティ トークン サービスによりユーザーを認証し、クレームトークンを返します。セキュリティ トークン サービスの概念は、ドアマンのいるナイト クラブの例えを考えるとよりよく理解できます。ドアマンの役割は、未成年の利用者が入場するのを防ぐことです。これを簡単に行うために、ドアマンは顧客に運転免許証、健康保険証、または地方や州の車両免許部門、保健部あるいは保険会社などの信頼できる第三者 (セキュリティ トークン サービス) によって発行された他の ID (トークン) の提示を要求します。このように、ナイト クラブ側では、利用者の年齢を決定する責任が軽減されます。必要なのは、発行機関の信頼性を判断するだけです (そしてもちろん、提示されたトークンが信頼できるものかどうか独自の判断を下します)。

これらの 2 つのステップを完了することで、ナイト クラブは顧客が正当な飲酒年齢を満たすことを認証します。

同様に、ナイト クラブにはメンバーシップ システムがあり、特定のメンバーは通常または VIP メンバーである場合があります。ドアマンが別のトークン、つまりメンバーが VIP であることを示す会員カードを要求することもあるでしょう。この場合、このトークンの信頼できる発行機関はおそらくクラブ自体です。会員カードが VIP 顧客であることを示す場合 (クレームする場合)、クラブはそれに応じて、認証された VIP 会員の記載内容 (クレーム) をたとえば、顧客は専用ラウンジ エリアで無料の飲み物の提供を受けられるといった権限に変換します。

フェデレーション プロバイダは、他のセキュリティ トークン サービス (リソース セキュリティ トークン サービスとも呼ばれます) を信頼するセキュリティ トークン サービスを提供します。フェデレーション プロバイダは、信頼されたセキュリティ トークン サービスから受信したトークンに対してクレーム変換を実行します。

フェデレーション プロバイダには次のようなものがあります。

- オンプレミス: AD FS 2.0 を使用した Windows Server Active Directory
- パブリック クラウド: Windows Azure Active Directory、Windows Azure Active Directory のアクセス制御。

TotalAgility で使用されるフェデレーション プロバイダで指定された応答 URL は次のようになります。[https://\[host\]/TotalAgility/FederatedLogin.aspx](https://[host]/TotalAgility/FederatedLogin.aspx)。これは、認証の完了後に戻ることができるように、フェデレーション プロバイダが TotalAgility の場所を認識する方法です。

負荷分散されたサーバーにはデフォルトで一意的な machineKey ID があるため、TotalAgility は、負荷分散された環境では渡されたトークンを AD FS から一貫して正しく読み取ることができません。負荷分散環境で AD FS を使用して TotalAgility を設定するには、machinekey を生成し、すべてのサーバーに伝達する必要があります。

クレームに依存するアプリケーションは、TotalAgility のように、「クレーム認識アプリケーション」および「クレームベースのアプリケーション」としても知られるリライディング パーティ アプリケーションです。Web アプリケーションと Web サービスがリライディング パーティになる場合もあります。リライディング

パーティ アプリケーションは、セキュリティ トークン サービスによって発行されたトークンを消費し、トークンからクレームを抽出して ID 関連タスクに使用します。

TotalAgility では、応答署名検証証明書を提供して、渡されたクレームが正しいプロバイダからのものであることを確認します。1 つ以上の証明書の確認に合格した場合、応答は有効と見なされます。ユーザー クレーム ルールを定義して、プロバイダにより正常に認証された後、どのユーザー グループが TotalAgility のワーカー グループ、カテゴリ、および作業カテゴリにマップされるかを指定することもできます。

注 認証プロバイダへのログオン後にユーザーが自動的に TotalAgility に追加されると、それ以降のログオンで設定は更新されません。

マッピングのセットを定義して、ユーザーが認証プロバイダにより正常に認証された後にログオンが実行された場合に、TotalAgility の既存のユーザーをどのように検索するかを決定できます。

システム

このカードには、次のシステム設定が含まれます。

- 全般
- フォーム
- 電子メール サーバー (SMTP)
- スレッド プール
- ホワイトリスト
- システム タスク

全般

このセクションでは、一般設定、Transformation Server や一般サーバーの設定、およびシステム関連の設定について説明します。

全般

ビジネス カレンダーを使用

スケジュール済みのジョブごとに個別に選択したビジネス カレンダーに基づいて、すべてのジョブの期間と期限を計算できます。

電子メール アドレスの重複を許可する

複数のリソースで同じ電子メール アドレスを使用できます。

この設定がオフの場合、一意の電子メール ID を持たないリソースを作成または編集 (個人、グループ、外部リソース)、またはインポートすることはできません。

複数言語プロセスを有効にする

ブラウザが別の言語に設定されている場合、適切なロケールでフォームを開くことができます。

ジョブ アクセスの制限

リソースによるジョブ プロパティへのアクセスや、関連する通過ポイント、変数、状態、ロール、履歴、マップの詳細の表示を制限します。

この設定を選択すると、ジョブ検索結果にジョブが表示されなくなります。ただし、ユーザーは引き続きジョブを作成して再開し、作業タイプを表示し、アクティビティを実行して完了できます。

セキュリティ キー

クライアント マシンに保存された変数値が表示時に暗号化されるように、クライアントとサーバー間の機密データを保護するデフォルト キーを表示します。必要に応じて、新しいセキュリティ キーを生成できます。

ハートビートの非アクティブ間隔

Core Worker、変換、またはエクスポート サービスが非アクティブのままである場合に、マシン名テーブルの対応するエントリのステータスが「非アクティブ」として更新される間隔。(デフォルト: 60 分、範囲: 最小 = 1 分、最大 = 1 日)

注

- 「ハートビートの非アクティブ間隔」は、Core Worker、Export Worker、および Transformation サービスの「アクティビティ リセットのタイムアウト間隔」よりも大きくする必要があります。
- このオプションは、オンプレミス マルチ テナンスーおよび Azure 環境では使用できません。

返されるアクティビティの最大数

一度に取得するアクティビティ行の最大数。(デフォルト: 50)

注

- アクティビティ行は 200 行以内にする必要があります。実行時には、1000 個のアクティビティが存在する場合でも、作業キュー内の 200 行のみを取得できます。
- 以前のバージョンからの Kofax TotalAgility のアップグレード時:
 - アクティビティの最大数が 200 を超える場合、最大値は 200 に設定されます。たとえば、アクティビティの最大数が 237 の場合、最大値は 200 に設定されます。
 - アクティビティの最大数が 200 未満の場合、最大値は既存の値に設定されます。たとえば、アクティビティの最大数が 50 の場合、値は 50 (既存の値) に設定されます。

返されるジョブの最大数

一度に取得するジョブ行の最大数。(デフォルト: 200)

注

- ジョブ行は 500 行以内にする必要があります。実行時に、600 個のジョブが存在する場合でも、作業キュー内の 500 行のみを取得できます。
- アップグレード時に、ジョブの最大数は 200 に設定されます。

注 取得制限をグローバルに (システム設定を使用して) 設定し、ローカルに (getjobs、getactivities、getworkqueues などの API を使用して) 設定すると、システムは 2 つの設定のより小さい取得制限値を設定します。

デフォルトでは、一度に取得するアクティビティ行とジョブの最大数は、それぞれ 50 個および 200 個です。32,767 個の最大値までアクティビティと行の数を増やすには、次の手順を実行します。

- UpdateIgnoreWQJobListMaxRows.sql. を実行して SQL を実行すると、IgnoreWQJobListMaxRows 設定の値が自動的に true に設定されます。この設定は、server_data テーブルの server_setting.xml で利用できます。
- これで、返すアクティビティとジョブの数を増やすことができました(最大は 32767 個です)。

注 SQL スクリプトは、ユーザーからの要求に応じてテクニカル サポートから提供されます。

Transformation Server

例外発生時にドキュメントを拒否する

この設定を選択した場合、システムは例外発生時にドキュメントまたはページを拒否します。オフの場合、システムは例外時にアクティビティを一時停止します。

カスタム並べ替えの有効化

作業キュー、システム、およびジョブ リスト クエリの列の並べ替えを有効にします。

Core Worker

自動アクティビティ リセット制限

自動アクティビティをリセットする最大試行回数を定義します。(デフォルト: 5)

注 Azure 環境の場合、デフォルトの自動アクティビティ リセット制限は 1 です。

同期のループを制限する

プロセスを同期化して、自動アクティビティのみを持ち、手動アクティビティを持たないようにします。この設定を選択すると、最大ループ カウントを設定できません。

同期ジョブまたはビジネス ルールでの連続的なループは、TotalAgility サーバーで高負荷なワークロードを引き起こす可能性があります。「最大ループ カウント」を使用すると、同期ジョブまたはビジネス ルールでアクティビティを実行して連続ループを防止するための回数を定義できます。ループ カウントが定義された制限に達すると、同期ジョブは実行時に一時停止されます。

ワーカー タスクの再試行回数

ワーカー タスクの再試行の最大回数を設定できます。再試行の最大回数に達すると、ワーカー タスクはエラー状態になります。(デフォルト: 5、最大: 100)

TotalAgility Workspace から失敗したワーカー タスクを表示し、ワーカー タスクをアクティブ化または削除することもできます。

キャプチャ データ クリーンアップ ワーカー

操作の制限時間

大きなバイナリ データを削除する際のキャプチャ データ クリーンアップ ワーカー タスクの稼働時間の制限。(デフォルト: 2 時間)

チャンク サイズ

削除するバイナリの数を設定できます。(デフォルト: 500 バイナリ)

カスタム並べ替えの有効化

作業キュー、システム、およびジョブ リスト クエリの列の並べ替えを有効にします。

ブラウザ タブ アイコン

TotalAgility Designer および Workspace のブラウザ タブに表示されるブラウザ タブ アイコンをアップロードできます。また、これはオンプレミス マルチテナンシーおよび Azure 環境にも適用されます。このアイコンは、環境を視覚的に区別する場合に役立ちます。ブラウザ タブのアイコンはカスタマイズできます。

注

- イメージの推奨サイズは 32 x 32 ピクセルです。使用可能なイメージの最大ファイル サイズは 28.4 MB です。
- GIF、PNG、または ICO 形式のイメージのみがサポートされます。
- カスタム アイコンを指定しない場合は、デフォルトの Kofax TotalAgility アイコンが使用されます。
- アイコンが自動的に表示されない場合、変更を有効にするには、ブラウザのキャッシュをクリアしてからブラウザを再度開く必要がある場合があります。

フォーム

デフォルトでは、一部のフォーム設定にはデフォルト値が設定されています。これらの設定の値は、構成に応じて変更できます。

フォーム レイアウトの設定

[フォーム幅モード]

[固定] または [パーセント] (デフォルト) でのフォームの幅モード。新しいフォームまたはフォーム テンプレートを作成するか、フォームを自動的に生成すると、フォームの幅モードはデフォルトでこのシステム設定になります。

Kofax TotalAgility Workspace のカスタム フォームも、この設定に従ってパーセントまたは固定幅モードで表示されます。この設定をパーセントから固定、または固定からパーセントに変更した場合、展開されたフォームを削除し、IIS を再起動して、Workspace のカスタム フォームに変更を反映する必要があります。

[セルの整列]

[セルの整列] によって、セルをフォーム上に配置します。セルをフォーム上の [中央]/[左]/[右]、または [なし] に配置することができます。(デフォルト: なし)

[ラベルの整列]

[ラベルの整列] によって、フォームのコントロールに関連付けられたラベルを配置します。ラベルを [上] または [左] に配置することができます。(デフォルト: 左)

注

- 新しい空白のフォームを作成した場合、フォームを作成した場合 (すべてのフォーム タイプ)、またはフォームを再生成した場合、システム設定で設定したセルの配置およびラベルの整列の設定に従って、コントロールのセルとラベルが表示されます。
- アクティビティがあるプロセスについては、関連するフォームがない場合でも、実行時に生成されるフォームがシステム設定に従って表示されます。

キャッシング

デフォルトでは、ロード パフォーマンスを高速化するため、フォームはクライアント側のブラウザにキャッシュされます。最も頻繁にアクセスされるフォームのみがそれぞれのキャッシュに保存されます。フォームがリロードされると、キャッシュからフォームが取得され、コンテンツが更新されます。

[フォーム キャッシュの使用]

フォーム キャッシュはデスクトップ フォームにのみ適用されます。

[ドキュメント フォーム キャッシュの使用]

ドキュメント フォームのキャッシュは、ドキュメント フォームにのみ適用されます。タイプを持つドキュメントに移動する場合、またはセッション中にすでにアクセスしたドキュメント タイプに変更する場合のパフォーマンスを改善します。

[フォルダ フォーム キャッシュの使用]

フォルダ フォームのキャッシングは、フォルダ フォームにのみ適用されます。タイプを持つフォルダに移動する場合、またはセッション中にすでにアクセスしたフォルダ タイプに変更する場合のパフォーマンスを改善します。

[フォーム キャッシュ サイズ]/[ドキュメント フォームのキャッシュ サイズ]/[フォルダ フォームのキャッシュ サイズ]

キャッシュ サイズは、クライアント側のブラウザでキャッシュされる各フォーム タイプの最大数を指定します。キャッシュ サイズが大きくなると、クライアント マシンで使用されるメモリが増加します。フォームの数が最大数を超過すると、最も要求の少ないフォームがキャッシュから削除され、最新のフォームが追加されます。

[ドキュメントのプリロードを有効化]

選択した場合、TotalAgility はバックグラウンドでドキュメントをプリロードします。これにより、ユーザー インターフェイスの応答性が向上しますが、サーバーの負荷が大きくなる場合があります。

デフォルトでは、TotalAgility はバックグラウンドでドキュメントをプリロードしません。これにより、サーバーの負荷が軽減されますが、ユーザー インターフェイスの応答が遅くなる場合があります。

イメージとカスタム イメージ

[ベース イメージ URL]

システムがイメージを取得する、デフォルト以外の場所。

デフォルトでは、イメージは次の TotalAgility のイメージ フォルダにあります。

注 フォームにイメージ コントロールを追加すると、システムはシステム設定で設定されたベース イメージ URL からイメージを選択します。

[イメージの更新時間]

データベースからダウンロードしたイメージを更新する間隔。(デフォルト: 120 分)

イメージとカスタム ページは TotalAgility 内のアセットとして保存され、フォームで使用できます。初めてカスタム イメージまたはページを使用するフォームをロードすると、その項目がデータベースからダウンロードされます。その後のアクセスした際にデータベースのイメージまたはページを使用するフォームが要求されると、フォーム サーバーは、イメージまたはページがすでにダウンロードされているかどうかを確認し、最終更新日が現在の日時に期間を加えた日付より後であるかどうかを確認します。条件に当てはまる場合、最新のイメージまたはページがデータベースからダウンロードされ、イメージが更新されます。

更新されたイメージまたはページは、期間が経過するまでフォームに表示されます。

[カスタム ページの更新期間]

データベースからダウンロードしたページを更新する間隔。(デフォルト: 120 分)

フォームの動作のキャプチャ

[Tab キーでフィールドを確定/検証]

選択した場合、次の無効なフィールドへの自動ナビゲートがアクティブになっていない場合、Tab キーを使用して次のキャプチャ フィールドに移動し、確認できます。Tab キーを使用してキャプチャ フィールドを確認または検証すると、作業効率が向上します。(デフォルト: オフ、つまり、Enter キーを押してから Tab キーを押して確認し、次のフィールドに移動する必要があります)

次の無効なフィールドへの自動移動動作は、Tab キーの次のフィールドへの移動という通常の動作よりも優先されます。

[OCR なげなわ処理後のフィールドの自動検証]

選択した場合、フィールドになげなわ値が入力され、フィールドも確認されます。(デフォルト: オフ。これは、フィールドを確認するため、なげなわの後に Enter キーを押す必要があることを意味します)

[クリック時にキャプチャ フィールド テキスト全体を強調表示]

選択した場合、フィールドをクリックすると、フィールドのコンテンツ全体が自動的に選択されます。(デフォルト: クリア)

[マウス ホイールでイメージ ビューアをスクロール]

選択した場合、マウス ホイールを使用したキャプチャ アクティビティのイメージ ビューアでのスクロールが有効になります。

デフォルトのデザイン テーマ

フォームに適用するデフォルトのテーマ (タッチおよび非タッチ式のデスクトップ PC/モバイル)。

電子メール サーバー (SMTP)

システムの電子メール設定を構成して、プロセス内の電子メール アクティビティを実行時に機能させることができます。電子メールは、設定した詳細が適切な場合にのみ送信できます。

スレッド プール

スレッド プール (TP) は、そのプール内のスレッドによるアクティビティ (スリープを含む) を自動化します。プール内の各スレッドは、個別の自動アクティビティを制御します。スレッド プールは、同期マップに関連付けることもできます。

TotalAgility には、キャプチャおよび非キャプチャ自動アクティビティ用のデフォルトのスレッド プールが用意されています。

デフォルトのスレッド プールには 16 個のスレッドが含まれており、これは TotalAgility が一度に 16 個の自動アクティビティを実行できることを意味します。追加のアクティビティはスレッド プール キュー (TPQ) にキューイングされ、先着順で実行されます。名前を変更したり、デフォルトのスレッド プールを削除したりすることはできませんが、他の設定を変更したり、複数のスレッド プールを作成したりできます。

複数のスレッド プールには、次の利点があります。

- 長時間実行されるアクティビティを別のスレッド プールに配置できます。これにより、長時間実行されるアクティビティにより他の短時間実行されるアクティビティに遅延が発生することを防ぎます。たとえば、2つのスレッド プールがある場合、スレッド プール 1 の短時間実行アクティビティは、スレッド プール 2 の長時間実行アクティビティの完了を待機せずに実行されます。
- 同時呼び出しの数を制御することで、サイトのサイズを縮小して、潜在的なパフォーマンスの遅延を最小限に抑えられます。これは、同時呼び出し数に制限のあるライセンスを持つサードパーティのオブジェクト メソッドを自動アクティビティで使用する場合に役立ちます。たとえば、電子メール サーバーは一度に 10 件の同時通話しか処理できないといった場合に、これらの自動電子メール アクティビティの処理を効率的に処理するために、10 個のスレッドでスレッド プールを設定できます。

ホワイトリスト

TotalAgility が Web サービスの呼び出しを実行したり、TotalAgility に対して SQL クエリを実行したりするために使用可能な Web サービスの URL およびデータベース接続文字列をホワイトリストに登録できます。

これにより、管理者は指定外のホストまたはポートへの接続を防いでサーバーを保護できます。

システム タスク

システム タスクは、TotalAgility が実行するルーチン タスクです。新しいシステム タスクを作成したり、既存のシステム タスクを削除したりすることはできません。必要に応じて、タスクの非アクティブ化、システム タスクの実行間隔の変更、タイムアウト間隔の設定、システム タスクの稼働時間の定義を行うことができます。システム タスクを設定するには、適切な権限が必要です。

TotalAgility は、次のようなルーチン タスクを実行します。

【項目のアーカイブ/削除】	アーカイブ ジョブをライブ データベースからアーカイブ データベースに移動します。
【キャプチャ データ クリーンアップ】	定期的に PendingBinariesToDelete テーブルをスキャンし、バイナリのチャンクごとに新しい DeleteCaptureBinary ワーカー タスクを作成します(デフォルトの間隔およびデフォルトのタイムアウト間隔は 10 分です)。チャンク サイズは、バイナリの数によって決定されます。チャンク サイズはシステム設定で構成できます。「 Core Worker 」を参照してください。

[例外の作成]	<p>設定された例外マップ上にジョブを作成します。また、プロセスレベルでトリガーに設定されたジョブまたはアラート タスクを作成します。</p> <p>注 例外は、サーバーまたはプロセスレベルで構成できます。</p>
[ジョブの作成]	ビジネス イベントで構成されたジョブを作成します。
[デバイス管理のクリーンアップ]	期限切れのデバイスや古いスキャン履歴レコードなどのデバイス関連データをクリーンアップします。このタスクを実行してスキャン履歴をクリーンアップする間隔は、デフォルトで 1 時間ごとにスケジュールされています。
[ジョブの評価]	Core Worker サービスにより、ジョブの作成とアクティビティの完了時にジョブを評価します。
[MS Exchange イベントの処理]	構成された Exchange Server を定期的にポーリングして、TotalAgility によって処理された未処理のイベントを取得します。これにより、各サーバーの Exchange 状態プロパティが維持されるため、各サーバーは最後にチェックした時点以降の新しいイベントのみを取得します。
[取り込む]	さまざまなソース (電子メール、ファックス、FoIP、ファイル) からドキュメントを取り込み、指定されたビジネス プロセスを作成します。
[ジョブのスケジューリング]	スケジューラにより、構成されたマップ上にジョブを作成します。
[KM FilesFetch]	構成済みの FTP サーバーに送信されたジョブを Konica Minolta デバイスから取得します。
[ライセンスしきい値のモニタリング]	ライセンスのしきい値の例外を確認し、アラートを生成する頻度を決定します (デフォルト: 1 分)。しきい値に達し、指定した時間が経過すると例外が発生します。
[モニタリング]	設定した時間間隔でデータベースを監視し、たとえば、例外の発生あるいはトリガーの起動といった、複数のチェックを実行します。
[OAuth サーバー トークンの更新]	<p>1 分ごとに各 OAuth サーバーの更新トークンの有効性を確認し、有効期限が切れる前にトークンを更新します。</p> <p>OAuth サーバーの構成時に [トークンの有効期間を更新] フィールドを使用して、更新トークン有効性を構成できます。このフィールド値をゼロに設定した場合、更新トークンは常に有効なままになります。</p> <p>注</p> <ul style="list-style-type: none"> このタスクは、OAuth サーバーでサポートされている場合にのみ更新トークンを更新します。 OAuth サーバーに更新トークンが関連付けられていない場合 (たとえば、OAuth サーバーの詳細が保存され、認証が行われなかった場合など)、システム タスクでは更新トークンの更新がスキップされません。
[オンライン学習]	<p>検証中に、オンライン学習用にマークされたドキュメントで自動オンライン学習を実行します。</p> <p>オンライン学習システム タスクのベスト プラクティスについては、Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイドの「オンライン学習システム タスク」を参照してください。</p>
[自動アクティビティを実行]	設定した時間に自動アクティビティを実行します。

[プロセス アクティビティ]	選択したアルゴリズムに基づいて自動作業割り当てを実行します。
[キャプチャ タイムアウトを処理する]	TotalAgility Workspace 内の期限切れとなったドキュメント キャプチャ セッションのデータをクリーンアップします。
[プロセス セッションのタイムアウト]	セッションのタイムアウト時にユーザーを強制的にログオフさせます。
[状態アクションを処理する]	状態に構成されたアクション (Restart\Create New Job) を実行します。
[レポート]	レポート データを実行 (抽出/変換/ロード) し、ステージングからウェアハウスにデータを変換します。
[保持ポリシー]	保持期間とバージョンの数が定義済みの制限を超過した項目を削除対象としてマークし、それらの項目を削除します。このタスクは、デフォルトで7日に1回実行されます。最小間隔は1時間に設定できます。システム タスクが削除しようとする項目が削除されない場合、その項目は保持ポリシー エラー テーブルに記録されます。障害は、システム タスクが次に実行される際に自動的に消去されます。
[Transformation Server の実行]	次の自動キャプチャ アクティビティを実行します。抽出、分類、PDF 生成、イメージ処理および合成。
[ジョブのアップグレード]	要求されたプロセス バージョンのジョブのアップグレードを実行します。
[Xerox FtpFetch]	構成済みの FTP サーバーに送信されたジョブを Xerox デバイスから取得します。

ユーザーの動作

このカードには、次のシステム設定が含まれます。

- スキャン フォーム
- アクティビティ フォーム
- キャプチャ構成可能キー
- キャプチャ操作

スキャン フォーム

システムは、一部のスキャン フォーム設定にデフォルト値を入力します。これらの設定の値は、構成に応じて変更できます。

ファイルのアップロード

TotalAgility Designer でファイルのアップロード設定を無効にして、Web 構成ファイル (Web.config) を手動で変更する必要性をなくします。

バイナリの最大チャンク サイズ

イメージまたはインポートされたファイルの単一ページをスキャン フォームからサーバーに送信する際の最大サイズを指定します。

ページがチャンク サイズより小さい場合、完全なページが送信されます。そうでない場合、ページはチャンクに分割されます。(デフォルト: 10240 キロバイト)

注 インポートするファイルのサイズが大きすぎる場合、処理中にエラーが発生する可能性があります。HTTP 応答の最大サイズ制限は 2GB で、これは SQL Server に格納されるファイルのサイズ制限でもあります。ただし、ファイルの処理はシステムの負荷とメモリ使用量に依存するため、WCF によるメモリの管理方法によっては、2GB 未満のサイズでもエラーが発生する可能性があります。

Amazon S3 ストレージとの間でキャプチャ データを保存およびダウンロードする場合は、次のことに注意してください。

- 大きなファイルをチャンクで保存する場合の最小チャンク サイズは 5MB です。Designer でより小さい値を指定するとポップアップ エラーが表示され、値が 5MB に設定されます。
- TotalAgility 7.8.0 へのアップグレード時に、チャンクサイズが 5MB 未満の場合、データベースの値は 5MB に設定されます。

Windows Azure Blob ストレージとの間でキャプチャ データを保存およびダウンロードする場合は、次のことに注意してください。

- 大きなファイルをチャンクで保存する場合の最大チャンク サイズは 100MB です。Designer でより大きい値を指定すると、ポップアップ エラーが表示され、値が 100MB に設定されます。
- TotalAgility 7.8.0 へのアップグレード時に、チャンク サイズが 10MB を超える場合、データベースの値は 100MB に設定されます。

アップロード リクエストの最大数

同時アップロード要求の数を設定します。

チャンク化されたイメージのアップロードは、同数の同時アップロード要求を使用したイメージ全体のアップロードよりも低速になります。アップロード要求の数を増やすと、パフォーマンスが向上します。(デフォルト: 2、最小: 1、最大: 2147483647)

注 テナントごとに、バイナリの最大チャンク サイズおよびアップロード要求の最大数の設定を構成できます。

スキャン プロファイル名からの Kofax VRS Elite プロファイルの設定

デフォルトでは、Scan Client で割り当てられた TotalAgility スキャン/VRS プロファイルに基づいて VRS Elite プロファイルが設定されるため、適切な VRS Elite プロファイルの選択をスキャン オペレータに

委ねる必要がなくなります。この設定は、「スキャン新規ジョブ作成」および「スキャン アクティビティ」フォームにのみ適用され、「Web Capture」フォームには適用されません。

注

- サーバー上に任意の名前で TotalAgility スキャン/VRS プロファイルを作成し、クライアントマシン上に同じ名前で Kofax VRS Elite プロファイルを作成して、作成したスキャン/VRS プロファイルを使用するように Scan Client を構成すると、特定の VRS Elite スキャナのプロファイルが自動的にロードされます。つまり、オペレータが VRS Elite スキャン ソースで Scan Client のスキャンの使用を開始し、名前が一致する VRS/VRS プロファイルを選択すると、Kofax VRS Elite はスキャン中に対応する VRS Elite プロファイルを使用します。プロファイル間の接続は名前のみです。Kofax Scan/VRS プロファイルの設定は、VRS Elite プロファイルには適用されません。
- TotalAgility 7.4.0.1 の以前のバージョンからアップグレードする場合、この設定はデフォルトでは選択されていません。
- 対応する VRS プロファイルが存在しないか、このプロファイルを選択するとエラーが発生する場合、Scan Client はこれを無視し、VRS Elite プロファイルを設定せずにスキャンを続行します。VRS Elite プロファイルがすでに選択されている場合、対応する VRS Elite プロファイルを持たない別のスキャン/VRS プロファイルを選択した場合でも、このプロファイルが選択されたままになります。

スキャン/VRS プロファイル

スキャン プロファイル名からの Kofax VRS Elite プロファイルの設定

デフォルトでは、Scan Client で割り当てられた TotalAgility スキャン/VRS プロファイルに基づいて VRS Elite プロファイルが設定されるため、適切な VRS Elite プロファイルの選択をスキャン オペレータに委ねる必要がなくなります。

この設定は、スキャン新規ジョブ作成およびアクティビティ フォームのスキャンにのみ適用され、Web Capture フォームには適用されません。

アクティビティ フォーム

システムで生成される一般的なアクティビティ フォームについては、実行時にアクティビティを取得する場合に、「保存」ボタンや「完了して次に進む」ボタンを表示できます。キャプチャ アクティビティの終了時の動作の指定や、ページに関連付けられた OCR データとフィールド データを失うことなくページを回転させることもできます。

アクティビティ フォーム

[保存を許可]

選択した場合、アクティビティを取得する際に、「保存」ボタンが表示されます。[保存] ボタンを使用すると、実行時にアクティビティの変更を作業キューに保存できます。

[完了して次を許可]

選択した場合、実行時にアクティビティを取得する際に、「完了して次に進む」ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、現在のアクティビティを完了して、作業キューから次のアクティビティを取得できます。

注 「保存を許可」および「完了して次を許可」というオプションは、システムで生成される一般的なアクティビティの実行フォームでのみ使用できます。

有効にした場合のキャプチャ アクティビティ終了時の動作

[アクティビティ設定の表示]

ドキュメント レビュー、検証、および確認フォームに [アクティビティ設定] ダイアログ ボックスのボタンを表示します。

[アクティビティの最後]

キャプチャ アクティビティの終了時に設定できる動作は次のとおりです。

- アクティビティの完了後、アクティビティを開いたままにする。
- アクティビティを自動的に完了する前に通知を受け取る。(デフォルト)
- 通知を受け取らずにアクティビティを自動的に完了する。

イメージの回転

[回転時に OCR データを保持]

選択すると、ページに関連付けられた OCR データとフィールド データを失うことなくページを回転できます。

キャプチャ構成可能キー

キャプチャ クライアント コントロール内のコマンドに関連付けられたホットキーをカスタマイズして、顧客の好みに合ったシングル キー シーケンスとダブル キー シーケンスの両方を使用できます。

コマンドを削除したり、コマンドの名前を変更したりすることはできません。ただし、コマンドのホットキーをカスタマイズして、柔軟性を高めることができます。

TotalAgility には、次のようなデフォルトのホット キーが各コマンドに用意されています。

コマンド	ホットキー	コマンド	ホットキー
アクティビティの設定	Ctrl を押してから Shift + S	次のページ	Ctrl を押してから B
最適	CTRL を押してから 1	次の問題	Ctrl を押してから Q
アクティビティのキャンセル	Ctrl を押してから X	拒否された次のドキュメント/ページ	Ctrl を押してから Alt + P
ドキュメント タイプの変更	Ctrl を押してから T	次のタブ	Ctrl を押してから Ctrl + K
下部パネルの折り畳み/展開	Ctrl を押してから上矢印	オンライン学習	Ctrl を押してから Shift + L
現在のエラー パネルの折り畳み/展開	Ctrl を押してから下矢印	問題の無効化	Ctrl を押してから W

コマンド	ホットキー	コマンド	ホットキー
左パネルの折り畳み/展開	Ctrl を押してから左矢印	前のドキュメント	Ctrl を押してから Shift + P
右パネルの折り畳み/展開	Ctrl を押してから右矢印	前のフォルダ	Ctrl を押してから Shift + K
アクティビティの完了	Ctrl を押してから C	前のページ	Ctrl を押してから Shift + B
完了して次のアクティビティを取得	Ctrl を押してから Y	前の問題	Ctrl を押してから Shift + Q
ドキュメント タイプの確認	Ctrl を押してから Shift + T	拒否された前のドキュメント/ページ	Ctrl を押してから Alt + Shift + P
ジョブの作成	Ctrl を押してから Shift + C	前のタブ	Ctrl を押してから Ctrl + J
スティッキー メモの表示	Ctrl を押してから E	ドキュメントのリジェクト	Ctrl を押してから R
最初のドキュメント	Ctrl を押してから F	ページの拒否	Ctrl を押してから Shift + R
最初のフォルダ	Ctrl を押してから J	ページの置換	Ctrl を押してから U
最初のページ	Ctrl を押してから A	問題の復元	Ctrl を押してから Shift + W
ページを高さに合わせて	CTRL を押してから 3	ビューを元に戻す	Ctrl を押してから Shift + 下矢印
ページを幅に合わせて	CTRL を押してから 2	表示されたイメージを 180 度回転	Ctrl を押してから M
強制的に有効化	Ctrl を押してから V	表示されたイメージを左に回転	Ctrl を押してから G
ソース ファイルの取得 注 このコマンドは、アップグレードされたフォームでは無効です。	Ctrl を押してから Shift + O	表示されたイメージを右に回転	Ctrl を押してから Shift + G
ドキュメント タイプに移動	CTRL を押してから 7	ビューを 180 度回転	Ctrl を押してから Shift + 上矢印
フィールド パネルに移動	CTRL を押してから 6	ビューを左に回転	Ctrl を押してから Shift + 左矢印
イメージに移動	CTRL を押してから 8	ビューを右に回転	Ctrl を押してから Shift + 右矢印
ナビゲータに移動	CTRL を押してから 9	すべてのシートをスキャン/ファイルのインポート	Ctrl を押してから O
サムネイルに移動	CTRL を押してから 0	1 枚のシートをスキャン	Ctrl を押してから S
ヘルプ	Ctrl を押してから H	フィールドを未検証に設定	Ctrl を押してから Shift + V
ページの挿入	Ctrl を押してから I	ページ ソース イメージの表示	Ctrl を押してから Alt + 0
なぜなわズーム	Ctrl を押してから L	レンディション イメージ 1 の表示	Ctrl を押してから Alt + 1

コマンド	ホットキー	コマンド	ホットキー
なげなわズーム ロック モード	Ctrl を押してから Alt + L	レンディション イメージ 2 の表示	Ctrl を押してから Alt + 2
最後のドキュメント	Ctrl を押してから Shift + F	レンディション イメージ 3 の表示	Ctrl を押してから Alt + 3
最後のフォルダ	Ctrl を押してから Shift + J	レンディション イメージ 4 の表示	Ctrl を押してから Alt + 4
最後のページ	Ctrl を押してから Shift + A	レンディション イメージ 5 の表示	Ctrl を押してから Alt + 5
ドキュメントのマージ	Ctrl を押してから Shift + M	ドキュメントの分割	Ctrl を押してから D
次のドキュメント	Ctrl を押してから P	スキャン設定の表示または変更	Ctrl を押してから Shift + E
次のフォルダ	Ctrl を押してから K	拡大	Ctrl を押してから +
次の無効なフィールド	Ctrl を押してから N	縮小	Ctrl を押してから -
次の未検証フィールド	Ctrl を押してから Shift + N		

ホットキーは、次のすべてのフォーム タイプのアクションに適用されます。スキャン、検証、確認、ドキュメント レビュー。

TotalAgility は、次のシングル キーとダブル キーをサポートします。

- シングル キー: CTRL/ALT/SHIFT (の組み合わせ) + キー。たとえば、Ctrl + Alt + S など。
- ダブル キー: CTRL を押してから CTRL/SHIFT/ALT (の組み合わせ) + キー。たとえば、Ctrl を押してから Ctrl + Shift + S など。

注 TotalAgility は、コピーのデフォルトのコマンドである CTRL + C などのブラウザ定義のホットキーはサポートしていません。

キャプチャ操作

リソースおよびグループにアクセス許可を割り当てて、キャプチャ複合コントロール内の各キャプチャアクションへのアクセスを許可または制限できます。

次の表に、各キャプチャ アクションの目的を示します。

アクション	用途
【ドキュメント】	
【ドキュメントの拒否】	フィールドが無効な場合、ドキュメントを拒否します。たとえば、イメージが汚れて判読できない場合、またはイメージの値が無効な場合などが考えられます。
【ドキュメントの削除】	エラー状態でスキャンされたドキュメント、不要になったドキュメント、または重複したドキュメントを削除します。

アクション	用途
【ドキュメント タイプの変更】	ドキュメントのタイプを変更します。 注 フィールドグループとアクティビティバリエーションのマスキングはドキュメントタイプに基づいているため、変更すると一部のフィールドに基づくマスキングが失われます。ドキュメントタイプを変更するとフィールドデータおよび関連する単語が失われるため、ドキュメントタイプを元に戻した場合でもマスキングは復元されません。また、マスキングを指定するフィールドが非表示になるため、フィールドを単語にリンクすることはできなくなります。ページは動的に更新されず、現在または次のアクティビティでイメージが次回取得された際にマスクが削除されるため、イメージのマスキングはすぐには消去されません。
【ドキュメントの分割】	ページの変数を既存のドキュメントから新しいドキュメントに移動します。両面モードを使用してドキュメントをスキャンする場合、TotalAgility は、用紙の前面と裏面のイメージを1枚にまとめようとします。 ドキュメントを分割する権限が必要となり、権限がない場合、ドキュメントの前面ページまたは裏面ページは分割されません。
【裏ページで分割】	両面ページの裏面ページを分割し、新しいドキュメントに配置します。分割すると、両面ページの前面ページと裏面ページが通常の片面ページとして表示されます。 裏面ページでドキュメントを分割する権限が必要となり、権限がない場合、裏面ページは分割されません。
【ドキュメントのマージ】	2つ以上の異なるドキュメントをマージします。 注 TotalAgility をアップグレードすると、「他のすべてのバッチ編集操作」権限が選択されている場合にのみ、「ドキュメントのマージ」権限が有効になります。
【ページ】	
【ページの拒否】	ドキュメントのページを拒否します。
【ページの削除】	エラー状態でスキャンされたページ、不要になったページ、または重複したページを削除します。
【ページの回転】	ドキュメントのページを永続的に回転させます。
【フォルダ】	
【フォルダの追加】	フォルダを追加します。
【フォルダの削除】	不要になったフォルダ、または重複しているフォルダを削除します。
【その他】	
【注釈】	ドキュメントの注釈を管理します。
【オンライン学習】	オンライン学習用のドキュメントを選択します。 注 オンライン学習は、ドキュメントのページ上のコンテンツをより適切に検索および抽出するためのメカニズムです。動的に学習したコンテンツは、最終的にレビューされ、公開(静的)ナレッジベースに公開されるまで、動的ナレッジベースに追加されます。オンライン学習オプションは、検証アクティビティにのみ適用されます。
【問題の無効化】	修正できない場合、または修正に時間がかかる場合に、フィールドを上書きします。
【他のすべてのバッチ編集操作】	ページ、ドキュメント、およびフォルダの移動などの一般的な機能を実行します。

アクション	用途
[Web capture マスクとリダクション]	リソースまたはリソース グループのメンバーに、Web Capture コントロールでマスクする機能を提供します。 注 管理者グループには、デフォルトでイメージのマスク権限があります。
[SDK のみ]	
[ドキュメントとページの作成]	CaptureDocumentService SDK を使用してドキュメントとページを作成およびコピーします。
[ドキュメントの変更/読み取り]	CaptureDocumentService SDK を使用して、ドキュメント、ページを変更および追加し、フォルダまたはドキュメントのフィールドを更新します。また、SDK ユーザーは、ドキュメント、ドキュメント フィールド、イメージの取得などのキャプチャ データを読み取ることができます。
[フィールドの確認]	検証を実行し、CaptureDocumentService SDK を使用してドキュメントまたはフォルダフィールドのステータスを変更します。
[イメージのマスクとリダクション]	次の CaptureDocumentService SDK を使用してイメージをマスクします。 使用可能なマスク関連の CaptureDocumentService SDK メソッドは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • AddPageMaskForField: 指定したフィールドに関連付けられた単語に対し、ページにマスクを追加します。 • AddPageMaskForRegion: 指定した長方形の領域に対し、ページにマスクを追加します。あいまいな単語はページからすべて削除されます。 • GetAllMaskedWords: ページ内でマスクされているすべての単語を返します。 • GetAllPageMasks: ページに関連付けられている明示的なすべてのマスクを返します。 • RemoveAllMasks: 指定したページのマスクをすべて削除します。 • RemovePageMasks: 指定された矩形領域と交わるマスクを削除します。

ライセンス サーバーと統計

TotalAgility オンプレミスでは、システムに関連付けられたライセンス サーバーの表示やバックアップとしての追加のライセンス サーバーを構成できます。ライセンスの有効期限が近づいている場合は、プライマリ サーバーとバックアップ サーバーでライセンスを再アクティブ化することもできます。

注 オンプレミスのマルチテナント環境または Azure 環境の Designer の場合、ライセンスをアクティブ化または再アクティブ化するオプションは利用できず、ライセンスは自動的に再アクティブ化されません。

TotalAgility は、プライマリ ライセンス サーバーとバックアップ ライセンス サーバーの詳細を表示します (インストールされている場合)。ボリュームが不足する前に対応を図ることができるように、プライマリ サーバーのしきい値を設定できます。プライマリ サーバー ライセンスが接続に失敗した場合、システムは自動的にバックアップ サーバー ライセンスを使用します。バックアップ サーバーにしきい値を設定することはできません。

キャプチャ

このカードには、次のシステム設定が含まれます。

- ページ レンディション

- [キャプチャ グループの構成](#)
- [\[デバイス\]](#)
- [Web capture サービス](#)

ページ レンディション

ページ レンディションを使用して、TotalAgility 内のイメージの複数のバージョンを保存します。

元のイメージをそのまま保持することや、変換するイメージの 2 値化バージョンを作成してパフォーマンスを向上させることができます。たとえば、医療クレームでは、イメージのオーバーレイバージョンと元のイメージを同時にユーザーに提示することができます。

複数のイメージを単一のページに関連付けて、これらのイメージをすばやく切り替えられるようにすることができます。

[レンディション イメージの数]


レンディション スロットの数。(デフォルト: 0、最大: 5)

このフィールドで指定する番号に関係なく、テーブルには既存のページ ソース イメージ スロットに加えて、デフォルト名 (PageRendition_1、PageRendition_2 など) の多くのレンディション スロットが作成されます。

たとえば、レンディション イメージの数が 2 つの場合、各ページには最大 3 つのバージョンのイメージが含まれます。「ページ ソース イメージ」、「PageRendition_1」、および「PageRendition_2」。

注 レンディション イメージの数を減らすと、最後のレンディションが自動的に削除されます。

デフォルトのページ レンディション名を編集できます。

1. レンディションをダブルクリックするか、テーブルからレンディションを選択して、 をクリックします。

[名前] フィールドには、デフォルトのレンディション名が表示されます。

2. レンディションに別の名前を入力し、**[OK]** をクリックします。
この名前は、実行時にツールバー アイコンのヒントとデフォルトのイメージ オプションに反映されます。
3. 必要に応じて他のレンディションの名前を変更します。

[デフォルトの表示イメージ]

Capture のユーザー インターフェイスで表示するデフォルトのイメージ スロット。

注 デフォルトの表示イメージ スロットは、定義済みのページ レンディションのいずれか、またはページ ソース イメージ スロットです。選択したデフォルト イメージが利用できない場合は、ページ ソース イメージが使用されます。

グループのキャプチャ

TotalAgility は、ドキュメント データをメモリで保存および処理することにより、応答時間を短縮して、パフォーマンスを向上させる同期分類および抽出機能を提供します。ユーザーは、分類および抽出後にこのデータをドキュメント リポジトリに保持することもできます。

TotalAgility は、リアルタイム変換をサポートし、次のようにパフォーマンスを最適化します。

- 保留中のキャプチャ アクティビティをポーリングせず、同期処理にのみ使用される Transformation Server での構成モードのサポート。
- Transformation Server による特定の変換プロジェクトのプリロードの許可。
- フォルダおよびドキュメント構造の検証ルールのバイパス。

リアルタイム変換を使用するには、TotalAgility のインストール中にリアルタイム Transformation サービス モードを選択する必要があります。

TotalAgility Designer で、特定の変換プロジェクトをプリロードします。

リアルタイム Transformation サービスは、次の 2 つの TotalAgility SDK API によってサポートされています。CreateJobSyncWithDocuments および CreateJobSyncWithDocument。これらの API の詳細については、SDK のドキュメントを参照してください。

デバイス

多機能周辺機器 (MFP) およびモバイル デバイス用の Kofax TotalAgility デバイス アプリケーション設定を管理できます。この設定には、デバイスの登録、アプリケーションのダウンロードおよび展開、デバイス プロファイル、その他の詳細設定が含まれます。

Web capture サービス

既存の WCS が古くなった場合や応答しない場合は、Web capture サービス (WCS) の URL を更新できます。また、WCS の下位互換を許可することもできます。

「[グループのキャプチャ](#)」を参照してください。

アクセス制御リスト

TotalAgility では、アクセス許可を管理して特権の付与やリソースのアクセスを TotalAgility Designer、Transformation Designer、TotalAgility のさまざまな領域に制限したり、アクションやデバイスをキャプチャしたりできます。

1 つ以上のリソースにアクセス許可を割り当てて、次へのアクセスを許可または制限できます。

- プロセス、ビジネス ルール、ペルソナなど、TotalAgility のさまざま領域。
- Designer
- Transformation Designer
- デバイス
- キャプチャ複合コントロール内の各キャプチャ アクション

注

- デフォルトでは、管理者グループには「設定」および「ジョブの全削除」に対するフル コントロールのアクセス権があり、デバイスユーザーグループには、「デバイス」へのフル コントロールのアクセス権があります。また、設計者グループには次の領域へのフル コントロールのアクセス権があります。Designer、プロセス、ビジネス ルール、作業タイプ、リソース、ペルソナ、キャプチャ設計、ロックステータス検索。
- ユーザーが属するグループのいずれかへの権限を拒否すると、ユーザーはその権限へのアクセスを拒否されます。これは、ユーザーが別のグループで権限を付与されている場合でも同様です。たとえば、自分がメンバーになっている 1 つのグループから完全なアクセス権を付与され、別のグループからは読み取り専用アクセス権を付与されている場合、書き込みではなく読み取りのみが可能です。

アプリ

このカードには、次のシステム設定が含まれます。

- [Quick Capture](#)
- [Quick Workflow ソリューション](#)

Quick Capture

Quick Capture は TotalAgility プロセス Designer と Transformation Designer の簡略版で、シチズン デベロッパーでも扱いやすく、技術者以外のユーザーがサンプル ドキュメントのアップロードとトレーニング、データの抽出、およびこれらの処理に使用するワークフローの設計といったキャプチャ ソリューションを作成できるように設計されています。

使用可能なキャプチャ ソリューションを Quick Capture 内で制御し、TotalAgility で使用可能なすべてのキャプチャ ソリューションをユーザーが使用できないように制限できます。

Quick Capture で使用可能なワークフロー ソリューションのリストは、システム設定で定義できます。

[システム] > [システム設定] > [アプリ] > **[Quick Capture]** に移動します。

[Quick Capture] ダイアログ ボックスが表示されます。


Quick Capture にワークフローを追加する

対応する Quick Capture ソリューション内で使用可能なプロセス、ビジネス ルール、およびカスタム サービスを追加できます。


1. **[Quick Capture]** ダイアログ ボックスで + をクリックして、**[Quick Capture]** で利用可能なワークフロー ソリューション] を表示します。
2. [ワークフロー] リストで、プロセス、ビジネス ルール、またはカスタム サービスを選択し、[追加] をクリックします。
3. 手順 3 に従って、必要に応じて項目を追加します。
4. [保存] をクリックします。

Quick Capture のワークフローを編集する

Quick Capture で使用可能なソリューションは編集することができます。つまり、別のプロセス、ビジネスルール、またはカスタム サービスを選択できます。

1. **[Quick Capture]** ダイアログ ボックスで、変更するキャプチャ ソリューションを選択し、ヘッダーバーの  をクリックします。
キャプチャ ソリューションのリストが表示されます。
2. 必要に応じて別のプロセス、ビジネスルール、またはカスタム サービスを選択し、**[OK]** をクリックします。
3. **[保存]** をクリックします。

Quick Capture からワークフローを削除する

[Quick Capture] ダイアログ ボックスで、削除するワークフローを選択し、ヘッダーバーの  をクリックします。

確認後に、ワークフローが削除されます。

Quick Workflow ソリューション

Quick Workflow は TotalAgility プロセス Designer の簡略版で、技術者以外のユーザーが単純なプロセスを作成できるように設計されています。

使用可能なワークフロー ソリューションを Quick Workflow 内で制御し、TotalAgility で使用可能なすべてのプロセスをユーザーが使用できないように制限できます。

Quick Workflow のワークフロー ソリューションのリストは、システム設定で定義できます。

[システム] > [システム設定] > [アプリ] > **[Quick Workflow ソリューション]** に移動します。

[Quick Workflow ソリューション] ダイアログ ボックスが表示されます。

Quick Workflow ソリューションのワークフローの管理方法については、次のリンクを参照してください。

- [Quick Workflow にワークフローを追加する](#)
- [Quick Workflow のワークフローを編集する](#)
- [Quick Workflow からワークフローを削除する](#)

Quick Workflow にワークフローを追加する

対応するワークフロー内で使用可能なプロセス、ビジネスルール、およびカスタム サービスを追加できます。

1. **[Quick Workflow ソリューション]** ダイアログ ボックスで + をクリックして、**[Quick Workflow で利用可能なワークフロー ソリューション]** を表示します。
2. **[ワークフロー]** リストで、プロセス、ビジネスルール、またはカスタム サービスを選択し、**[追加]** をクリックします。
3. 必要に応じて項目を追加します。
4. **[保存]** をクリックします。

Quick Workflow のワークフローを編集する

Quick Workflow で使用可能なワークフローは編集することができます。つまり、別のプロセス、ビジネスルール、またはカスタム サービスを選択できます。

1. **[Quick Workflow ソリューション]** ダイアログ ボックスで、変更するワークフローをダブルクリックするか、ワークフローを選択して、ヘッダー バーの ✎ をクリックします。
ワークフローのリストが表示されます。
2. 必要に応じて別のプロセス、ビジネスルール、またはカスタム サービスを選択し、**[OK]** をクリックします。
3. **[保存]** をクリックします。

Quick Workflow からワークフローを削除する

[Quick Workflow ソリューション] ダイアログ ボックスで、削除するワークフローを選択し、ヘッダーバーの ■ をクリックします。

確認後に、ワークフローが削除されます。

第 12 章

パッケージ

パッケージを使用すると、スマート プロセス アプリケーション (SPA) の項目を事前定義できます。

パッケージの典型的な用途は、業種別の Kofax TotalAgility ソリューションの実装です。パッケージには、プロセス、フォーム、DLL、リソース、データ、ビジネス モニタリング、およびシステムに関連する項目を含めることができます。また、パッケージ内に別のパッケージを入れたり、パッケージにその他のファイルを追加したりすることもできます。パッケージは保存するたびに、新しいバージョンが作成されます。そのため、ソリューション設計者がパッケージの変更を追跡することができます。パッケージを中身ごと別の TotalAgility 展開に移動すれば、ユーザーがほとんど介入することなく迅速に展開できます。パッケージに特定の項目を入れることができるのは 1 回のみです。同じ項目をいくつも入れることはできません。参照されている項目はすべて削除できます。

パッケージ全項目の最新版を一度にエクスポートして、別のシステムにインポートできます。パッケージ定義は保存されるため、同じ項目をもう一度エクスポートする場合も簡単に対応できます。

以下の表は、パッケージに入れることができる項目の一覧です。

プロセス	イメージ	グループ	ルックアップ
ケース	サイト	ベルソナ	正規表現
ケース フラグメント	カスタム ページ	作業割り当てルール	アラート
ビジネス ルール	フォルダ タイプ	ジョブ クエリ	イベント
カスタム サービス	フィールド フォーマッタ	作業キュー クエリ	ターゲット
カスタム サービス グループ	PDF プロファイル	システム クエリ	サーバー変数
抽出グループ	分割プロファイル	パッケージ	グローバル変数
分類グループ	スキャン/NRS プロファイル	その他のファイル	Web サービス
フォーム	ドキュメント変換プロファイル	システム DLL	デバイス設定
カテゴリ	インポート接続	ジョブ スケジュール	Transformation 設定
フォーム テンプレート	インポート ソース	チェックリスト テンプレート	エクスポート コネクタ設定
ナビゲーション	フィールドバリデータ	チェックリスト項目	インポート ソース
テーマ	キャプチャ コントロール レイアウト	データ モデル	

スタイル シート	個人 注 外部リソースを含めることはできません。	ドキュメント テンプレート	
----------	-----------------------------	---------------	--

パッケージは次の方法で管理できます。

- プロセス、フォーム、カテゴリに関連付けられたすべての項目または選択した項目を、自動的にパッケージに追加します。パッケージにすでに存在する項目は上書きされます。
- パッケージから除外する項目を選択します。パッケージを保存すると、パッケージ データが TotalAgility データベースに保存されます。
- 頻繁に使用される項目や特定のタイプの項目を選択したアーティファクトからパッケージにすばやく追加したり、特定の日付または時刻以降、または特定の期間に変更された項目を検索して、すべてまたは個々の項目をすばやく追加したりできます。
- パッケージをインポートして、あるバージョンから別のバージョンにアップグレードします。チェックリスト、ルックアップ、スキャン/MRS プロファイル、PDF プロファイル、カスタム ページ、ローカリゼーション文字列、ペルソナ、フォーマッタなど、バージョン管理されていない項目が既にターゲットシステムに存在する場合は、上書きされます。
- パッケージをシステム パッケージまたは他のパッケージと比較して、バージョン間で変更された項目を表示します。選択したパッケージで異なる項目や新しい項目は、強調表示されます。
- パッケージのコピーを作成します。
- 既存のパッケージを開き、変更し、削除します。
- パッケージの使用に役立つインストール ガイドなどのその他のファイルや、その他の項目を追加します。
- 1 つ以上のリソースにアクセス許可を割り当てて、パッケージへのアクセスを許可します。少なくとも読み取りアクセス許可があれば、パッケージにアクセスできます。
- 再利用のためにパッケージをエクスポートします。
- パッケージ全体または選択した項目を TotalAgility にインポートします。
- パッケージにさまざまな展開のための構成を作成し、テスト環境や本番環境など、対象とする展開のさまざまなタイプに応じて、ユーザーがグローバル変数、サーバー変数、Web サービス結合、デバイス設定 (Kofax Front Office Server 設定)、Transformation 設定、およびエクスポート コネクタ設定に異なる値を定義できるようにします。インポート中、ユーザーはパッケージのエクスポート時に選択された展開タイプに基づいて値を上書きできます。
- パッケージのすべてまたは特定の項目を保護して、他のユーザーが別のマシンにパッケージをインポートするときにそれらの項目を表示または変更できないようにします (保護できる項目は後述しま

す)。TotalAgility をアップグレードすると、システムは既存のパッケージ内のすべての項目を保護されていないものとして扱います。

パッケージ内のアーティファクトのうち保護できるものは、プロセス、フォーム、フォーム テンプレート、ビジネスルール、分類グループ、抽出グループ、フォルダのみです。

保護された項目に対しては、以下のことができません。

- 保護された項目をターゲット環境にインポートするときに、保護された項目に対するメンテナンス アクセスを付与すること。ただし、これはソース サーバー上の項目には影響しません。
- 保護された項目を開いたり変更したりすること。(パッケージ内に追加することも含め) 使用することは可能です。
- 保護された項目を個別に、またはパッケージの一部として別のマシンにエクスポートおよびインポートする場合に、その項目に対するメンテナンス アクセスを変更すること。
- 分類または抽出グループなどの保護された項目を Transformation Designer で表示すること。

注 ターゲット サーバーでパッケージ構成を表示する場合、項目がそのシステム内で保護されていても、保護された設定は保持されません。

第 13 章

他のシステムとの統合

TotalAgility では、Web サービスへアクセスしてサードパーティ ソフトウェア アプリケーションおよびリレーショナル データベースへ接続し、.NET アクティビティあるいはアクション内の外部アセンブリ コンポーネントを使用することができます。

Microsoft SharePoint や Microsoft Dynamics AX、Micro Focus Content Manager、CMIS などの外部アプリケーションおよびサービスと TotalAgility を統合するには、設定を定義します。

Web サービス レファレンス

Web サービス レファレンスを使用すると、各 Web サービスの実装方法によらず、サードパーティ ソフトウェア アプリケーションに接続できます。たとえば、クレジットカード番号を自動的に検証する Web サービスや、運送会社から発送済みの注文に関する配送情報を取得する Web サービスと、TotalAgility を結合できます。

Web サービス レファレンスの作成時にはカスタム ヘッダーを指定できます。このヘッダーは、対応する Web サービスまたは RESTful ノードの実行時に、サードパーティ Web サービスに渡されます。カスタム ヘッダーには、「Host: localhost」のように名前と値のペアを指定します (Host が名前、localhost が値)。カスタム ヘッダーは、SOAP、SOAP WCF、RESTful の各 Web サービスすべてでサポートされています。

また、Open API 定義を持つ RESTful サービスをプロセス/ルール/カスタム サービスに使用して、メソッド/パラメータを確認し、サービスを正常に実行することもできます。OpenAPI 仕様は、REST API 用の API 記述形式です。OpenAPI の定義は JSON または YAML の形式で記述できます。YAML の方が読み取りと書き込みが簡単のため、こちらをお勧めします。OpenAPI ファイルを使用すると、以下を含む API 全体を記述できます。

- 利用可能なエンドポイント (ユーザー)
- 各エンドポイントに関する操作 (GET/ユーザー、POST/ユーザー)
- 操作パラメータ (各操作の入力と出力)

TotalAgility のプロセス、フォーム、パッケージで使用するすべての Web サービス レファレンスで、既存の Web サービス プロキシとプロキシ ファイル名を再利用できます。Web サービス プロキシは、実行時に動的に作成されます。

Web 参照用のプロキシを作成できない場合にプロセス マップをインポートすると、レファレンスはインポートされますが次のメッセージが表示されます: 「Web サービスでプロキシ DLL を作成できませんでした。この問題を解決するには、クライアント プロキシを再生成してください。」

パッケージを使用してプロセスとフォームのいずれかまたは両方をインポートするときに、新しい Web サービス レファレンスの名前が既存の Web サービス レファレンスと同じである場合、メッセージが表示されます。

.NET アセンブリ

.NET アセンブリを使用すると、.NET アクティビティやアクション内で外部アセンブリ コンポーネントを使用できます。

TotalAgility では、TotalAgility SDK 下にすぐに使用できるアセンブリ パスが多数用意されています。他のアセンブリを参照したカスタム ビルド アセンブリを使用することも可能です。

RPA

RPA (ロボティック プロセス オートメーション) は、アプリケーション結合とプロセス自動化を実現するプラットフォームです。プロセスやフォーム内から RPA ロボットを実行するには、TotalAgility と RPA を結合します。

RPA では、接続を想定せずに構築されたアプリケーションも結合し、クラウド/SaaS アプリケーションと社内システムや従来のシステムと最新の Web アプリケーション、事務処理システムとパートナー Web サイトのように、異なるシステムが混在する環境でプロセスを自動化できます。

RPA 製品スイート内では、ロボットを定義できます。ロボットとは、データ ソース (Web サイトや Excel ドキュメント、データベースなど) を扱うタスクの実行ワークフローを自動化したものです。TotalAgility と RPA を結合すると、プロセスやフォーム内から RPA ロボットを実行できるようになります。

Insight

TotalAgility を Insight と結合すると、レポートやダッシュボード、ビジネス分析の定義と配信をオンデマンドで行えます。

TotalAgility Azure の場合は、テナントごとに Insight をインストールし、SSL を使用します。詳細については、Kofax Analytics for TotalAgility 管理者ガイドを参照してください。

SignDoc

SignDoc は署名をデジタルにキャプチャして管理、確認することでビジネスプロセスのスピード アップ、ミスの撲滅、ドキュメントの改ざん防止を実現するソリューションです。

TotalAgility と SignDoc を結合すると、情報量の多い顧客とのやり取りを簡略化して、完全にデジタル化された効率的かつセキュアなエクスペリエンスを実現できます。

KCM

KCM (Kofax Communication Manager) では、顧客とのコミュニケーション ドキュメントの定義、作成、管理、配布を行うことができます。

TotalAgility を KCM 製品と結合すると、次のことが可能になります。

- KCM で定義したテンプレートを活用して TotalAgility でドキュメントの作成を開始する。
- オンデマンド (プロセスを使用) または対話形式 (フォームを使用) でドキュメントを作成する
- TotalAgility を使用して別のシステムからデータを取り込んで KCM に渡し、ドキュメントを生成する。
- 配布前にドキュメントをレビューまたは再生成する。
- 作成手順の一環として、または後日にドキュメントを配布する。
- SignDoc を使用して電子署名用ドキュメントを配布する。

インポート設定

POP3、IMAP、SMTP、MS Graph、FAX サーバー、フォルダ、Exchange Web サービス経由でドキュメントを受信するように、TotalAgility を構成できます。各外部システムには、ビジネス ドキュメントの受信時に TotalAgility プロセスを作成する構成設定が用意されています。

注 インポート設定が利用できるのはオンプレミスの TotalAgility のみです。Azure 環境の場合、インポート設定はオンプレミスの統合サーバー経由でのみ利用できます。

TotalAgility 統合サーバーのインポート ソース設定は、オンプレミスの TotalAgility の場合と同じ方法で構成できます。統合サーバーでイベントが発生すると、アクションが Azure 上で実行されます。

アクティブ インポート ソースまたはパッシブ接続設定がサポートされます。

アクティブ インポート ソース

アクティブ インポート ソースは TotalAgility 内のサービスとして実行され、外部システムから送信されたメッセージを受信します。構成可能なインポート ソース タイプは、インポート接続ごとに 1 つのみです。

アクティブ インポート ソースには次のものがあります。

- 簡易メール転送プロトコル (SMTP)
- FAX オーバー インターネット プロトコル (FoIP)

電子メール用インポート コネクタを構成すると、電子メールの本文をそのまま使用してドキュメントを作成できます。生成されるドキュメントの MIME タイプは、電子メールの形式 (テキスト、RTF、HTML) によって決まります。

- 電子メールの本文の形式がテキストの場合は、生成されたドキュメントに対して分類または抽出を実行できます。ドキュメントに対してイメージ処理を実行すると、任意のキャプチャ クライアント アクティビティでそのドキュメントを表示できるようになります。
- 電子メールの本文の形式が RTF の場合は、キャプチャ アクティビティへの送信前に、サポート対象形式に RTF ドキュメントを変換するカスタマイズを指定します。

- 電子メールの本文の形式が HTML の場合は、ドキュメントに対するイメージ処理後に、ドキュメントに対する分類または抽出や、任意のキャプチャクライアント アクティビティでのドキュメントの表示を行えるようになります。

パッシブ インポート ソース

パッシブ インポート ソースは、TotalAgility によりポーリングされ、メッセージを取得します。1 つの Message Connector に対して、1 つまたは複数のインポート接続を構成できます。各インポート接続には、Message Connector および 1 つ以上のインポート ソースに関する設定が含まれます。

パッシブ インポート ソースの設定には次のものがあります。

- Post Office Protocol (POP3)
- インターネット メッセージ アクセス プロトコル (IMAP)
- Exchange Web サービス (EWS)
- MS Graph
- FAX
- ファイル

リンク済みサーバー

個別の 2 つの TotalAgility インストール (オンプレミス、オンプレミス マルチテナンシー、または Azure) 間で双方向リンクを定義し、リンク済みサーバー間でドキュメントを移動すると、高速リモート スキャンを行うことができます。

リンク済みサーバーは、オンプレミス、オンプレミス マルチテナンシー、および Azure の組み合わせで構成できます。ただし、オンプレミス マルチテナンシーから Azure へのリンク、またはその逆のリンクはサポートされていません。

分散環境 (アプリケーションと Web サーバーが別々に存在している環境) では、リンク元および/またはターゲット URL で Web サーバーを参照する必要があります。

オンプレミス マルチテナント環境と Azure 環境では、リンク元および/またはターゲット URL でテナントを参照する必要があります。

ライセンス プロキシのインストールについては、『Kofax TotalAgility インストール ガイド』を参照してください。

Micro Focus Content Manager

TotalAgility は、すぐに使用可能できる包括的な Micro Focus Content Manager システムとの統合機能を備えています。

注 Micro Focus Content Manager を利用できるのはオンプレミスの TotalAgility のみです。オンプレミス マルチテナント環境および Azure 環境で実行されている Designer では利用できません。

TotalAgility と Micro Focus Content Manager を統合すると、ユーザーは、ドキュメントの作成から破棄までのライフサイクル全体を通じて電子ドキュメントとレコードを効率的に管理できます。

1 つ以上の Content Manager システムに接続して、Content Manager 内の 1 つ以上のファイル プランの場所にアクセスできます。

CMIS

CMIS (Content Management Interoperability Services) は、ECM システム間の相互運用性について定めた規格です。既存のコンテンツ管理システムおよび関連するプログラマティック インターフェイス上のレイヤーとして設計されています。CMIS では、コンテンツ管理システムの汎用機能一式、およびこうした機能を使用するサービス一式が定義されています。

組織に導入されているエンタープライズ コンテンツ管理 (ECM) システムは、それぞれの要件や予算によって異なります。また、ECM の設計やアーキテクチャ、規格、他システムとの連携方法もそれぞれに独自のものとなっています。したがって、共通インターフェイスにより各種 ECM と連携可能な単一のツールを構築することは、往々にして困難です。

TotalAgility の CMIS 結合機能を使用すれば、CMIS 規格に準拠しているあらゆるサードパーティ製ドキュメント管理製品 (SharePoint など) と結合が可能です。これにより、TotalAgility 内から共通インターフェイスを使用して、複数の CMIS 準拠システムの構成や各種ドキュメント管理製品の管理を行えます。

また、ドメインをまたいで TotalAgility と CMIS 準拠サイトを連携させるには、SSL の構成が必須です。

TotalAgility には、さまざまな CMIS 結合ノードが用意されています。これらのノードを使用すると、次のことが可能です。

- CMIS 準拠サイトにドキュメントを追加 (アップロード) する
- CMIS 準拠サイト上のドキュメントのプロパティを更新する
- CMIS 準拠サイトからドキュメントのコピーを取得する/ドキュメントをチェックアウトする
- CMIS 準拠サイト上のドキュメントを検索する
- CMIS 準拠サイトのドキュメントのチェックアウトをキャンセルする
- CMIS 準拠サイトにドキュメントをチェックインする
- CMIS 準拠サイト上にフォルダを作成する

SharePoint

TotalAgility を SharePoint と結合することで、ビジネス プロセスの効率とチームの生産性を高められます。たとえば、ドキュメント ライブラリにドキュメントをアップロードすることや、指定ドキュメント ライブラリへのドキュメントのアップロード時にジョブを自動で開始することが可能です。

SharePoint システムの各種アクションを TotalAgility から直接実行したり、SharePoint 内で発生したイベントに対応するように TotalAgility を構成したりすることもできます。

TotalAgility と SharePoint サイトで通信を行うには、適切なアクセス許可が必要になります。たとえば、読み取りアクセス許可を持つユーザーが実行できるのはサイトとイベントの一覧の表示のみであり、追加、変更、削除の各操作は行なえません。

Dynamics CRM

TotalAgility と CRM との統合機能を利用すると、各種部署エンティティの作成、取得、更新などの CRM アクティビティをエンド ユーザーが効率よく管理できるようになります。

TotalAgility は、すぐに使用できて包括的な Microsoft Dynamics CRM との統合機能を備えています。Dynamics CRM 内で発生したイベントに対応するように、TotalAgility を構成できます。

Dynamics AX

Microsoft Dynamics AX は、各種業界対応の専用基盤を備えた ERP ソリューションです。

TotalAgility は、すぐに使用可能な Microsoft Dynamics AX との結合機能を備えています。Dynamics AX 内で発生したイベントに対応するように、TotalAgility を構成できます。

Microsoft Dynamics AX には次の機能が含まれています。

- 財務管理
- 人材管理
- 製造
- サプライ チェーン管理
- 調達
- プロジェクト管理および会計
- 販売、サービス、マーケティング
- 小売
- ビジネス インテリジェンス (BI) とレポート

Exchange

TotalAgility は、すぐに使用可能な Microsoft Exchange との統合機能を備えているため、お使いのメール サーバーを TotalAgility にリンクすることができます。

これにより、別のアプリケーションにアクセスすることなく、受信トレイから直接タスクやジョブの処理 (ジョブの取得や完了など) を行えます。

特定のメール イベントの発生時にトリガーされるアクションを構成できます。たとえば、受信トレイでの電子メールの受信時に、特定のマップ上に新しいジョブを自動的に作成することができます。

注 Microsoft Exchange は、オンプレミスの TotalAgility のみで利用できます。オンプレミス マルチテナント環境や Azure 環境で実行されている Designer では利用できません。

ControlSuite

ControlSuite と TotalAgility を結合すると、ControlSuite アクティビティから ControlSuite サーバーにドキュメントのイメージやメタデータを送信できます。

ドキュメントを ControlSuite に送信すると、ドキュメント管理システム、FAX サーバー、基幹業務アプリケーション向けの幅広いコネクタを活用できるようになります。また、ControlSuite のプリントキューにドキュメントを送信することもできます。これにより、ControlSuite MFP クライアントをインストール済みの MFP デバイスに対応したドキュメントを収集可能です。

カスタム サービス グループ

カスタム サービス内で使用できるカスタム サービス グループを作成します。カスタム サービス グループ内から Web サービス レファレンスとサーバー変数を追加して、カテゴリに保存できます。

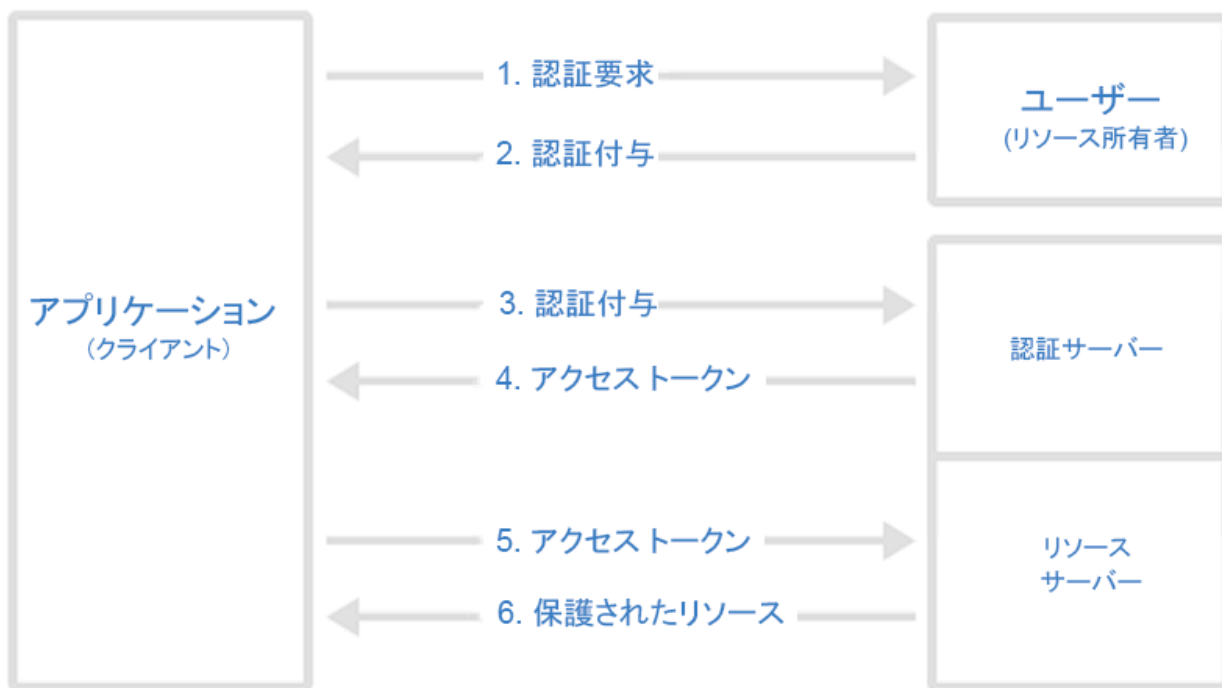
OAuth 2.0 サーバー

OAuth 2.0 認証フレームワークを使用すると、サードパーティ アプリケーションは、リソース所有者と HTTP サービス間の承認インタラクションを調整することによって、または、サードパーティ アプリケーション (クライアント) が認証情報を公開せずに、サードパーティ アプリケーション (クライアント) に代わってアクセスを取得できるようにすることによって、HTTP サービスへの制限付きアクセスを取得できます。

OAuth 認証フレームワークには、次のロールが含まれます。

- **リソース所有者:** リソース所有者は、共有されたデータを所有する個人またはアプリケーションです。たとえば、Facebook または Google のユーザーがリソースの所有者であり、所有するリソースがデータです。
- **リソース サーバー:** 保護されたリソース要求をアクセス トークンを使用して受け入れ、それに応答する機能を持った、保護されたリソースをホストするサーバー。たとえば、Facebook や Google はリソース サーバーです。
- **クライアント:** リソース所有者に代わって、その許可を得て、保護されたリソース要求を行うアプリケーション。ここでの「クライアント」という用語は、アプリケーションがサーバー、デスクトップ、またはその他のデバイスで実行されるかどうかなど、特定の実装に関する特性を意味するものではありません。クライアント アプリケーションは、ユーザーの Microsoft アカウントへのアクセスを要求する TotalAgility です。
- **認証サーバー:** リソース所有者の認証と承認の取得に成功した後に、サーバーがクライアントにアクセス トークンを発行します。認証サーバーは、リソース サーバーと同じサーバーにすることや、別のエンティティにすることもできます。

次の画像は、一般的な OAuth 認証付与フローを示しています。



TotalAgility では、OAuth 2.0 の付与およびさまざまな Restful Web サービスと対話するための認証を取得するメカニズムを定義できます。TotalAgility Web サービス参照に使用可能な「OAuth2」オプションでは、構成済みの OAuth 2.0 認証付与を使用できます。

TotalAgility は、次の付与タイプをサポートしています。

- 更新トークン付与を使用した**認証コード付与**。TotalAgility は、ユーザーによる操作を必要とせずに、システム タスクを介して OAuth 2.0 アクセス トークンを自動的に更新します。
- 更新トークンの付与を使用しない**クライアントの認証情報付与**。
- リソース所有者のパスワード認証情報を使用した**リソース所有者のパスワード**の付与。

TotalAgility は、次の OAuth 2.0 の付与と機能をサポートしていません。

- 更新トークン付与を使用しない**認証コード付与**: この付与は、手動ログインまたは更新トークンによるアクセス トークンの生成をサポートしますが、Web サービスの実行中にユーザーが操作を行うことはできません。
- 暗黙的な付与: この付与は、手動ログインによるアクセス トークンの生成のみをサポートし、Web サービスの実行中にユーザーが操作を行うことはできません。
- OAuth 2.0 の一部の高度な機能は、使用頻度が低いため Kofax TotalAgility では直接サポートされていませんが、OAuth 認証サポートのカスタム オプションを介して使用できます。たとえば、RS512 や RS384 などの署名アルゴリズムによる JSON Web Token (JWT) を使用したアサーションベースの認証を通じて認証できます。

注 TotalAgility は、OAuth 2.0 の SOAP Web サービスはサポートしていません。

OAuth 2.0 認証付与タイプ

認証は、リソース サーバーに関連付けられた認証サーバーとともに、リソースの所有者によってアプリケーションに付与されます。Kofax TotalAgility は、次の OAuth 2.0 認証付与タイプをサポートしていません。

認証コード

この付与タイプは、認証サーバーからアクセス トークンと更新トークンを取得するために使用するもので、機密クライアント用に最適化されています。TotalAgility は、更新トークンによる認証付与のみをサポートしており、これは次のことを意味します。

- 設計時にアクセス トークンと更新トークンを生成する必要があります。
- TotalAgility は、更新トークンを使用してアクセス トークンを再生成します。手動での操作は必要ありません。

クライアントの認証情報

この付与タイプは、クライアント アプリケーションがリソースにアクセスしたり、特定のリソース所有者に関係のないリソース サーバーの関数を呼び出したりする必要がある場合に適しています。クライアントは、クライアントの認証情報のみを使用してアクセス トークンを要求できます。つまり、クライアントは、その制御下にある保護されたリソース、または以前に承認サーバーに關与した別のリソース所有者のリソースへのアクセスを要求します。

リソース所有者のパスワード

この付与タイプは、リソース所有者がクライアントとの信頼関係を確立している場合に使用されます。この付与タイプを使用すると、クライアントはリソース所有者の認証情報、ユーザー名、およびパスワードを、通常はインタラクティブな形式で取得できます。また、保存された認証情報をアクセス トークンに変換することにより、直接認証スキームを使用する既存のクライアントを OAuth に移行することもできます。

OAuth 2.0 の仕様に従って、Kofax TotalAgility では、ユーザー名とパスワードはデータベースに保存されません。したがって、TotalAgility は、更新トークンによるこの付与タイプのみをサポートしており、これは次のことを意味します。

- 設計時にアクセス トークンと更新トークンを生成する必要があります。
- TotalAgility は、更新トークンを使用してアクセス トークンを再生成します。